

川崎市立 日本民家園 ボランティア

「炉端の会」20周年記念誌



平成27年 9月 1日 初版

炉端の会 20周年誌 目次

第1章 挨拶

1-1	野田会長	1-1
1-2	教育長祝辞	1-2

第2章 20年を振り返って、草創期の方と歴代会長の思い出

2-1	1G 今村 英男さん	2-1
2-2	1期 清水 年子さん	2-5
2-3	2期 林 宏祐さん	2-6
2-4	2期 渋谷 勇さん	2-8
2-5	3期 高木 昭さん	2-10
2-6	3期 黒田 昭さん	2-11
2-7	3期 由解 哲男さん	2-14
2-8	4期 櫻井 輝夫さん	2-15
2-9	5期 吉沢 晴行さん	2-16
2-10	6期 近藤 達也さん	2-17
2-11	会のはじまりと活動体制の経緯	2-19
2-12	草創期の活動記録	
2-12-1	1グループ結成10年の歩み	2-21
2-12-2	2グループ初期の歩み	2-24

第3章 炉端の会の活動記録

3-1	日常活動	
3-1-1	床上公開	3-1
3-1-2	団体ガイド	3-4
3-1-3	園内ガイド	3-5
3-2	チーム活動	
3-2-1	展示チーム	3-6
3-2-2	フリーガイドチーム	3-8
3-2-3	障子張りチーム	3-9
3-2-4	環境整備チーム	3-10
3-2-5	英語ガイドチーム	3-11
3-2-6	広報チーム	3-13
3-2-7	草バッタチーム	3-15
3-3	その他の活動	
3-3-1	協力者会議	3-17
3-3-2	日本民家園協議会	3-18
3-3-3	生田緑地マネジメント会議	3-19

第4章 民家園行事協力

4-1	春	
4-1-1	春のライトアップ	4-1
4-1-2	お茶作り	4-4
4-2	夏	
4-2-1	納涼民家園	4-5
4-2-2	民家園防災デー	4-6
4-3	秋	
4-3-1	五箇山がやってくる	4-7
4-3-2	船越の舞台公開	4-8
4-3-3	お月見をしよう	4-9
4-3-4	実演「昔の大工仕事」と体験「子ども大工入門」	4-10
4-4	冬	
4-4-1	冬休みの火焚き	4-11
4-4-2	お正月を遊ぶ	4-11
4-5	年中行事展示	4-12
4-6	昔話	4-20

第5章 研修活動

5-1	はじめに	5-1
5-2	園外研修	
5-2-1	園外研修の歴史	5-2
5-2-2	園外研修の記録	
5-2-2-1	平成12年 大和民俗公園他	5-3
5-2-2-2	平成15年 山本家他	5-4
5-2-2-3	平成17年 北村家・岩澤家他	5-4
5-2-2-4	平成18年 広瀬家他	5-5
5-2-2-5	平成19年 太田家他	5-6
5-2-2-6	平成20年 佐々木家他	5-7
5-2-2-7	平成21年 作田家他	5-8
5-2-2-8	平成22年 鈴木家他	5-10
5-2-2-9	平成23年 三澤家他	5-14
5-2-2-10	平成24年 江向家・山田家・野原家他	5-18
5-2-2-11	平成25年 工藤家他	5-21
5-2-2-12	平成26年 菅原家他	5-23
5-3	学習会の記録	5-25
5-4	新人研修（第15期）	5-33

第6章	20周年行事	
6-1	記念撮影	6-1
6-2	記念式典	
6-2-1	当日プログラム	6-5
6-2-2	挨拶	
6-2-2-1	会長挨拶	6-6
6-2-2-2	市長挨拶	6-7
6-2-3	園長記念講演	6-9
6-2-4	市長感謝状	6-14
6-2-5	永年活動者名簿	6-15
6-3	懇親会	6-16
6-4	記念植樹	6-17
第7章	川崎市文化賞受賞	
7-1	受賞の知らせ	7-1
7-2	贈呈式	7-2
7-3	副賞	7-4
第8章	資料	
8-1	20年歴史年表	8-1
8-2	炉端の会活動状況	8-7
	編集後記	編集 1

第1章 挨拶 目次

1-1	野田会長	1-1
1-2	教育長祝辞	1-2

第1章 挨拶

1-1 会長挨拶

「炉端の会」創立20周年によせて

炉端の会 会長 野田 滋郎

今から20年前、平成6年、1994年8月に「炉端の会」は発足いたしました。それから20年、現在では会員数250名を数えるまでになりました。炉端の会の会員の方々は、人生経験が豊富で知性、知識、教養に溢れ、多くの才能を持ち、積極的で、人柄も良く、ボランティア精神に溢れた方ばかりで、その結果、炉端での活動に於いて充実感、躍動感、生き甲斐、やり甲斐を感じる事が出来る素晴らしい団体になりました。

「炉端の会」が古民家の囲炉裏に火を焚いていないと、まさしく「火の消えた（ような）家」です。「炉端の会」は民家園だけではなくお客様にとっても、なくてはならない存在になっています。また、入園者への積極的で親切な対応で、お客様にも満足いただけるように努力し、少しでも民家園のイメージアップと来園者の増加に努めている積もりで活動しています。

これも炉端の会会員の方々と園の職員、指定管理者の皆様の協力、努力の賜物と思います。

また、これらの努力が認められ、名誉ある「川崎市文化賞」を受賞しました。

本年、川崎市は市制90周年でもあります。「炉端の会」も20周年という節目をお祝いすると共に、日本民家園も3年後には開園50周年を迎えることとなります。

これを機に10年後の30周年に向けて、ますます楽しくやり甲斐、生き甲斐とドキドキ、わくわくする活力のある団体として発展するよう、皆様と共に邁進して行きたいと思っております。

今後とも「炉端の会」の活動を見守っていただくと同時に、ご理解、ご支援、ご協力をよろしく願いたします。

平成26年9月

1-2 教育長祝辞

お祝いのことば

川崎市教育委員会 教育長 渡邊 直美

炉端の会が、この度、20周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

日本民家園は、25件の古民家など文化財建造物を移築公開し、日本有数の野外博物館として高い評価を受けておりますが、それも炉端の会の「古民家に息吹を灯す」活動に支えられてのこととっております。古民家を守る囲炉裏での火焚き、来園者をもてなす園内のガイド、畑や展示の整備など、炉端の会の多彩な活動が、日本民家園の大きな魅力となり、多くの方に喜んでいただいておりますことを心から感謝申し上げます。

また、これまでの活動が高く評価され、平成26年度の川崎市文化賞を受賞されたこと、重ねてお喜び申し上げます。

日本民家園は海外からも多くの方にご来園いただき、今後とも日本の文化を発信する博物館としての役割はますます広がっていくと思っております。また、地域の方々に生涯学習の場として様々に利用していただきたいとも念願しております。今後とも貴重な文化財である古民家の魅力を永く伝え、魅力あふれる民家園とするために、引き続きお力添えをいただきたく、お願い申し上げます。

20周年と川崎市文化賞受賞が新たな契機となり、さらに多岐に亘る活動が展開され、皆様方がより一層いきいきとご活躍されることを心より祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

平成27年3月31日

第2章 20年を振り返って草創期の方と歴代会長の思い出 目次

2-1	1 G 今村 英男さん	2-1
2-2	1期 清水 年子さん	2-5
2-3	2期 林 宏祐さん	2-6
2-4	2期 渋谷 勇さん	2-8
2-5	3期 高木 昭さん	2-10
2-6	3期 黒田 昭さん	2-11
2-7	3期 由解 哲男さん	2-14
2-8	4期 櫻井 輝夫さん	2-15
2-9	5期 吉沢 晴行さん	2-16
2-10	6期 近藤 達也さん	2-17
2-11	会のはじまりと活動体制の経緯	2-19
2-12	草創期の活動記録	
2-12-1	1グループ結成10年の歩み	2-21
2-12-2	2グループ初期の歩み	2-24

第2章 20年を振り返って、草創期の方と歴代会長の思い出

2-1

20周年記念に思う

第1グループ 土・日曜 今村英男

(第1グループ会長：平成6年8月～同11年4月)

「炉端の会」の皆さん創立20周年をむかえ、その活動に対し、川崎市から「文化賞」の受賞おめでとう御座います。最近では会員数が発足時の5倍250名となり活動範囲も古民家の床上公開にとどまらず、園内案内や各種イベントとの協働、さらにはインターネットの「ホームページ」立ち上げによる発信力の強化など、活動基盤の強化充実を図られていることに敬意を表するとともに、民家園のよきパートナーとしてますます発展されることを祈念いたします。

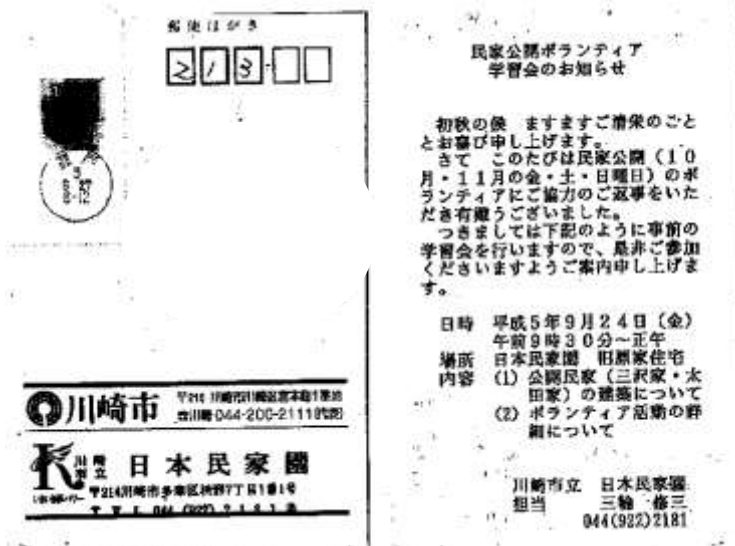
さて、ここからは20年前に遡り、私が民家園のボランティア活動に関わった頃のものを整理し紹介したいと思います。

1 民家園からの1枚の「はがき」からはじまる

「民家公開ボランティア学習会のお知らせ」登戸局平成5年8月27日(消印)は、平成6年8月26日ボランティア「炉端の会」が、原家2階で会員50名により設立総会が開催された日の1年前でした。

こうして見ると前述の「はがき」によるボランティア(以下仮ボランティア)は「炉端の会」発足の準備段階という位置づけになります。参加したのは市の生涯学習事業団と民家園共催の市民アカデミープレ講座「民家—ハレとケのフォーラム」(平成5年5月～7月)終了時、民家園側からボランティアの呼びかけがあり、私を含め14名(男性4名女性10名)がボランティア学習会を受講しました。

以下この講習会終了後の床上公開は次のとおりでした。



- ① 「平成5年秋の民家園祭り」に合わせたの床上公開・平成5年10月1日～同年11月27日17日間毎週金・土・日曜日の3日間（旧三澤家10月・旧太田家11月）
公開日毎に3～4名延76名
- ②雪囲い展示 平成5年12月5日～平成6年3月27日の日曜日
旧山田家・旧菅原家 17日間 公開日毎に2名延34名
- ② 床上公開 平成6年4月17日～同年6月5日の各日曜日 旧三澤家
12日間 公開日毎に2名延24名
なお大型連休中の5月5日が私の当番日（2名）で、「朝から続々と見学者がおとずれ計数器のカウントも2000人を超え、一時は床上が立錐の余地もなく、対応する暇もない状況に、うれしいやら驚くやらの1日でした。
- ④民家園講座応援 平成6年6月11日～同7月9日旧作田家 土曜日7日間
講座受付・資料配布・囲炉裏の火焚き・公開日毎午前・午後各2名延28名

以上のように仮ボランティアによる床上公開は「炉端の会」発足前の1年間に、床上公開延75回活動人員延136人に及び、本格実施時には各班（火～金の4班と土・日の1班計5班）に、これら経験者を配置し、新会員とともに協働し火焚きなどの実務を体得して貰った結果、新組織による床上公開は短期間に定着することができました。

2 「炉端の会」生みの親・職員 三輪修三氏について（平成10年4月館長）

民家園の仮ボランティアから会員50名の「炉端の会」という新組織を立ち上げを積極的に進められ、現在250名を擁する会に発展する基礎固めをされた「炉端の会」の生みの親、民家園職員の三輪修三氏についてご紹介します。

氏は川崎市教育委員会の学芸員として、市域の史跡・文化財の発掘・調査・研究・市史の編纂、また市民ミュージアム・民家園における博物館業務・川崎市民アカデミーの講師（川崎学）のほか、川崎の郷土資料に基づく著作の刊行などにより、幅広く川崎地域史の啓蒙活動をされ、現在も元気で多摩区にお住まいでいらっしゃいます。

このような豊かな学識ならびに博物館活動の経験をふまえ、「炉端の会」の立ち上げにあたって、会員の小グループの見学会・毎年の団体見学会参加や案内役、ときには飲みにケーションへの参加など会員との交流を重ねられ、会員が楽しくボランティア活動に参加する雰囲気づくりに積極的に取り組まれ、そうした気風の定着と会員の努力、さらに炉端の魅力、また民家園全職員のご協力により、和気あいあいの「炉端の会」が誕生したのだと思います。

ここで語るのは、三輪氏に、仕事で当然のことだとお叱り受けることです。しかし当時の全会員の気持ちだと思いましたので、敢えて書くことにいたしました

た。こうしたなかで、会長として「炉端の会」の誕生の、お手伝いをさせて頂いたことに、いまは感謝の気持ちで一杯です。

以上いろいろと述べましたが、なにか手前味噌的な話になり恐縮しています。

(参考)

のほろろ市政アカデミー
25年度講師紹介

<u>三輪 修三</u>	
肩書：	歴史研究家
経歴：	国学院大学文学部史学科卒業 塩釜神社付属博物館学芸員 川崎市民ミュージアム学芸員 川崎市立日本民家園学芸員、同団長を経て退職 東京都立大学、川崎市立看護短期大学非常勤講師
主な著書：	『東海道川崎宿とその周辺』（文献出版、1995年） 『川崎——歴史と文化』（多摩川新聞社、1995年） 『多摩川——境界の風景』（有隣堂、1988年） 『古刹影向寺』 『日本仏教美術史覚之書』
アカデミーでの出講：	15前期：学び・歩くかわさき（川崎学）講座、歴史（川崎学）講座 10前期：歴史（川崎学）講座 09後期：歴史（川崎学Ⅰ）講座 09前期：歴史（川崎学Ⅰ）講座



1998年（平成10年）1G 京都 平等院見学

3 「炉端の会」名づけの由来など

- ① 平成6年1月21日 園との新年会が開かれ仮ボランティア組織化の話し合いで、名前についてメンバーの高橋さんから一囲炉裏は火があって、はじめて「炉端」になる一との発言で決りました。(国語辞典・ 囲炉裏は火を燃やす装置)
- ② 会員の構成ですが、スタート時50名で男性4:女性6、現在は250名で男性6:女性4と逆転しているようです。年齢は?
- ③ 時期は忘れましたが、囲炉裏の薪が不足し家の廃材を使用したことがあります。そうすると煙や匂いが一変し、床上公開の魅力が半減することを経験しました、やはり薪は、ナラ・クヌギ・ケヤキなどが、炉端にはピッタリだと強く感じました。
- ④ 別添、荒川さん(床上公開活動21年)の「神奈川新聞への寄稿記事・民家の保存手伝い20年」を御覧ください。

以上

■民家園の保存手伝い20年

主婦 荒川 洋子 72 (川崎市)

日本民家園(多摩区)で市民アカデミープレ講座を受講したところ、修了生に野外博物館を守る手伝いをしないかとの呼び掛けがあった。20人近くが快諾。早速活動を始め、「炉端の会」との名称で会を結成したのは20年前の事である。

週1回、古民家の土間や床拭き、いろりにまきをくべ、来客に簡単な説明をする活動だった。一期一会のお客さんのお相手をしているうちに、故郷恋しくなじめなかった川崎に、私はしっかり根を下ろしてしまった。

結成1年目に園では正式な民家園ボランティア養成講座を開催し、会員は50人に膨らんだ。仲間が増えると、個々の趣味や特技、スキルも多彩で活かす道も多く、活動分野は広がった。イベントは来客に喜ばれる居場所、癒しの場となり、博物館は生き返った。

一方、私は仲間にも刺激され活動は枝葉を伸ばし、今や区役所のまちづくり協議会メンバーとしても活躍している。民家園は私のボランティア活動の原点。「炉端の会」会員は250人以上になり、2014年度の川崎市文化賞を受賞した。

神奈川新聞 2015年1月27日 より転載

私が民家園に行き始めたころは、入園無料の時代でした。府中街道から細い道を歩いて入園者の少ない静かな佇まいが好きでした。月日を経て、のちに園長になられた三輪修三先生の構想で炉端と掃除を試して、その後すぐに第一回の講座があり、当時の名簿によると、六十数名で「炉端の会」と名乗って発足しました。私は囲炉裏は生まれて初めて...



上の写真は、三澤家当主と三輪先生（1999/1/19）

三人の学芸員先生の後について三人三様のとても参考になった事でした。

掃除はお手の物ですが、間もなく糠袋も作りました。

研修旅行で最初に伺ったのが「三澤家」。倉の中の古銭を二枚づつポチ袋に修めてお土産に頂いたのには驚きと感激でした。

「岩澤家」と「原家」の解体も見学しました。大好きな「船越の舞台」、一日中一人でガイドをしたことがあります。現在の「炉端の会」の成長と発展、川崎市文化賞受賞、益々の会の皆様のご活躍をお祈りいたします。



「菅原家」の移築と一緒に「民家園」に来たカタクリ、菅原家の入口の右の脇に毎年カタクリの咲くのが楽しみでした。でも年々花の数が少なくなり二輪になってしまっ

て、次の年には咲いてくれませんでした。上の写真は、岩澤家解体の様子（1987/7/7）（寂しかった思い出）

炉端の会「2期」は、平成10年4月「炉端の会」第2グループとして発足しました。第2グループは責任者をリーダーと呼び、第1グループは会長であり、その後の第3グループも会長と称されました。その後の各期も会長でした。

囲炉裏の火焚きの実施日は活動の基準として、火曜日班～金曜日班の各曜日班をA・Bに分けて火曜A班・火曜B班と8班編成とし、各曜日2棟焚きを実施しました。その他各月の(土)(日)の内、1日を活動日として、1ヵ月合計5～6日が火焚き日で、例会日としてプラス1日が民家園に来る日でありました。その他の囲炉裏の火焚き活動日として、ゴールデンウィークと民家園祭り等、民家園行事に協力し増棟した古民家の火焚きをして活動日を増加しました。団体案内は1年経過後に実施を開始しました。

当時、木下職員(現園長)より「民具整理」の手伝いの依頼が有り、1ヵ月5日程度の日程で夏場を中心に2年ほど作業の手伝いを行いました。作業日は例会日に告知され希望者を登録して実施しました。作業内容は各古民家収納民具、品目毎の台帳の照合、梱包整理の実施でした。この「民具整理」の作業の実施で、グループ内の各当日班の理解、交流が深化し以後のグループが円滑化されたと考えます。

例会は各1～3グループ別に曜日を変えて行われました。内容は定例連絡と打ち合わせと学習と称して勉強会が行われました。三輪修三氏が園長であり、直接勉強会を指導されました。三輪園長は「仏教美術」に造詣が深くその道の専門家で、我々も「仏教美術」に興味を持ち、寺院建築様式と仏像の鑑賞等々と合わせて古民家の建築について学習を行いました。

また平成11～12年1月例会で園長持参の「木製」の昔のカルタでカルタ大会が行われ、楽しみました。

例会での学習を通じて第1、第2グループ合同での園外研修会の実施が行われました。研修先として大阪服部緑地の日本民家集落博物館、京都の東寺等々を選定しました。三沢家へも研修先として訪問して、ご当主にお会いして当時の三沢家の様子を語っていただきました。



カルタ大会



三沢家訪問、伊那部宿集合写真

その後の園外研修会は幾多も行われました。関西圏では京都・奈良を重点的に東寺の佛像曼荼羅、新護寺、清水寺、広隆寺、壬生寺等々、西本願寺では御影堂の改修現場の足場の最上階で屋根の傾斜を間近で観察でき、非常に感動しました。その後、奈良の唐招提寺でも平成の大改修が行われており工事現場の研修会が行われ、東大寺南大門、大仏殿、二月堂・三月堂等々研修会が、関東圏でも鎌倉の円覚寺、建長寺、極楽寺、足利のばんな寺、山梨の大善寺、東京国立博物館での「仏教美術」関連の園外研修が行われました。

その延長線上に中国敦煌・西安園外研修会が行われました。

・平成13年5月 中国敦 煌・西安園外研修

西安・大雁塔、陝西歴史博物館、兵馬俑、青龍寺等々。

蘭州・・・黄河、嘉峪関。

敦煌・・・莫高窟で5回の見学研修会、玉門関をへて万里長城最西の果てを見学。

・2期 周年行事

平成20年2月 2期 10周年記念園外研修会

奈良、井岡家・・・井岡家跡地検地、東大寺南大門、大釣鐘、元興寺、大安寺、醍醐寺等々で園外研修。

平成24年4月 2期 15周年記念園外研修会

京都、美山・・・美山茅葺民家に体験宿泊、伊根舟屋、天橋立周辺等々で園外研修。

(平成26年12月)



大雁塔前集合写真

第二グループ（2期）は、平成10年4月より活動開始しております。今年4月で18年目に入ります。第二Gの新年会も参加メンバーも激減しましたが、実績と経験と意欲でまだまだ頑張りますので宜しくお願い致します。

最初は、何も全く分からず無我夢中でありました。（現在は先輩各位がアドバイスをしてくれますので安心です。しかし、アドバイスには、ガサネタも多くよく確認してから受け入れる事、念の為。）当時は文化財の維持保存が優先していた時期でした。現在は活用を重視して保護する傾向が強くなっております。

因みに、「文化財保護法第一条」では、「この法律は文化財を保存し、且つその活用を図り、もって、国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献する事を目的とする。」とあります。

日本の木造伝統工法で造られた古民家は、適正に維持管理すれば、数百年は維持できると言われております。朽ち果てるのは簡単、維持するのは大変である事を痛感しております。炉端の会で保存活動に携わる事ができ、重い責任を感じると共に生きがいの一つでもあります。（民家は日本の住文化の結晶であり、一度失われると取り戻す事が出来ない。）

また、園外活動も多々行って来ました。三輪先生にガイドをお願いして、奈良を中心に奈良の柳生街道沿いの旧井岡家も含む神社仏閣巡りや、わが国最多の茅葺き民家の残る京都美山町の北山型入母屋造り民家集落と、現在茅葺民家では最も古い民家といわれている重文・石田家住宅（慶安3（1650）年3月11日の墨書）（写真参照）に行きました。その他、伊根町の舟屋の残る漁村等にも行きました。

↓ 石田家住宅見学写真



また、木曜班としても学習会、親睦会、飲み会も兼ねて数知れない程の、園外活動を行ってきました。今後も続けて行ければ良いと思っております。特に、三溪園のガイドスタッフとの意見交換会などは、思い出の一つであります。

祖先が創造し、遺してきた文化財を常に身近に享受できる都市の市民は幸せであります。昭和26年の企画立案から始まって64年、日本民家園も開園から早や50周年が近づいてきました。多くの方々が携わり努力のお陰で市民が誇れる、日本で最大級の民家園に発展しました。さて、今後50年先までどのように維持保存して、後世に継承する事が出来るかを肝に銘じて、50年後に現在我々が行っている炉端の会の活動が高く評価される事を期待して微力ですが楽しみながら頑張りたいと考えて居ります。

今後の課題としては次のような事が考えられます。

- 1) 高度な長期ビジョンを明確に打ち出す事。
- 2) 創造性と自主性を持った強いリーダーシップ。
- 3) 更なるお客様満足度の向上。
- 4) 生田緑地全体の総合プロデュースシステムの推進。
- 5) 今後益々経費の増大が見込まれるので、市民が納得し誇れる運営の継続。

(平成27年1月)

私が、民家園でボランティア活動をするようになったきっかけは、四十年間あまりの勤務から解放され、「サーこれからどうしようか？」家でゴロゴロしているわけにもいかない。そんな折から、妻が区の広報紙の片隅に“ボランティア募集”の記事を見つけ、「これでも行って見たら」の一言でその気になってしまった。決して、社会奉仕とか、世の為人の為とかいう高尚な動機からではなかった。

振り返ってみると、昨年で十五年の月日が流れましたが、こうした永年の活動に従事出来たのは、私を結びつける「三つの要因」がありました。



(写真は平成の大修理)

まず、一つ目は、気持ちの上で徐走をつけてくれた三輪先生の講和であった。毎月、定例会の後半に、日本人の生活文化や宗教、寺社建築棟のお話で興味をそそるものばかりでした。園外の研修では「西本願寺御影堂平成の大改修」を目の当たりにしての解説は思い出深いものがある。工事現場の足場骨組みを十メートルばかり上って見た大屋根の曲線は、スキー場のゲレン

デを思い起こさせるほど大掛かりなものであった。

二つ目は四季折々の風情を肌で感じ採ることが出来ることです。

- 春には、草木が清新の気にあふれ、早朝、小鳥の合唱に迎えられる。
- 夏には、囲炉裏端で涼風を感じ、土間に入ると“ひんやり”とした感触。
- 秋には、彼岸花に旧民家の住人を想い、“すすき”に命のはかなさを憶える。
- 冬には、合掌家に積もる雪景、つるべ落としの夕日を軒下に眺める。

三つ目は、ボランティアの仲間達のほかに、多方面から訪れる多くの人々との出会いがあります。活動の当初の頃は、間違っただけを説明されると困るから、「来園者とあまりしゃべらないように」と指導を受けた時期もありましたが、今では園内ガイドなどで、積極的に民家園をアピールするようになってきています。

私ごとですが、来園者の中で、古民家に大変興味をお持ちの方と遭遇し、京都南丹波の「美山の郷」の話が出た折、私はあそこにはまだ行った事ありません。あそこは、鉄道も幹線道路も無く不便なところと聞いていますが…と云ったところ。「是非行ってみてください、私が車で案内しますから」と云いながら名刺をくださいました。この方は、京都在住で建築事務所勤務の一級建築士の方でした。

こうした出会いも、古民家からの会話が出発点でした。人々の心をなごませ、いにしえの生活文化を伝えるこうした施設は、後世に残していきたいものです。

平成11年第3グループの募集があり、第2グループの応募で抽選に洩れた人、新たに申し込んだ人で6月から養成講座が始まりました。

6月18日から毎週金曜日午前2時間、午後2時間、8日で合計32時間の勉強の後炉端の会に登録されて、基本的には5年間のボランティアとしての活動開始となりました。

講座終了時に、ガイド中心の活動でなく囲炉裏での火焚きが中心の活動と判明してボランティアにならなかった人もいた。結果的に55名が、約10名/曜日の構成となった。

第3グループの募集は、第1グループの方達の5年の年期奉公明けの欠員補充が主眼だったが、退会する方が少なく、第1Gと第3G、第2Gの2グループ構成で、当番棟の割り付けが行われこれに従って活動した。棟の順番はほぼ2週間ごとに変わるが、第1Gが1週間、第3Gが1週間担当した。

炉端の会会員証が、養成講座を全日程受講し、「炉端の会」に登録した人に園長から交付された。平成11年9月1日からで割印があり、会員番号があります。私の場合20番です。

5年間の年期奉公と期間が示されたが、5年経過後なんの通達もなく、なし崩しで継続活動に入った。

平成17年4月に、4期、5期の方々の参加があり、1~3Gのグループ毎の活動でなく、曜日班ごとの活動に変わり、第3グループとしての活動は終了した。グループ名はなくなり期の呼び方になりました。

活動

9月から活動開始。最初の当番棟は岩沢家だった。何年たっても思い出します。

担当曜日と土日班の応援で、棟のスケジュールに従って活動した。

火焚きと室内外の清掃がメインで、説明は、聞かれたら答える。わからない事・曖昧なことは説明しない。(学芸員ではないのだから。誤った情報を伝えない。)民家の保全が中心だから、云われたもの以外の什器・民具などには手を触れない。

室内での飲食は不可。屋外も決められたところのみで飲食。

定例会

グループ毎に実施し、グループ内でのつながりは強いものになった。

交通費も、食事代も金銭的報酬は無く、定例会での学習会が、園からの唯一のリターンである。(ボランティア開始時に予算化しなかったもので、前年度並みの予算というしきたりに縛られて金銭面の裏付けのある報酬はできなかった。元三輪園長が残念がっていた。)

曜日班別構成になったところで定例会は一本化された。

従来からの第1G、第2Gでの活動経過から、慣習的にルールが出来ていたにもかかわらず、新規参入・若さの至らなさ・怖いもの知らずで種々の提案を行った。ほとんど実現を見なかった。

心掛けていることは、民家の保全、来園者に楽しいひと時といい思い出を！！

私たちは、民家園から何を学ぶのか？ 民家園に何を提供できるのか？ 毎日が学習です。

年を重ねると、惰性に流れがちですが、皆さんのサポート役に留意します。

民家園のホームページに記載されている日本民家園の使命には、

『 日本民家園は、市民の文化・学術・教育の向上に寄与するため、つぎのを行います。』

1. 主に江戸時代の古民家を移築復原し、良好な状態で後世に伝えます。
2. 古民家・伝統的生活文化にかかわる資料を調査収集し、展示・普及活動を行います。
3. 日本を代表する民家博物館として、国内外に情報を発信します。
4. 生涯学習やくつろぎの場として、地域に親しまれ必要とされる博物館を目指します。』

と書いてあるので、

活動について迷った時は、この使命に戻って考えて行動すればよいのだと思っています。

添付資料：養成講座日程表

木下園長が民俗資料の講義を担当されていました。

2015年2月16日

日本民家園ボランティア養成講座					
日程表					
実施日		午前(10:00~12:00) 内容	午後(13:00~15:00) 内容		
6月	18日(金)	オリエンテーション 園の内容 杉田	園内見学(1)	杉田・中川	
	25日(金)	炉端の会について 杉田	民家について(1)	野呂瀬	
7月	2日(金)	民家について(2) 野呂瀬	民家について(3)	野呂瀬	
	9日(金)	園内見学(1) 三輪・野呂瀬	園内見学(2)	三輪・野呂瀬	
	16日(金)	民家について(4) 三輪	土間・納戸・階段について	三輪	
	23日(金)	炉端の会見学 杉田	民俗資料について	三輪	
	30日(金)	民俗資料について(1) 木下	民俗資料について(2)	木下	
8月	6日(金)	班編成・会員証の交付 杉田	会員との交流会	杉田	
平成11年民家園養成講座資料からの復刻					

発足年度の異なる三つのグループ毎に曜日班を編成して、日本民家園内の国乃至神奈川県指定の重要文化財を多数含む古民家の燻煙・清掃に当たってきた約10年を経て、グループの枠を取り外し炉端の会としてひとつにまとまって曜日班編成をすることとなり、統一後の初代会長を務めることとなりました。

ここまでの約10年日本民家園への来園者数の頭打ちが続いており、貴重な文化財をもっと多くの人達に見学いただき親しんでいただくことを目指して、民家園内部でアイデアを出し合って協議・検討されていると耳にしました。

炉端の会が一本化したことで炉端の火焚きにとどまらず幅広い活動の余地ができたこと、また、日常炉端におればこそ来園者の声を直接聞きニーズに応えることが出来ると考え、民家園とひとつになってアイデア・智恵を出し合おうと「民家園協力者会議」に積極的に参加し協議・検討を重ねました。

当時予算の裏付けは期待できず金のかからない、すぐに実行可能なことから順次スタートすることで「園内ガイド」「園内環境整備」「展示品清掃・整備」等のチームが誕生し曜日班の枠を超えた活動の場が出来ました。

従来の曜日班の火焚き活動がタテ糸となり、チームそれぞれの活動がヨコ糸となり炉端の会の一体感が更に強まり以後の会の活動の原形が出来上がりました。

その後も新しいチームの編成があり来園者対象の民家園催事への積極的参加・協力等活動分野は広がっており、これからも益々の発展を期待しています。

炉端の会には、お互いに異なった体験・経歴・技能に優れたメンバーが多数おられ、多岐多数のアイデアの提供をいただき、また、各チームのリーダーとして活動いただき、3年間の会長を大過なく務めることが出来、本当に幸いだったと当時がなつかしく思い出されます。

ボランティア活動はやれる時にやれることをやりがいをもってやるのが大切で、チーム活動、民家園催事への参加・協力は歓迎ですが、園内古民家の燻煙・清掃こそ炉端の会発足以来20年間の一貫したメイン活動であり各自事情の許す限り、誇りを持って長く続けていただくことを期待します。



私が「炉端の会」の四期生（土曜班）として仲間入りしたのは、平成16年の秋でした。そして20年4月に由解さん（金曜班）から会長のバトンを渡され、22年4月に吉沢さん（木曜班）に引き継ぐまでの2年間の一部を、思い出すままに書いてみました。

（研修旅行のおもいで）

毎年11月に行う研修旅行は、平成20年は信州佐久の「佐々木家」と北国街道の宿場「海野宿」でした。（参加者約100名、バス2台、日帰り）

先に寄った海野宿は道の真ん中に用水路が流れ、古い建物の街並みには火災の時、類焼を防ぐための「卯建」を立ち上げた家もあり、宿場町の雰囲気の色濃く残っていました。

佐々木家では、ご当主の佐々木嘉幸氏は、ご高齢ですが大変お元気で、現地の歴史や旧佐々木家住宅について詳しく説明していただきました。

千曲川の河畔には、佐々木家の功績を顕彰するための筆塚の石碑も残っており、ご先祖が代々住民の為の教育等を含め、地元で果たした役割の大きさを実感しました。

翌21年の研修旅行は、房総九十九里浜の「作田家」と南房総市の「旧尾形家と石堂寺」でした。（参加者104名、バス2台、日帰り）

作田家では、ご当主で現在は醸造業を営む作田倉治氏から、民家園へ移築前の旧作田家住宅の立地状態や当時の環境、建物を囲む濠跡の残された一部や池の跡等、現地ならではの話が聞けました。その後、九十九里の浜辺で、地元の歴史研究家で高校の先生が、昔の地引網漁や当時の漁業について詳しく解説してくれました。

南房総市にある石堂寺は、本堂・薬師堂・多宝塔など国指定重要文化財が数ある古刹で、その広い境内に近隣から移築された、旧尾形家住宅（築約280年、茅葺、分棟型で国指定重要文化財）が良い状態で保存されていました。

（かわさきボランティアフェアへ出展）

平成20年秋、市民センターからボランティアフェアの出展案内が届き「炉端の会」として初めて出展しました。

フェアは、川崎市のボランティア団体が活動内容を紹介し、広く知ってもらうのが目的であり、約50団体が参加しました。

われわれの展示内容は、民家園の四季と炉端でのボランティア活動を紹介する写真パネル、炉端のメンバー栗原さん製作の精巧な古民家模型、草バツタの製作実演と配布、牛乳パックの再生利用のコースター配布等でした。

後日主催者から来場者のアンケートの結果、展示内容・やりたいボランティアとともに、民家園の炉端の会が一位だったとの連絡が届きました。

このボランティアフェアへの参加は22年まで3回で終了しましたが、炉端の会が外に向かって行った、ささやかなPR活動であったと思っています。

炉端の会の園外研修は、園内古民家のふるさとを訪ねるという名目で、平成17年から毎年実施された。第5回目までで、近場の日帰りバスツアーで行けるところは行ってしまった。その頃、園外研修は会の日常活動以外では最大の行事であった。

平成22年度の園外研修をどうするか、前年からアンケート調査を企画し行った。古民家のふるさとを訪ねるという趣旨を続けて遠隔地でも泊りがけで行くのか、5年間で新しい会員も増えたので、無理をしないで近くの日帰りで行けるところを再訪するか、はたまた、園内古民家に拘わらず他の適当な研修地を探すのか、会員の意向を伺った。

調査の結果は、行きたい古民家希望順位は、①旧三澤家、②旧鈴木家・旧北村家であった。また、一泊二日になった場合の参加希望者は、参加したいが71.6%、不参加は21.6%だった。気になっていた女性の参加希望は76.9%と多かった。

平成22年4月から園長は木下さんが昇任し、新人の畑山さんが担当となった。また、会の役員も入れ替わり、会員は237名に増えた。

4月の班長会で、行き先を福島県の旧鈴木家に決めた。では宿泊所をどこにするか。参加者の数を確かにして予約しなければならない。会員は中高年者が多い、修学旅行のような雑魚寝は無理だろうから、個室のバス・トイレ付きとすると、費用は高くなるがシティホテルを探した。6月の参加予定者調べで88名と分かり、ホテルはやむなく2カ所になる。個室値段は6,300～6,500円であり、バスチャーター代、昼の弁当代及び夕食代等込みで一人当たり2万円弱でできそうだった。日帰りの場合の5千円より大幅に上がる。なお、バスツアーのため、バスが1台か2台かで費用が大きく変わることになるから、参加者の変動が無いことを祈った。宿やバスの手配などは、成島(火曜班)さんの活躍による。

当日、11月11日は晴れた。ほぼ予定どおりバスは北へ進んだ。参加者80名は皆、小学生のように心はずませていた。福島に入ったら12～13℃と寒く、少し曇まじりだったが、旧八丁目宿では回復し、鈴木さん宅へは宿場道を少し歩いてから訪ねた。

当主の長太郎さん、母上のシゲさん、奥さんらが出迎えてくれ、庭先での明快でおおらかな話は、何だか、こちらが励まされているようだった。はるばる来た甲斐があった。

いよいよ宿泊地の会津若松市へ、夕食は郷土料理を別会場とって、ホテルは2館に別れた。安いビジネスホテルに泊まったことが無い人もいたので、まちがいが起こらないか初めから気になっていた。だが、会員は皆大人である、案ずることはなかった。次の日も好天に恵まれ、一泊二日の園外研修は無事終えた。

ただ、その4カ月後、平成23年3月11日、3月例会の日、東日本大震災が起こった。福島県は原発事故が重なって痛ましいことになってしまった。

(平成26年12月)

私は今年（平成26年）72歳になりました。「炉端の会」には64歳の時に入会して8年目になります。作家五木寛之氏の著書「林住期」によれば、古代インドの人々は人生を100年として25年ずつ4期に区切って考えたといえます。25歳までを「学生期」（がくしょうき）、50歳までを「家住期」（かじゅうき）、75歳までを「林住期」（りんじゅうき）、100歳までを「遊行期」（ゆぎょうき）というのだそうです。そして五木氏は51～75歳の「林住期」こそ「生きるために働くこと」から解放されて「自分のために生きて楽しむこと」ができる人生のクライマックスの時間だから心して生きよ、というのです。今まさに「林住期」にある私にとってやり甲斐のある「炉端の会」の活動はまことに当を得たもののように思います。

さて私ははからずも平成24・25年度の2年間「炉端の会」の会長を務めさせていただきました。会長として会の良き伝統を守りながら時代に合った新しい組織と活動をどう展開するかについてはいろいろ考えるところがありました。特に思いが強かったのは「炉端の会」の発信力を高めることでした。これほど貴重な文化財を集めた「日本民家園」の存在が関東圏でも意外に知られていない、と同時に私たち「炉端の会」の存在も活動も川崎市民にさえ殆ど知られていない、ということは何とも情けないことでありました。この点については副会長の吉田さんと川崎市やいろいろなボランティア団体の会合にも積極的に参加してアピールすることに努めました。また皆さんと相談した結果メンバー全員に名刺を持っていただき、会員としての自覚を持つと同時にいわば広告塔としての役割を担っていただくことにしました。さらに「広報チーム」を



川崎市文化財フォーラムで報告する近藤会長

結成していただき、その結果対外的な発信力を格段に強化することに繋がりました。特にシステムに強い熱心なメンバーのお蔭で素晴らしいホームページを立ち上げていただき、今後の展望が広がりました。

その他「草バッタチーム」も皆さんの提案が実を結びました。また2泊3日の五箇山と遠野の園外研修も皆さんと企画実行できました。

会長任期の2年間、少しではありますが会を前進させることができたような気がします。それもこれも日本民家園と会員の皆さんのご協力があったからこそ、心から感謝しています。

ところで私の「林住期」も残すところ3年となりました。とするとその後の「遊行期」は静かに人生の終末に向けての準備を・・・、ということになるのですがこれは古代インドでの話。五木氏は本のなかで「気力と体力があれば、さらに林住期を10年延長してもよい」と言ってくれています。囲炉裏の火焚き、古民家の解説、薪割りなど「炉端の会」の活動の喜びは条件付きながらあと13年くらいは許されるらしい、ありがたい話であります。同年代の多くの「林住期」の皆さん、どうか安心してまだまだ活動を楽しもうではありませんか。

平成5（1993）年当時民家園では、岩澤家（平成2年移築復原）、原家（平成3年同左）、本館開館（平成4年）を経て移築・新築などが一段落し、博物館のソフト面の充実を図ろうとしていた。また、昭和42年以来順次移築した古民家の日常的な維持が課題となっており、清掃・燻煙による維持（茅屋根の延命舎）と動態展示としての囲炉裏情景再現を目指し、ボランティアを組織したいと考えた。

平成4（1992）年度冬に初めて実施した山田家の雪囲い展示で、平成5年2-3月に「日曜日開放」（囲炉裏の火焚きと解説）を行い好評を得たので、当時職員だった三輪氏が、自身も講師を勤めた講座「民家—ハレとケのフォーラム」受講修了者に声をかけ、平成5年10-11月の民家園まつり期間の金土日に囲炉裏の火焚きと床上公開を始めたのが、会の前段である。さらに同年12-翌3月に雪囲い展示（山田・菅原）期間の日曜、4-6月の日曜でも床上公開を実施した。これらのプレ期間を経て平成6（1994）年8月養成講座を実施し、炉端の会（以下「会」という）が8月末に正式発足した。

会の活動体制は、20年間の前半10年と後半10年とでかなり異なっている。

前半10年の活動は、第1グループ（活動開始平成6（1994）年9月、当初人員50名、翌2月に追加20名）・第2グループ（同平成10（1998）年4月、同51名）・第3グループ（同平成11（1999）年9月、同55名）によって行われた。

曜日班で行う火焚き（当初は1日1-2棟）などの活動・月例会・学習会・自主研修などは基本的にグループ毎に活発に行われた。主な園外研修については、複数グループ成立後は合同で開催された。会長はグループ毎に存在し、平成10年以降の対外的な会長は第1～3の会長で交互に勤めた。

これらの結果、グループ内の交流や学習が深まった一方、他グループとの交流の機会は少なく、日頃の活動における人員の応援・融通や活動ノウハウの共有などが十分できない面があったのではないかと推測される。

加えて、活動内容についても前半10年においては「炉端の会の活動は文化財である建物の維持が最優先で、それ以外は慎重に」という園側の考え方もあって現在に比べると範囲はやや狭いものであった。さらに園が新規募集を約6年実施しなかったため、特に土日を中心に会員が減り活動に支障をきたすようになっていた。

そこで会発足から10年余を経過した平成16・17年度に園と会で相談し活動体制の再編が行われた。

すなわち、①第1～3グループと4期（平成16（2004）年10月活動開始、当初人員22名）・5期（平成17（2005）年4月活動開始、同31名）とを一本化し曜日班は先輩後輩合同に ②月例会を一本化して会の最高意思決定の場とし月例会の補助として班長会を設置 ③会長・副会長は班長・副班長の互選に ④「グループ」は「期」と呼び替える こととした。

新たな会長に由解哲男氏が就任、会則・細則を整え、火曜班（21名）、水曜班（22名）、木曜班（23名）、金曜班（19名）、土日班（51名）ダブリ3名、休会10名の合計143名 となった。

これらの改革により炉端の火焚きだけでなくガイド活動などについても今までより幅広い活動が展開されることとなった。一方、当時の来園者数は伸び悩んでいたため来園者により楽しんでいただく方策が「民家園協力者会議」などで検討された。

会もこれらの検討に積極的に参画し、その結果活動のベースとなる考え方も従来から変化し、来園者に民家を見て、親しみ、楽しんでいただくために何をするかにも重点が置かれることとなった。

来園者のニーズなどをもとに新たな活動として平成18（2006）年1月「障子張り」「環境整備」「英語ガイド」「フリーガイド」の4チーム活動が始動し、曜日班とあわせて活動の場を広げた。

その後チーム活動は、平成19（2007）年4月「展示チーム」、平成24（2012）年5月「広報チーム」、平成26（2014）年3月「草バッタチーム」が発足し現在に至っている。

また、このような活動力増強により民家園の諸行事にも従来にもまして積極的な参画・支援が行えるようになった。また、会則・細則及びマニュアルは順次修正整備されている。

平成17（2005）年から毎年新たな会員20～40名の募集が継続され、平成27（2015）年4月に15期を加えた現在の会員数は265人となっている。

（編集委員 13期 金曜 布野）

2-12

草創期の活動記録

2-12-1

1 グループ結成10年の歩み

- ・ H5(1993). 5~7 民家園と生涯学習事業団との共催講座「民家—ハレとケのフォーラム」
(全 12 回) 実施、終了後、講師の三輪職員 (園) からボランティアへの参加呼びかけあり。
- ・ " . 10~11 上記受講者有志により民家園まつり (当時は 10-11 月) の週末に床上公開実施
仮称ボランティアグループ「炉端の会」発足
- ・ " . 12~H6(1994). 3 山田・菅原家の雪囲い展示にあわせ毎日曜に床上公開実施
平行して組織化についてメンバーと民家園で協議 (既存グループ (川崎文化財友の会、多摩文化財愛護ボランティア等) との整合性、民家園との関わり等)
- ・ H6(1994). 7~8 第 1 回ボランティア養成講座開講 (抽選により 50 名受講)
- ・ " . 8. 26 「炉端の会」設立総会
規約決定 会長今村氏 曜日別の班編成 (火一金、土日の 5 班)
第 3 金曜に例会・学習会 任期 5 年 担当は三輪職員 (学芸員)
- ・ " . 9. 1 活動開始、一日 1-2 棟の床上公開
- ・ " . 11 見学研修 影向寺 (高津区)
- ・ H7(1995). 2 会員の二次募集 (土・日対応)
- ・ " . 3 70 名体制による活動開始 土・日の運営円滑化
- ・ " . 5. 19 第 1 期総会 活動状況報告など
- ・ " . 6 見学研修 大善寺 (山梨県)
- ・ " . 6 第 1 回団体案内実施
- ・ " . 10 見学研修 古寺巡礼 (東寺、東大寺など)
- ・ " . 11 民家園まつり参加、日韓民家研究シンポジウム協力
- ・ H8(1996). 2 伊藤家の囲炉裏改修に伴う「火入れ式」に参列



伊藤家の火入れ式

- ・ " . 3 井岡家かまど改修に伴う「火入れ式」に参列
- ・ " . 9 見学研修 近江の国を訪ねて（石山寺他）
- ・ H9(1997). 4 民家園 30 周年記念行事の応援
- ・ " . 9～ 3 周年記念行事として三澤家の裏の花壇整備を実施。
以後毎月作業（～H16.2 まで）
- ・ " . 12 古民家見学バスツアー「彦部家住宅」（桐生市）
- ・ H10(1998). 4 三輪職員 園長就任 炉端の会の顧問に就任 担当は杉田職員に。
第2グループ（以下2G）発足
- ・ " 平安の仏像を訪ねて（醍醐寺、法界寺、平等院他）



1, 2G 合同研修 服部緑地の日本民家集落博物館にて

- ・ " . 10 1, 2G 合同研修 「近江路の観音様、大阪服部緑地など」
- ・ " . 11 任期満了（5 年）後の活動についてアンケート調査
47 名中 40 名が活動を続けると回答
- ・ H11(1999). 1 三澤家現当主の話を聞く会
- ・ " . 4 第5期総会 大沢会長に 活動の低下などを受け今後の活動は1年
後以降協議することとなる
- ・ " . 5 1～2G 合同研修（以後合同継続） 伊那部宿を訪ねる研鑽の旅
（三澤家）
- ・ " . 9 第3グループ（以下、3G）活動開始 第1Gの例会・学習会は第4
金曜に
- ・ H12(2000). 8 第6期総会 活動の一年間継続
- ・ " . 9 見学研修 大和郡山の奈良県立民俗博物館など
- ・ H13(2001). 8 第7期総会 活動の1年間継続を決定
- ・ " . 10 見学研修 伊豆韮山江川家住宅
- ・ H14(2002). 8 第8期総会 活動の一年間継続 10周年記念行事アンケート

- ・ " .12 見学研修 彦部家など
- ・ H15(2003).3 民家園 35 周年記念夜間特別開園に参加（床上公開など）
- ・ " .5 「市民文化パートナーシップかわさき」より表彰
- ・ " .8 第 9 期総会 苦しい活動状況が続くが、活動の一年継続を決定
- ・ " .11 船越の舞台公開 解説ボランティア
- ・ " .12 園外研修 山本家（茨城県鹿島郡）・鹿嶋神宮など
- ・ H16(2004).4 第 1 G の今後についてアンケート
継続 16 人 勇退 14 人 休会 5 人 担当は木下職員に。
- ・ " .7 川崎市制 80 周年記念表彰
- ・ " .8 第 10 期総会 10 周年を迎え活動の継続を決定 勇退者で O B 会を結成



第 10 期総会

- ・ H17(2005).4 第 1 ～ 3 G と 4 ～ 5 期を曜日ごとの班に再編成
第 1 G は以後 1 期と名称変更

※園外の見学研修については、主なものを掲載した。詳細は、「第 5 章 学習会の記録」を参照。

※第 1 グループ作成の「10 年の歩み」をベースに民家園だよりや会員の話を入れて作成した。

（編集委員 13 期 金曜 布野）

- 平成9(1997)年12月 民家園でボランティアを募集、募集人数60人
- 10(1998)年1月 1月17日 募集×切
- 2月 10日より毎週火曜日、全8回のボランティア養成講座が始まる。
51名受講
- 4月 「炉端の会」第2グループ（2期）8班編成（火～金各2班）で活動開始、平日班で土日を分担。第1グループから技術指導を受ける。
第1グループの定例・学習会が毎月第3金曜日に、第2グループの定例・学習会は毎月第3火曜日に決定。
- 5月 炉端の会世話人が三輪園長から杉田浩さんに代り、三輪園長は顧問に。
- 6月 木下さんの指導のもと、民具（衣装・一般）の整理ボランティア開始。5/28～6/11までの計11日間実施。
10月、11月にも11日間実施。
- 7月 「江戸東京たてもの園」に園外研修（木下さん）。27名参加
- 10月 「滋賀近代博物館（近江路の観音様）、大阪服部緑地」他に園外研修（三輪顧問）10/27～28。17名参加
- 11(1999)年1月 三澤家当主を招いて学習会（19日）。
- 3月 第2グループ会員、1年経過して5名休会・退会で46名となる。
- 4月 岡本太郎美術館工事始まり、民家園に通じる道の桜の木が無くなる。
- 5月 「伊那部宿を訪ねる研讃の旅」へ園外研修。5/25～26。
昼神温泉宿泊。40名参加
- 6月 江向家の民具整理（6/2～9）。
鈴木家のかまど完成。作田家の座敷に「万祝」が飾られた。
- 7月～ 第2グループ自主企画研修（3期の一部も参加）
「鎌倉に古寺と中世石塔を訪ねる」、「府中市郷土の森」他。
「三溪園」「影向寺」「大善寺」「清白寺」「鑿阿寺」「正福寺」へ。
- 9月 第3グループ活動開始。55名
作田家から寄贈された「守り札」の祈祷を行う（9/7）。（三輪顧問）
- 10月 民家園企画「むかしの生活体験」にボランティア協力。
第1グループ：大エコース、第2グループ：米コース、
第3グループ：民具コースを担当する。
- 11月 神奈川県立博物館へ園外研修。「源頼朝とゆかりの寺社の名宝」展へ。三輪修三著「日本民家園ノート」発刊。

第3章 炉端の会の活動記録 目次

3-1	日常活動	
3-1-1	床上公開	3-1
3-1-2	団体ガイド	3-4
3-1-3	園内ガイド	3-5
3-2	チーム活動	
3-2-1	展示チーム	3-6
3-2-2	フリーガイドチーム	3-8
3-2-3	障子張りチーム	3-9
3-2-4	環境整備チーム	3-10
3-2-5	英語ガイドチーム	3-11
3-2-6	広報チーム	3-13
3-2-7	草バッタチーム	3-15
3-3	その他の活動	
3-3-1	協力者会議	3-17
3-3-2	日本民家園協議会	3-18
3-3-3	生田緑地マネジメント会議	3-19

第3章 炉端の会の活動の記録

3-1 日常活動

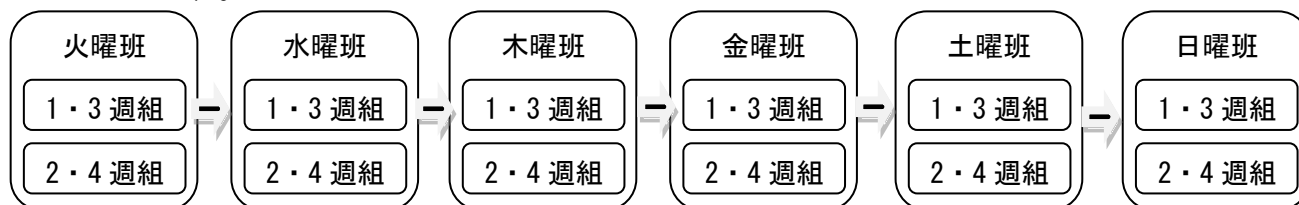
3-1-1 床上公開

炉端の会の主要活動である床上公開活動（公開棟での火焚きと来棟者への解説など）は、毎日、10時頃から冬季以外（3月～10月）は15時半、冬期（11月～2月）は15時まで行っています。

基本の活動

- 1) 火焚き：虫害・湿気から古民家を守ります。
- 2) 清掃：ホコリ・ゴミ・虫の巣等を除去します。
- 3) 来園者への対応：普段上がれない床上にあがっていただき古民家を体験してもらいます。また、質問などにも答えます。

このような活動を以下の班（組）に分かれ、連続して2週間同じ古民家にて行っています。



では、1日の活動の様子を見ていきましょう。

1. 朝の打ち合わせ

- ・ 9時30分に民家園集合
- ・ 園からの連絡事項の伝達と来園団体などの確認
- ・ 定時ガイドの担当を分担
- ・ 本日の古民家を割り当てる（最低3名で担当する）



2. 各古民家に移動

- ・ 民家園入り口の掲示板に床上公開棟の「お知らせカード」を貼る
- ・ マッチ、焚き付け用古新聞、当番日記などをもち各床上公開棟に移動する



3. 火焚き作業

- ・ 床上公開棟の看板掲出
- ・ バケツの水などを確認

火消壺の消炭、古新聞、焚き付けを囲炉裏にセットし、マッチで点火

(マッチと余った古新聞は必ず持ち帰り、所定の場所に戻す)



4. 棟の掃除作業

- ・ 火焚き作業と並行して棟内を清掃する
- ・ 床を雑巾で水拭きする
- ・ 一部の棟は、糠袋で床拭きする
- ・ 畳は、ほうきで掃き掃除する
- ・ 土間などもほうきで掃除をする



5. 来園者の対応 : 一般来園者

- ・ 来園者に普段見られない床上へ上がって貰う
- ・ 囲炉裏端を体験して貰う
- ・ 当該棟の特徴などを必要に応じて解説する



6. 来園者の対応 : 小学生の課外授業

- ・ 川崎市立小学校(3年)及び近郊の小学校などの課外授業として、来園
- ・ 必要に応じて、生徒に易しく解説する
- ・ 時には、「脱いだ履き物」の扱い方などの躰を行う事もある



7. 火焚きの後始末、確認

- ・ 燃え残りを火消壺に移す
- ・ 灰をかぶせて炉端全体を消火する
- ・ 最後に炉端に蓋板を被せる
- ・ 鉄鍋の湯を処分して乾燥させ火消壺などと蓋板の中央に置く



8. 日誌の記入

- ・ 当番棟への来棟者数、薪の残量状況、当日の特記事項、連絡事項等を記述



9. 床上公開棟より退出

- ・ 囲炉裏周辺の消火状況を再確認
- ・ バケツの水等の確認
- ・ 床上公開棟の看板を片付ける
- ・ 全体が整理整頓されている事を確認
- ・ (マッチと古新聞を持ち帰る)



10. 事務所に集合し解散

- ・ 事務所に戻りマッチと古新聞を所定の場所に収納
- ・ 日誌などの各用具を収納
- ・ 民家園入り口に掲示していた床上公開棟お知らせカードを回収する
- ・ 散会の確認事項の取り交わし
” 今日一日、お疲れ様でした”



(編修委員 10期 土曜 水野)

3-1-2

団体ガイド

1. 経緯

団体ガイドは、会設立3年後の平成7年度から平日班で始められています。事前に園にガイド依頼があると、園から該当曜日の班長に連絡がありガイド役を探して実施していました（件数不明）。広報物やWebで周知して、2週間前までの申し込みには原則として応えるようになったのは、平成17年度からです。英語によるガイドは平成18年3月から開始しました（英語ガイド参照）。

2. 現在の流れ

会では各曜日班に「団体ガイド調整担当」を置き、園から団体ガイドの要請がFax・電話で入ると、ガイド役を班メンバーから探して承諾を得、担当職員に伝えます。英語によるガイド依頼は、園から英語ガイドチームに連絡が入ります。ガイド役には当日までに該当団体の「ガイド申込書」が渡ります。

ガイド役は会員の中で対応可能な人が引き請けます。園内ガイド（3-1-3参照）で少しずつガイドの経験と自信をつけてから、団体ガイドにデビューする方が多いようです。ガイド役は、団体の要望（所要時間、棟やエリア、解説内容）や年齢構成に合わせ準備をし、最終的には当日に団体代表者と話をしながら、できるだけ先方の要望に沿うガイドを心がけています。ご案内しながら、様々な質問への対応、疲れ具合、時にはルート変更など臨機応変な対応で、喜んでいただけることを目指しています。

利用された団体からは大変好評で、代表の方にお問い合わせをしたアンケートでは、「とても詳しく説明していただき良かった」「ただ見るだけではわからなかった、説明してもらってよかった」などのコメントが寄せられています。

毎年年度末には、各班の団体ガイド調整担当と職員による振り返りがあり、より良いガイドを目指してアイデアを出し合っています。

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
団体数	33	72	95	96	104	92	127	141	169	128
(内英語)	(1)	(10)	(12)	(11)	(17)	(12)	(17)	(19)	(18)	(29)
利用人数	943	1693	2179	2412	2290	1943	2797	2877	2538	2796
(内英語)	(67)	(162)	(200)	(215)	(261)	(165)	(256)	(289)	(328)	(488)

英語ガイドはH18年3月から開始。

(編集委員 15期 日曜 木下)

3-1-3

園内ガイド

1. 経緯

広報をして定時に実施する園内ガイド（30分）は、平成17年度に園職員が交替で土曜日午後に始めました。翌18年4月から会の土日班（当時）で引継ぎ、19年4月から祝日午後（平日班で担当）を試行、同年6月から日曜日午後に試行、同年10月から祝日・日曜日の本格実施をしました。平成21年4月から平日午後と土日祝の午前の回試行を経て、同年12月土日祝の午前・午後本格実施、同年2月に平日午後の本格実施に至りました。

最初は団体ガイドで経験を積んだ会員で園内ガイドを実施していましたが、その後各班内で研修が進み、大勢の会員が交替で園内ガイド役を引き受けています。

2. 現在

現在は、7-8月を除く毎日、平日は13時から、土日祝は11時からと13時から園内ガイドを実施しています。午後の回は、園中央部の山下家前集合、午前の回は原家前集合です。園の成り立ち、概要などを簡単に説明したあと、30分で行けるところまでの各家の説明をします。参加者の反応を見ながら、臨機応変な解説を心がけ、山下家出発で、参加者全員が奥門から入園されたなら正門方面を目指すこともありますし、30分で一応締めした後、ご希望の方にはさらにガイドを続けることもあります。ガイド役は、本人の希望を尊重しつつ、各班で分担を決めています。

参加された方からは、「良く分かって楽しかった」「随分勉強になった」「感動した」「民家の構造の特徴が良くわかり、当時の生活様式などが想像でき大変良かった」等、またガイド役からは、「とても喜んでただけで嬉しかった」「熱心な方が多く1時間ガイドをした」「大工さんの団体で逆に教えていただいた」等のコメントが寄せられています。



園内ガイド

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
回数	35	73	80	236	300	292	296	228	245
利用人数	249	572	864	2116	2313	1874	1608	1678	2100

（編集委員 15期 日曜 木下）

3-2 チーム活動

チーム発足の経過

2期 木・土曜班 渋谷 勇

平成17年、入場者減対応として民家園協力者会議が発足しました。

平成17年度に入園者増をはかる施策として、「炉端の会」としてお金をかけず気力と体力でできるサービスをしようと、園内サービス部会を発足し種々検討の結果、各チームが発足いたしました。(展示、障子張、環境整備、フリーガイド、その後英語ガイド、広報、草バッタチームと拡大し今後も発展する事を期待しております。)

炉端の会は、基本的に曜日別の縦型組織であります。チームは横型組織でありますので、チームが大きくなれば益々会全体の組織力が強力になると思います。

(※参照 2-1-1 会のはじまりと活動体制の経緯、
3-3-1 協力者会議)

3-2-1

展示チーム

チーム長 2期 木・土曜班 渋谷 勇

先人から継承されてきた伝統的な行事や祭事を展示継承することを目的とする。村ごとに展示民具の点検と清掃を行い、昔の暮らしぶりをお客様に見ていただき、懐古の情を楽しみ感動して頂くために行っています。また、将来は静態展示から動態(体感)展示に拡大展示する事が必要と考えております。

毎月次のような展示と撤去・収納作業をしております。

4月・・・五月節句の飾り付け。

5月・・・五月節句の撤去、マンガアライの飾り付け。

6月・・・マンガアライの撤去。

7月・・・盆行事(盆だな、砂盛り)の飾り付け。

8月・・・盆行事の撤去、十五夜の飾り付け。

10月・・・刈り上げの飾り付けと撤去、扱き上げの飾り付け。

11月・・・扱き上げの撤去。

12月・・・ヨウカゾウの撤去、正月の飾り付けと各地のしめ縄の展示。

1月・・・小正月の撤去、節分とヨウカゾウの飾り付け。

2月・・・節分とヨウカゾウの撤去、ひな祭りの飾り付け。

3月・・・ひな祭りの撤去、蚕影山縁日の飾り付け。

飾り付けと撤去には意外と手間と時間がかかりますので、お気軽に自由に参加してください。今後は、まだ整理されていない民具や古文書を整理して、できるだけ多くのものを展示していく事が必要と思います。

なお、サブ活動として次の事も行いました。

1. お客様に石臼の体験をしてもらうため、石臼の受け台の作成。
 2. お客様が民家園をどのように感じているかアンケートをお願いするため、アンケート投入箱の作成。
 3. 引っ越し作業軽減のため、まず全棟に道具箱と雑巾掛を置くため各20個作成。当初は菅原家から鈴木家への引っ越しもありました。
 4. 火焚き用具の整理整頓のため、鈴木家の横に付いている物置の中に整理棚を作成。
 5. 十五夜イベント用に外流し台の作成。
- 今後も出来る範囲内で継続していければ良いと思っています。

(※具体的な作業内容は、4-5 年中行事 参照。)

3-2-2

フリーガイドチーム

チーム長 2期 木・土曜班 渋谷 勇

入園者増（特にリピーター客）をはかる施策として「フリーガイドチーム」を立ち上げ、平成17年2月に活動を開始しました。各棟の年代、立地環境、構造、展示品、生業等々をお客様に分かり易くご案内して、感動と満足をしていただき、また家族や友達との再来をお願いしております。（チームは自由参加です、お気軽にどうぞ。）

最近、多人数の団体ガイド（50人から100人単位もあり）の応援や、炉端の会の新会員の研修ガイドも行っております。（現在行っている定時ガイドへと発展しました。）

・平成25年度までの実績は次のとおりです。

年 度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
ガイド人数（人）	18	48	41	38	50	95	114	76	55
お客様人数（人）	47	259	221	205	270	513	620	486	310

・今後の目標と課題は次のとおりです。

1. 参加メンバーの増員をはかり、土日・祭日にはローテーションが組めるようにしたい。
2. ガイドがお客様と気軽に接触できる場所（控え部屋）を設けたい。
3. 奇数月の第三土曜日には、PM1時～3時まで原家2階でのミーティング（雑学勉強会）を継続していきたい。

・ガイドの心得

各棟の説明はさることながら、お客様に対するホスピタリティーの心（丁寧なおもてなし）が必要とされます。

・特記

平成26年9月に多摩区観光展示に、広報チームとコラボレーションで参加しました。広報チームが古民家のパネルや炉端の会の活動内容パネル等々を展示し、我々は来場者280人に対してきめ細かく案内と説明を5日間に亘り致しました。今後もチーム間の共同作業を拡大することが大切だと考えております。

3-2-3

障子張りチーム

チーム長 5期 日曜 三浦 政治

現在メンバーは6人で活動中です。

活動日は、毎月第3金曜日、および第4水曜日に来られる人が来て行っています。

ただし、障子が破れてみっともない時は、補修を適宜行います。

雨天の場合は活動中止です。古い障子紙を丹念にはがし、細川和紙を大きさに合わせて裁断、障子のりで張っていきます。紙も市販のロール紙ではなく、少々高価ですがこだわりの和紙を使っています。

以下の写真は、江向家の障子を補修中の様子です。



チーム長 10期 木曜 森川 洗之介

発足の経緯

協力者会議のなかで、民家園の活性化を目的とした諸策の一つとして園内に花壇や畑をつくる話が話し合われた。草花等が好きな人たちが集まり園内で使用できる土地を指定してもらい、「環境整備チーム」の前身を発足させました。

目的、主旨

園内の古民家にふさわしい雰囲気を作ろうと、江戸時代の民家周りに普通にあった植物を植えるという原則で、小さな畑で四季の農作物を栽培しています。さらに来園者の皆様にも楽しんで頂こうと花壇も作り、四季の草花も植えています。

活動内容

通常の活動は農作物、草花の栽培で、土作り、中耕、種蒔き、植付、除草、収穫等の農作業が主になり夏季冬季を除き、月2回汗をかいています。これに加え、以下のような活動も行っています。

- | | |
|----------|--|
| 生こんにゃく作り | 畑で栽培、収穫したコンニャク芋を使い、生こんにゃくを作っています。最近腕が上がり、美味しいこんにゃくがでるようになりました。 |
| お茶作り | 園内のお茶木から葉を摘み、昔使われていた蒸し器やホイロでお茶を作る実演を来園者に見てもらいました。 |
| 農作業体験指導 | 里芋を栽培し、園行事「お月見をしよう」で里芋ほりを子供達に体験させました。 |
| 樹木調査 | 調査結果をリストにまとめ来園者に情報提供するとともに、会員を集め樹木説明会を開催しました。 |
| 園外活動 | 彼岸花鑑賞（日向薬師） やまゆり鑑賞（武蔵丘陵森林公園）
レンゲショウマ鑑賞（御嶽山）お茶づくり勉強会（狭山）など |

現在の状況

北村、江向、菅原家前畑 佐々木家前花壇で上記作業を継続し活動を行っています。また、本館前、三沢家裏庭、水車小屋前にはいくつかの草花を自生させています。

畑での農作業（北村家）



花壇の手入れ（佐々木家）



平成16年 第4期の炉端の会養成講習が終了時に、あるアンケート調査が行われた。

各人持っている技術、興味分野で民家園運営活動に使える、参加できる項目の申告であった。

この時、園芸、パソコン処理、接客、ガイド能力 などいろいろ出た中で、英会話、英語ガイドと申し出た数名の方がおられた。

木下前園長からのやわらかではあるが強い指示、桜井炉端の会会長（当時）からの後押しがあり、以前から英語ガイドの役を行っておられた火曜班の阿部さんなどと、この4期が参加、英語ガイドチームがスタートした。

とはいえ、当初は民家園を英語でどこをどのようにガイドするというツール資料はどこにもなかったので、皆で民家園用語集をふくめ、関連資料を持ち寄り、

“Guided tour in English” にまとめて資料化し、ガイドの参考とすることにした。

この英文ガイド資料の作成作業は、その4年後にチーム作業で行った、“日本民家園ガイドブック”の英語版刊行に結びつき、外国人来訪者に対するガイド内容手法についてよい勉強をする機会となった。

日本人なら、いわなくても当たり前知覚しているであろう事も、それが無い外国人には加えて説明する必要があることもある。

来場グループには、東洋日本文化研究する欧米大学グループ、日本への留学生研修グループ、都市間交換留学生グループ、在日外国人文化探求グループ、国際学部をもつ日本の大学、International School, Women's Club, 等のグループが過半数を占め、

丁寧な対応後、毎年レポートで来場するようになったケースである。

外国政府機関（観光局）、外国TV、新聞報道などメディア機関 への 英語ガイドは園の広報宣伝活動にも結び付くケースも多く、

New York Times（電子版）へのガイド：

日本に行ったら訪れるべき4つの博物館として紹介さる。

- タイ観光大臣へのガイド：
- ① タイTV 人気の日本旅行番組での民家園紹介
 - ② タイ国民家園との交流。交互の国で民家園紹介。
- 民家園 Web-site の相互リンク化

の展開をみせている。

（以上）



米 Florida 大学 東洋日本文化研究科への英語ガイド

1. 広報チーム発足の趣旨

生田緑地東口に新しく完成したビジターセンターに生田緑地で活動するボランティアの活動内容を紹介する掲示物（A3サイズ紙5枚程度）を1ヶ月間隔で掲示できる掲示板が設置されました。これを契機に「炉端の会」として、これらの諸媒体を活用し、「炉端の会」の様々な活動の紹介及びPRなどの広報活動を専任で行うチームが必要ではないかという機運と必然的なタイミングから結成されました。

2. 広報チームの経緯

2. 1. 平成24年（2012年）

①平成24年7月27日に原家2階にて、発起人である近藤会長の主催で第1回目の打合せが行われる。

発足時メンバー：飯久保（火曜）、野田（水曜）、森川（木曜）、広瀬（金曜）
土屋（土日曜）、川島（金曜）

メンバーは、各班代表及び班長会、フリーガイドチーム、環境チームなどのチーム代表などから構成されました。

まずは、「生田緑地ビジターセンター」の新設された掲示板に「炉端の会」活動紹介パネルの作成から作業を開始した。各メンバーとの情報の共有・連絡は、インターネットと電子メールを活用する事でチーム活動の迅速化を図った。

②平成24年9月1日「生田緑地ビジターセンター」への「炉端の会」紹介パネルの作成・掲示（基本的には、毎月更新）を開始した。

（平成24年10月（第2号）の「炉端の会」紹介の掲示パネル）



③平成24年12月 「炉端の会」会員用の名刺デザインと印刷依頼、配布手順を確立し会員からの名刺作成依頼の受付から制作・配布を開始した。

④平成24年12月 研修旅行の報告資料として、スライドショーを作成した。

2. 2. 平成25年（2013年）

①平成25年1月 「かわさき文化財フォーラム」での「炉端の会」の活動紹介用のプレゼン資料とスライドショーを作成し、プレゼンテーション時の支援作業を行った。

②平成25年2月 多摩区役所、「まちカツ！ポスター展」への参加用ポスター作成と展示作業を行った。

③平成25年4月 「炉端の会」ホームページ開設の検討をスタートすると共に民家園のホームページのリメイクに伴う意見交換を行った。

・ ビジターセンターの掲示パネルを民家園本館一階通路にも掲示を開始した。

・ 広報チームに新メンバー（辻）参加、計7名

④平成25年10月 「炉端の会」ホームページを開設した。
以降、毎月「炉端の会」HP（ホームページ）情報の更新とメンテナンスを行う。

⑤平成25年11月 研修旅行 工藤家贈呈品の作成、研修旅行の報告資料を作成した。



2. 3. 平成26年（2014年）

①平成26年2月 多摩区役所、「まちカツ！ポスター展」参加用ポスター作成と展示。

②平成26年3月 掲示パネルとして、コラムパネルを新規に作成し、掲示を開始した。

③平成26年4月 広報チームに新メンバー（佐藤）参加、計8名となる。

④平成26年9月 「輪ッ！和ッ！話ッ！多摩区の魅力大集合」のイベント参加に伴う展示物の作成及び多摩区役所 市民ギャラリーへの展示作業を行った。

・ 「炉端の会」発足20周年記念行事の様子や写真などをHPへ掲載した。

⑤平成26年10月 研修旅行 「菅原家訪問記念用の写真集」編集・作成を行った。

⑥平成26年11月 研修旅行の集合写真、研修旅行の報告資料作成及びHPへ掲載した。

・ 「川崎市文化賞」受賞式典の写真撮影及びHPへ掲載した。

広報チームは、「生田緑地ビジターセンター内」の掲示板へ「炉端の会」の諸活動を紹介するパネルの制作・掲示からスタートし、約2年数ヶ月が経ちました。今では、「炉端の会」ホームページも必要不可欠な存在に育ってきましたのも会員各位のご支援のお陰です。

今年は、「炉端の会」発足20周年の記念行事に川崎市長がご列席され、さらに「川崎市文化賞」を受賞しました事は、広報チームとしても今後の活動に大きな励みになりました。今後も「炉端の会」の広報として、身近で親しみやすい情報を適切に様々な媒体を介して、内と外へ提供して行きたいと思っています。
(平成26年12月)

発足以来1年未満の出来たてほやほやのチームです。

チーム生い立ち

エコミュージアムせせらぎ館のボランティアのバッタづくりの名人から教えてもらった人が核になり、興味を持った人たちがバッタの作り方を習い、バッタを作れる人が順次多くなっていった。来園者の喜ぶ姿・顔を見るのが楽しみです。

前会長の近藤さん、現会長の野田さんが、草バッタ作りに興味のある人の名簿を作ったのが、バッタチームのもとになった。2014. 3月に約30名のメンバーで発足した。

正式会則は、まだない。

活動方針

本来の火焚き作業の妨げにならない範囲での活動とする。

活動日に当番棟で余裕のある時（時間・心・体）に作る。

来園者に喜んでもらう。作品そのもので。作り方を習得して。

定例会で、情報交換を行う。

技術交流会でお互いに知っている技を教え合う。

興味のある人には、チームメンバーであるなしにかかわらず、作り方を習得してもらう。

作り方のやさしい習得方法を工夫する。

会則は、実際の活動内容に即した内容で後日まとめる。

活動結果

夫々の当番棟でのバッタ作り。

等々力競技場前広場でのフロンターレホームデーでの民家園イベントに協力。

炉端の会20周年記念日行事で、佐々木家にバッタの家開設。

特別依頼によるバッタ作成（英語ガイドチーム、畑山）。

これから

多くを求めず、ゆっくりゆっくり進んでいきたい。

炉端の会の会員で興味を待つ人は、作れるようになってほしい。

民家園の中にシュロ畑を作りましょうか？

技術の伝道師

せせらぎ館のバッタ名人：大島さん

棕櫚の葉虫の巨匠（来園常連者）：細井さん

参考書：「作ろう草玩具」 佐藤 邦昭著 築地書店発行
おまけの情報

棕櫚：ヤシ科。熱帯・亜熱帯地方原産。九州、近畿などへ移入。最近は温暖化の影響で北上中。

雌雄別株。房状の花は、雄花。種子で繁殖。葉は蠅たたき、ほうき、皮の繊維は棕櫚縄に。

日本へ移入時は珍しい植物だったので神社・仏閣などに植えられた。（京都洛中洛外図で八坂神社の門前に蘇鉄とともに植えられている。）

草玩具：子供のころ作って遊んだ思い出がありますね。

シュロ：バッタ、トンボ、カマキリ、カタツムリ、蛇、熱帯魚（民家園で習得）

ススキ：矢

オオバコ：花茎：草相撲、葉：お皿、葉柄：くじ引き

エノコロ草：穂：動く虫

クローバー：花茎：首飾り、腕輪

笹の葉：舟

ウツギ：刀

タンポポ：水車

松葉：引っ張り相撲

虫カゴの中の
草バッタ



2015. 2. 21

3-3 その他の活動

3-3-1 協力者会議～炉端の会・民技会・園の3者による協働

平成16年、博物館界にも行財政改革の嵐が吹き荒れる中、新聞報道された「川崎市市民ミュージアムは赤字会社～民間なら倒産」の記事をきっかけに、当時の民技会会長の提案で、日本民家園でも改革の試みが始まった。

「民家園のこれからを考える会」（H16年度3回）と称し、炉端の会と民技会の会員に広く呼びかけ、両会の有志と園職員がフラットに話し合う場が設定された。事業概要・入園者数長期低落傾向・予算などの説明を受け、フリートーキング「集客力を高めるには」、グループ討議（園の強みと弱み、自分達は何ができるか、何を目指すか（使命）、各自が取り組みたい課題（決意表明））等を行い次年度以降の取り組み方法を検討した。フリートーキングには炉端の会（1-3G18名）、民技会7名、職員6名が集まった。

翌年度には「日本民家園協力者会議」に発展、全体会と作業部会で構成し、3つの条件（今年度中に実施できる、お金がかからない、人手は募集）の下、民家園の魅力を高め集客につながる方策を具体的に検討した。全体会では会長・班長・グループ長・職員など15名位でテーマ選定や方向性を検討し、作業部会は広く両会から会員募集、特定テーマの実行を具体的に考えた。計80余の改善項目から、広報・園内サービス・行事の3部会（年3-5回）ができた。この年度に実施できたのは、スタンプラリー完成スタンプ、チーム発足（フリーガイド、英語ガイド、環境整備、障子張り）、床上公開棟で飲物可、炉端でチラシ配布、ワークシート、行事カレンダー・英文HP充実、着物で歩こう、お月見をしよう等である。

H18年度は条件を変更し（2-3年でできる、予算要求も可）、展示・園内サービスの2部会を追加、雨天時小学校団体昼食場所提供（民家内）、土間ベンチ、民具着用体験（炉端）、火天にべんけい等展示、リーフレットに全棟写真、中国語リーフレット、展示チーム、骨董市、夜間公開、樹木プレート、藍染バンダナ、新絵ハガキ、昔話等が実現した。H19年度には、年間パスポート、園内ガイド、蕎麦店の公園側入場可、文化財集落施設協議会共通HP、両会の情報交換、民技会向け園内ツアー、ポルトガル語リーフレットが実現、5部会は活動を中止しその後は必要時に再開することとなった。H20-21年度に活動したアンケート部会では、アンケートの項目だてや書式を検討作成し、来園者の要望をさぐる手立てとしてその後の協力者会議等で活用している。どの作業部会も全体会も炉端の会や民技会会員の並々ならぬ熱意・企画力・実行力が園を後押しした。

全体会にあたる協力者会議（年3回）は現在まで継続され（議事進行は両会で交替）、当初3年で提案された項目のうち、○実施した 39、△実施半ば・実施したが中止 20、×実施していない 24となっている。ここ数年は、アンケート記述や日常活動を通じて得られる来園者要望の実現や、民家園事業の改善・発展に向けて具体的な方策を検討している。またH26年度は50周年記念事業についても検討した。

（編集委員 15期 日曜 木下）

日本民家園協議会（S60年開始）は園長の諮問機関で、学芸等業務（建築・民俗、及び教育普及部門）、運営管理業務の双方を見渡し、長期的・学術的な視点や社会教育・学校教育・公募市民等幅広い視点からの助言・提言を行っている。また、H21年度からは毎年「事業評価シート」を元に外部事業評価を実施している。H26年度まで、日本民家園条例及び日本民家園協議会規則により設置されていたが、H27年度改選期から組織を変更、川崎市社会教育委員会議の日本民家園部会として、機能を存続させる予定である。

10人の委員で構成。2年任期。

内訳は、学識経験者4人（建築・民俗・博物館学など）、

学校関係者2人（小学校、中学校の社会科研究会長）、

社会教育関係者2人（数年前から1人は家庭教育関係者、文化財友の会、

多摩文化財愛護ボランティア、炉端の会、ままとんきっずなど）、

公募市民2人。

炉端の会会長が出席するようになったのは、H9年度からである。

H9-10年度 今村さん（1G会長）

H13-14年度 林さん（2Gリーダー）← 2Gはリーダーと呼んだ。対外的には1～3Gで交替で会長と名乗った。

H15-16年度 遠藤さん（3G会長）

H17-19年度 由解さん（会長） 3年会長を務めた。

H20-21年度 櫻井さん（会長）

以後、歴代会長が会長に就任している間の協議会委員を担っている。

H26年度は、野田会長がメンバーに名を連ねている。

H21年度から年4回開催（外部事業評価も実施するため、以前より回数増）され、最近の協議内容は、事業評価と園への提言が主になっている。H24年度には、園長から「今後の日本民家園の運営のあり方」について諮問があり、H25年6月に「川崎市立日本民家園における学芸業務の充実にむけて（提言）」と題する答申を行った。

以下は、H26年度第2回（7月）に行われた会議の内容である。

報告 1) H25・26年度予算について（柳さん）

2) 指定管理者の人事関係について（園田さん）

3) 工事（屋根補修・総合防災・耐震補強）について（外山さん）

議事 H27年度事業計画説明・および質疑

連絡 次回日程と今後の予定（内容を含む）

配布資料 H25・26年度予算比較表

H27年度事業評価シート（案）とその添付資料

前回議事録、民家園広報物

（編集委員 10期 土曜 水野）

生田緑地マネージメント会議とは

生田緑地の目指す将来像を示す「生田緑地ビジョン」の実現に向け、多様な主体が管理運営参加する「協働のプラットフォーム」の具体的なしくみとして、「生田緑地マネージメント会議」が設置された。

全体会、運営会議及び自然環境保全管理会議の3つの常設会議と、必要に応じて立ち上げるプロジェクト会議によって構成されている。平成23年10月から合計8回の準備会が開催され、平成25年3月18日に設立総会が開催された。生田緑地の価値と魅力を高め、誰もが気持ちよく過ごすことができる公園とするように、自然の保全と利用の調整を図りながら、生田緑地を市民の財産として持続可能なものとしていくことを目的に活動している。

現在の会員の構成は、市民団体等15、地域団体・大学等18、行政・指定管理者等16の合計50の正会員と準会員1団体で構成されている。そのうちの30会員がコアメンバーとして、中心的な役割を担っている。（以上 川崎市ホームページより抜粋）

炉端の会はコアメンバーではないが、会議の正会員として行政や他の会員とともに運営会議で同じ円卓に座って話し合い、生田緑地の運営に参加している。市民と行政が互いの特性を発揮しながら、連携して課題解決に取り組むことによって、より大きな効果をもたらすことを目指している。

年4回程度の運営会議があり、平成27年度は第1回運営会議が4月24日におこなわれ、野田会長が参加している。



（編集委員 10期 土曜 水野）

第4章 民家園行事協力 目次

4-1	春	
4-1-1	春のライトアップ	4-1
4-1-2	お茶作り	4-4
4-2	夏	
4-2-1	納涼民家園	4-5
4-2-2	民家園防災デー	4-6
4-3	秋	
4-3-1	五箇山がやってくる	4-7
4-3-2	船越の舞台公開	4-8
4-3-3	お月見をしよう	4-9
4-3-4	実演「昔の大工仕事」と体験「子ども大工入門」	4-10
4-4	冬	
4-4-1	冬休みの火焚き	4-11
4-4-2	お正月を遊ぶ	4-11
4-5	年中行事展示	4-12
4-6	昔話	4-20

第4章 民家園行事協力

4-1 春

4-1-1 平成27(2015)年春のライトアップ

2015年の春のライトアップは、3月28日(土)、29日(日)の二日間行われ、修復なった鈴木家も加え、原家・鈴木家・井岡家・佐地家・三澤家・水車小屋・佐々木家・江向家・山田家・山下家・野原家がライトアップされました。

(下は修復なった鈴木家)



(来園者と交流)



炉端の会も、井岡家・三澤家・佐々木家・江向家・山田家・野原家で火焚きの行事協力をを行い、来園者と交流しました。また、28日は地元の初山の獅子舞が披露され、29日は遠野の

昔話が披露されました。

そして初めての試みとして、28日には原家で金曜班の川島康夫さんによる「篠笛」のミニコンサートも実施されました。(別途掲載)

市長がライトアップされた夜の民家園に来園 2015年春

川崎市の福田紀彦市長が、29日夕方来園され木下園長と炉端の会野田会長の案内で、ライトアップされた夜の民家園を散策されました。

野田会長の言葉を借りれば、お世辞ではなく本心で民家園、炉端の会を気に入ってくださったようです。あちこちで市長と分かれると記念写真の要望に気安く応えていて、気さくな市長として人気があったとの事でした。

また、当日の夜にはご自身のブログに体験をアップしていただき、炉端の会にその転載もご許可いただきました。(以下は、そのブログの内容です。)



福田 のりひこ

3月29日 22:17 ·

さて、ここは何処でしょう???

世界遺産の白川郷か…? いいえ、川崎市日本民家園です。



昨年の紅葉の時期に続き、桜にあわせ、この週末は民家園の重要文化財がライトアップされました。各家では「炉端の会」のボランティアさんが火を焚いてお客さんをもてなし、ある古民家では囲炉裏を囲みながら語り手さんの昔話に皆さんが耳を傾けています。

この素晴らしい川崎市民の宝物をもっともっと多くの皆さんに観て、体感して頂きたいです。そのための工夫を関係者の皆さんと考えていきたいと

思います。

生田緑地には、世界最高のプラネタリウムや岡本太郎美術館など魅力がいっぱい。まだ行ったことがない方は是非!

川島康夫さんによる「篠笛」のミニコンサート（於 原家 2015年3月28日）



ライトアップのこの日、「篠笛」のコンサートが行われたのは、ある偶然がきっかけでした。たまたま、川島さんがリュックに「篠笛」をさしているのを「和太鼓」を趣味として楽しんでいる古民家カフェの

スタッフが見つけた声をかけました。何かの時に篠笛の演奏が出来ないか、園を巻き込んで考えた結果、ほどなくして行われる「民家園春のライトアップ」の時に、原家でミニコンサートを行う事になりました。

曲目は、篠笛の特色を活かした「さくら櫻散りぬるを」「笛吹童子幻想曲」「ダニーボーイ」「メダカの学校 むかし話」「昴」の5曲を川島さんが選定し、20分程度のステージをなか30分をあけて2ステージを行うことになりました。

当日は各ステージ10名以上の方々が川島さんを囲んで、素敵な音色に魅了されていました。営業中の古民家カフェのお客様にももちろんその演奏を楽しんでいただくことができ、お客様からは「夜の古民家の雰囲気をもっと盛り上げる素敵な時間でした」との感想をいただきました。

（編集委員 10期 土曜 水野）

4-1-2

お茶作り

お茶づくりには、お茶の木の年間を通しての手入れ、4月～5月頃の天候による茶葉の生育状況、茶摘みした茶葉のセイロの蒸し加減、ホイロの火加減、手もみなどに長年の経験とカンを必要とします。民家園でのお茶作りは、実際に登戸でお茶作りをしていた経験がある民技会蓬田さんの実地指導を受けて、登戸でやっていた作り方をもとにして平成17（2005）年から始めました。

5月 八十八夜を過ぎた頃、岩澤家と北村家のお茶の木から若葉を摘み取ります。摘み取った茶葉からごみを取り除き、茶葉を選別してセイロで蒸します。蒸してやわらかくなった茶葉はホイロの上で手もみにして緑茶に仕上げます。また蒸した茶葉を囲炉裏にかけた釜で炒り上げてほうじ茶も作ります。そして出来上がった新茶の試飲をして、今年の出来具合を品評します。

お茶作り実演は、広報して環境整備チームと有志により実施しています。

岩澤家の地元はお茶の産地で、民家園に移築された岩澤家の周囲に一例ではあるがお茶の木を植えたのは産地を意識してのこと。（野呂瀬さん談）



平成20年5月9日 蒸したお茶葉の粗熱をとる作業

（編集委員 9期 火曜 吉田）

4-2 夏

4-2-1

納涼民家園

毎年夏休み中の8月の日曜日に、生田緑地の豊かな自然に囲まれた3つの博物館を中心に行われる一大イベントが「生田緑地サマーミュージアム」です。

日本民家園では、この日にあわせ「納涼民家園」を行います。炉端の会も全面的に協力・参加しています。

毎年多くの子供さんや家族連れで大賑わいとなりますが、過去の思い出やエピソードを会員の方に伺ってみました。

「ごろ寝体験」 寝た際の畳やござの感触から人気があり、炉端の会員が親子で川の字になりませんか？と声をかけると沢山のお客様が幸せな感じでゆったりと休んでいかれたそうです。また、時には熟睡されるお客さまもおられ最長は2時間のケースもあったとか。

「蚊帳体験」 網戸の時代に育ち蚊帳をしらないちびっ子がなんだろうと集合。炉端の会員が蚊帳に出入りする方法などを伝授すると大喜びで蚊帳に入り、しばらくは出てこないなど大うけでした。

「水鉄砲体験・打ち水体験」 真夏の暑さにピッタリの催しもので、衣服が濡れるのにもかまわずちびっ子が大勢熱中します。ある年は途中で夕立になったのですが、みな構わず遊び続けていたそうです。



ごろ寝体験



蚊帳体験



水鉄砲体験



打ち水体験

このほかにも楽しい体験が沢山あり、今年平成27(2015)年は8月23日(日)に予定されていますので楽しい一日になるよう協力したいと思います。

(編集委員 13期 金曜 布野)

旧太田家は平成2（1990）年7月29日、裏山から打ち上げられた花火が原因の火災で焼損しましたが、幸いなことに主要な建築部材は焼け残りました。再用不能な柱や梁は組み立て状態で、その他の部材は分解した状態で収蔵庫（焼損小屋）内に保存しています。写真はその内部です。



当園では毎年7月末、11時30分から12時までと13時30分から14時までの2回保存材収蔵庫内部の一般公開と、ビジターセンターの2階で10時30分から11時30分まで、旧太田家焼損復旧工事記録の上映を行っていました。これらの行事に「炉端の会」は保存材収蔵庫内部の一般公開では来客のガイドを、また焼損復旧工事記録の上映では受付を行って園に協力しています。

平成25（2013）年度までは1月26日の「文化財防火デー」に実施していましたが、翌年度から日程を7月末に移しました。因みに「文化財防火デー」は昭和24（1949）年1月26日、現存する世界最古の木造建造物である「法隆寺の金堂」が炎上し、壁画が焼損したことに基づいて制定されました。

旧太田家の焼損材の組立保存は、焼損文化財（建築）保存としては日本では法隆寺金堂に次いで2例目との事です。

また以下は平成24（2012）年1月26日に作田家で行われた消防訓練の写真です。



（編集委員 11期 木曜 長谷川）

4-3 秋

4-3-1

五箇山がやってくる

旧江向家・旧山田家・旧野原家のあった五箇山地方の観光・物産展と五箇山民謡（「こきりこ唄」）公演が園と南砺市観光協会との共催で、平成23（2011）年から毎年10月中旬の土・日曜日の両日に行われています。

物産展は野原家で、観光展は山田家で、五箇山民謡公演は佐々木家の庭（雨天の場合はザシキ）で行われ、平成23年と24年は20時まで、25年以降は通常の床上公開時間内に行われています。

この行事に「炉端の会」は平成23・24年宿場の村、信越の村の6棟の火焚きを20時まで行い、平成25年以降は信越の村4棟の火焚きを通常の床上公開時間に行っています。1日3回の民謡公演では、庭にゴザを敷くなどの会場準備、観客の整理、公演終了後の片付けなどの協力を行っています。



こきりこ踊り



こきりこ踊りの出演者と歓談する来園者

（編集委員 11期 木曜 長谷川）

船越の舞台は通常公開していませんが、平成17(2005)年から9月中旬～10月中旬の約1ヶ月間の土・日曜日と祝日に、平成26(2014)年からはさらに5月中旬～6月中旬までの約1ヶ月間の土・日曜日も床上公開しています。この行事に「炉端の会」は全面的に協力し、公開日のガイド担当は各曜日班に割り当てられており、公開日には数名が参加しています。

春期・秋期の公開に先立って毎年園学芸員により「船越の舞台解説ボランティアマニュアル」によって公開の事前準備、退出時の処置や見学者への対応などの現場説明が行われています。また、見学者へのガイド内容の説明も現場で丁寧に行われますので、安心して対応できます。

公開日の一日の行動は次のようです。受付で鍵と日誌・カウンター・トランシーバーを受け取り10時に現場に集合し、公開準備を始めます。まず照明をつけ、正面の戸を開け、奈落口の蓋を開け、観覧コースに案内札を置き、入口にスリッパ・傘立てなどを置き、床上を掃き掃除します。舞台前面の床上に舞台の旧所在地の地図や移築前の写真、民家園まつりで行われている歌舞伎公演の写真などを展示して見学者を待ちます。「炉端の会」ガイドは見学者の案内と説明のために、舞台に2～3名、廻り舞台のメカニズムの説明のため奈落到1名、舞台建物の外に1～2名と配置につきます。ガイドは舞台建物の歴史、廻り舞台や奈落・花道・棧・棚・出語りなどの舞台設備と、舞台の裏にある興行記念額・銘板、襖・襖箱、幕箱などの資料について説明します。また11月3日の「民家園まつり」には有料で歌舞伎公演を行うことをPRしています。天気のよい日には多数の見学者が来られ、特に午後は対応に忙しくなります。

15時15分頃より舞台正面の戸を閉め始め、園より指示されている退出時の処置を行い日誌の記入をして、15時30分頃に退出して一日が終わります。



舞台の全面を開いて来客に説明



江戸時代の舞台装置の説明

(編集委員 11期 木曜 長谷川)

4-3-3

お月見をしよう

毎年 十五夜（中秋の名月、旧暦8月15日）に近い週末に、北村家で子どもたちと一緒にお月見団子をつくり、お月見の飾りつけをします。子どもたちには米を石臼で引く米粉つくりと、米粉にお湯を加えこね、かまどの大釜で茹で、さらに団子の形にしてセイロで蒸しあげるまでの行程を体験してもらいます。そして、北村家の庭でみたらしやきなこでお団子を試食し、お月見をします（天候に左右されますが）。その後、科学館に移動してプラネタリウムと屋上の望遠鏡で月の観察をします。

お月見の飾りに使う里芋は、北村家前の畑で環境・整備チームが育てた里芋を実際に土から掘り出す様子も見てもらっています。

平成24（2012）年までは、お月見団子だけではなく、かまどの薪で炊いたご飯でおにぎりをつくり、野菜たくさんのけんちん汁も作っていました。

昨年平成26（2014）年は、旧暦の関係で十五夜がまだ残暑の厳しい時期にあたり、十三夜（旧暦9月13日）に変更してこの行事を行いました。

この行事は、炉端の会を中心に実行委員会を結成して実施しています。



茹でる前の作業



飾り付け完了

（編集委員 9期 火曜 吉田）

4-3-4 実演「昔の大工仕事」と体験「子ども大工入門」

10月頃 民家づくりに欠かせない大工仕事・左官仕事・縄縛りの実演と体験が実施されますが、炉端の会では受付の手伝いをします。

実演は実際に園内の立木を伐り、伐った木の皮むき、チョウナ削りなどで、体験は子どもが泥壁塗りや縄縛り、年によっては茅葺き、丸太切り、かんながけ、小屋組立、プランター作りをします。混んでいなければ大人の方も体験できます。



- (上 生木を切り出す)
- (中 倒した木の皮をむき
マサカリで荒取り、
チョウナで平らに加工)
- (下 土壁体験)



(編集委員 9期 火曜 吉田)

4-4 冬

4-4-1

冬休みの火焚き

平成24(2012)年より冬休み期間中の12月第3週の1週間、各曜日班や同期の人たちによって床上公開が行われています。活動内容は通常の床上公開活動と同様です。活動終了後、忘年会などの懇親会が行われ、班や同期メンバーの親交を深めています。冬休み中ですが、親交を目的に活発に活動が行われているようです。

(編集委員 11期 木曜 長谷川)

4-4-2

お正月を遊ぶ

1月4日(または4日が月曜の時は5日)には、民家園では新年を祝う様々な催しが行われます。炉端の会はお正月遊びコーナーのお手伝いをしています。コマ回し、ベーゴマ、羽根つき、福笑い、宝引き、折り紙など、今ではあまり見られなくなっている昔あそびを子どもたちに体験してもらう。またこの日囀り炉裏の火焚きの他、火鉢にも炭を入れて、餅を焼いて子どもたちに見せたりもします。

平成26(2014)年までは、山下家前にて子どもたちの餅つき体験と、当日入園者に配布するあんこ餅、きなこ餅づくりのお手伝いをしました。平成27(2015)年正月は甘酒作りのお手伝いをしました。

この行事は、炉端の会を中心に実行委員会を結成して実施しています。



ベーゴマ指導

(編集委員 9期 火曜 吉田)

年中行事の展示件数は1月の「正月・しめ飾り」から12月の「ヨウカゾウ」まで16件ありますが、「小正月飾り」・「七夕」・「原家夏座敷」・「雪囲い」の4件を除いて、それらの飾り付けと撤去は展示チームが行っています（第3章チーム活動も参照）。

年中行事は代表的な日本古来のしきたりと季節の行事を再現したものです。これらの年中行事の展示を手伝うことによって、日本の農村で実際に行われていたしきたりや行事に触れることができることは、貴重な体験になっています。

各年中行事で使用する材料・道具の所在場所や、飾り付け方法の概要は園より配布された冊子「年中行事」や園所有の写真に示されています。飾り付け作業は園職員の指導と冊子に従って行っていますが、分からないところは調べたり、特に「ひな祭り」のひな段飾り、「五月飾り」の武者人形飾り、「盆行事」の砂盛りは複雑な作業が多いので、作業手順書を作ったりしています。

参加人員は、人手のかかる「正月・しめ飾り」、「ひな祭り」、「五月飾り」、「盆行事」は十数人、その他の行事は十人程度で、男女それぞれ出来る仕事を分担して行っています。

4-5-1

正月・しめ飾り

(1) 正月・しめ飾り

「正月・しめ飾り」は新しい年を迎えるための準備をする行事で、12月中旬から1月上旬まで北村家と作田家でそれらの展示をしています。

部品の数と細かい作業が多いため時間がかかるので、多くの人手が必要です。北村家の「正月飾り」は5つの神様の神棚と仏壇・床の間にしめ縄、しめ飾り、榊と松の束、南天、お供え餅などを供えます。その他に、しめ飾りを表と裏の出入り口に、餅つき用具を土間とヒロマに、土間に面した柱に煤払いの篠竹を飾ります。

作田家の「ししまど」に12月中旬から1月上旬まで、東北地方から九州地方までの各地のしめ飾り20点以上を展示します。しめ飾りにはウラジロ、ユズリ葉、ダイダイ、シメを付けますが、ウラジロは近くの林に自生するシダで代用し、ダイダイは北村家前庭のミカンで代用し、ユズリ葉は北村家屋敷内で調達し、それらの取り付けに苦労しています。また、しめ飾りの取り付け位置も写真ではよく分からず、その位置決めに毎年苦労しています。正月飾りは1月上旬、園で



正月飾り・しめ飾り



小正月飾り

撤去しています。

(2) ヨウカゾウ飾りの撤去

「正月・しめ飾り」の飾り付けを行った日、北村家前庭に12月上旬園が立てた「ヨウカゾウ飾り」のかごの撤去を行っています。竹竿を倒し、先端に取り付けてあるかごを竹竿より外し、竹竿は北村家裏の竿置場に収納します。

4-5-2 節分・ヨウカゾウ

(1) 節分飾り

「節分」は邪気を払うための豆まきが行われる行事で、1月下旬から2月上旬まで北村家で「節分飾り」を展示しています。

いろいろの横に餅のし板を置き、その上に5合升に大豆を入れて置きます。また、いろいろに鍋を吊るし灰の上に鉄板を置き、ナスの枯れ枝と豆がらを置きます。表口と裏口の柱にイワシの頭とヒイラギを付けた「蘇民将来子孫門也」と書いてある札を取り付けます。



節分飾り

(2) ヨウカゾウ

川崎では2月8日と12月8日を「ヨウカゾウ」と呼び、妖怪一つ目小僧を退散させるために目の多いカゴを家の前に高く掲げました。1月下旬から2月上旬まで北村家前庭で展示しています。長さ約4mの太い竹竿の先に粗目かごを取り付け、前庭の所定場所にある穴に竹竿を入れて固定します。



ヨウカゾウ飾り

(3) 小正月飾りの撤去

「節分・ヨウカゾウ」の飾り付けを行った日、1月中旬に民具製作技術保存会が飾り付けた「小正月飾り」を撤去します。北村家の神棚、仏壇に飾ってあるマユダマ10本、アワボ・ヒエボ15本、ケズリカケ5本を取り下げます。マユダマとモノヅクリの団子は枝より取り外しごみとして捨てます。モノヅクリ、マユダマ、アワボ・ヒエボ、ケズリカケ、タタキボウ、スイジンサマの木・竹は30cm程度に切って薪置き場に置きます。

4-5-3 ひな祭り

(1) ひな人形飾り

「ひな祭り」は女子の健やかな成長と、幸いを祈る行事で、2月中旬から3月上旬まで原家と北村家で「ひな人形」を飾り展示しています。

ひな段の各材料には番号や印が付いているので、それに従って7段の棚段を組み立てます。段に緋毛氈を左右きちんと揃え画鋏で止めますが、この作業に意外と時間がかかります。人形とその付属品は各々紙で包まれているので、壊さないように丁寧に解包します。人形は各付属品を付けて組み立てますが、部品が細かく壊れ易いので細心の注意を払って取り扱っています。部品の数が多く、なかなか探せない場合もあるので、時間がかかっています。男性は主に棚段の組み立てを、女性は主に人形の組み立てを行うように作業を分担しています。2ヶ所のひな段の飾り付けには約2時間か



ひな人形飾り付け作業



ひな人形飾り

かります。春が近づいたと感じるときです。

(2) 節分・ヨウカゾウ飾りの撤去

「ひな人形飾り」を行った日、北村家の前庭に1月下旬に立てた「ヨウカゾウ飾り」のかごを撤去しています。方法は12月中旬に撤去した「12月ヨウカゾウ」と同じです。「節分飾り」の豆、升とヒイラギとイワシの頭、のし板は所定場所で保管します。

4-5-4

蚕影山縁日

(1) 蚕影山縁日飾り

蚕影山祠堂の縁日は3月23日(旧暦2月23日)でした。蚕の神様への感謝と豊作を願うこのお祭りを再現するため毎年3月中旬から下旬に蚕影山祠堂で「縁日飾り」の展示を行っています。

まず、覆堂内部と外部を掃除します。次に、丸い形とマユの形をした紅白の団子を葉の付いたカシの木の枝に挿しこれをお堂の上下、左右に飾ります。また、数個のマユを糸で縛って結び、覆堂の格子に吊るします。3個の



蚕影山縁日飾り付け作業

三方に果物、野菜（いも）を載せお堂の前の床に置きます。祠堂の前に幟を2本立てます。お祭り終了後、幟と飾りは園職員が撤去します。

（2）ひな祭り飾りの撤去

「蚕影山縁日飾り」を行った日、原家と北村家に飾ってある「ひな祭り飾り」の撤去を行っています。

ひな人形は人形本体と付属品をそれぞれ1個ずつ紙で包み、所定の箱に収納して原家、北村家の所定の場所に保管します。品数が多いので処理するのに時間がかかります。段飾り用の棚の部品は分解し、まとめて束ねて原家、北村家の各々の所定の場所に収納し保管します。

4-5-5

五月飾り

「5月飾り」は男児の成長と出世をお祝いする「端午の節句」に行われる「五月人形」を飾り「武者幟」を立てる行事で、4月中旬から5月中旬まで原家と北村家で展示をしています。



武者人形の段飾り作業



武者幟の竿立て作業

（1）原家内飾り

原家のブツマに「兜」の飾り付けを行います。畳の上に緑色の布を敷き、その上に金屏風を立てその前に「兜」を中心に右側に花菖蒲、左側に木札を置きます。前方に三個の三方を置き、それぞれに柏餅・菖蒲・ちまきを載せます。

（2）北村家内飾り

北村家のオクに3段の「武者人形」を飾ります。まず、棚段の組み立てを行いますが、細部の組み立て方法はさらに写真や図面により手順書の形に纏めてあります。飾り物の部品で痛んでいるものもあるので、細心の注意を払って取り扱っています。上段には幟台に幟など9本を立て、風で台が倒れないように紐と画鋏で固定します。中段には鎧を中心に武士の調度品類を



原家兜飾り

並べ、下段には花やお供え物を並べます。

(3) 北村家外飾り

園職員の指導により、前庭に武者幟3本と鯉幟を立てます。前庭の所定場所の竿穴に鯉幟用の木竿を立て、添木にボルトで固定し、鯉を吊り下げるロープを張ります。武者幟用の竹竿3本は先端に榼を付け、所定の竿穴に立て、共通の支柱に縛り固定します。これらの作業は力仕事のため、男性が数人がかりで行っています。



北村家武者人形飾り

4-5-6 マンガアライ

(1) マンガアライの飾り付け

「マンガアライ」は田植えが終わったお祝いの行事で、5月中旬から6月中旬まで清宮家の土間で「マンガアライ飾り」を展示しています。

飾り付けに使う材料や道具は、清宮家の土間と隣の農具小屋の下屋に保管してあります。清宮家の土間にムシロを敷き、その上に田植えで使った鍬・マンガ（人用・馬用）・馬鋤・コロガシ・天秤棒と平ざる等の農具やソバと天ぷらと榼を挿したお神酒徳利を載せた角盆のお供え物を設置します。



マンガアライの飾り付け作業



マンガアライ飾り

(2) 五月飾りの撤去

「マンガアライ飾り」の飾り付けを行った日、「五月飾り」の撤去を行っています。「原家の内飾り」と「北村家の内飾り」は各材料・部品に分解し、壊れたものは補修して丁寧に個々に紙で包み、所定の袋または箱に収納して、所定の場所で保管します。段飾りの棚段は各部品に分解し一括して束ね、所定の場所で保管します。「北村家外飾り」は鯉幟用木竿と武者幟用竹竿を固定してある支柱から外し、倒します。竿の先端に付けた榼は取り外し袋に入れて北村家の所定の場所で保管します。竿と支柱は北村家の裏の竿置き場で保管します。竿の取り外しは力仕事のため、男性数人で行って

ます。

4-5-7

盆行事

盆行事は祖先の霊を迎え慰める行事で、「盆棚飾り」と「砂盛り飾り」を7月下旬から8月中旬まで、北村家で展示しています。

(1) 盆棚の飾り付け

「盆棚飾り」は北村家があった秦野地方の様式に倣っています。仏壇の前に盆棚を作ります。まず、盆棚周囲に篠竹4本の柱を立て竹の間をしめ縄で結びます。しめ縄にはイネ・ホウズキ・クリ・カキ・サトイモなどを取り付けます。壁に掛け軸をかけ、棚には仏壇にあった位牌や仏具、野菜・果物・ソバ・オハギなどを供えます。これらの飾り付けの作業は主に女性が行っています。



盆棚の飾り付け作業



盆棚飾り

(2) 砂盛りの作成

「砂盛り」は篠竹と土・砂で屋敷の入口に作ります。篠竹は園内の群生場所から直径1cm以上の太いものを十数本取ってきます。このうち4本は盆棚に使います。砂



砂盛り作り作業



砂盛り飾り

盛りの大きさは、一辺の長さが一段目約45cm、二段目約30cm、高さは一段目約30cm、

二段目約 5cm で、周囲を篠竹で丸太小屋のような壁を作り、中に水で捏ねた土を入れて固めます。これに周囲を竹で囲み、土で固めた階段を付けます。砂盛りの土の表面全体に砂をかけて化粧して完成させます。この砂盛りの上段にナスの牛、キュウリの馬を置き、盆花を飾ります。真夏の炎天下で作業をするため、作業時間をできるだけ短くするように作り方の手順書を作ることを考えています。この作業は男性だけで行っています。

4-5-8

十五夜

(1) 十五夜飾り

「十五夜」は秋の収穫物を供えて名月を愛でる行事で、「十五夜飾り」は8月下旬から9月上旬まで、北村家で展示しています。

オクの机の上に供え物を設置します。供え物はどんぶりに載せた団子、皿に載せた豆腐、サツマイモ・サトイモ、柿・栗などとお神酒徳利です。また、花器にススキ、



十五夜飾り付け作業



十五夜飾り

オミナエシなど秋の七草を生けます。「十五夜飾り」は9月中旬、職員が撤去します。

(2) 盆行事の撤去

「十五夜」の飾り付けを行った日、「盆行事」飾りの撤去を行っています。「盆棚」を飾った各材料のうち、レプリカは袋に入れ所定の箱に収納し、所定場所で保管します。生ものは廃棄し、位牌・仏具は仏壇に戻します。

「砂盛り」で使ったレプリカの牛・馬・盆花は袋に入れ所定の箱に収納し、所定場所で保管します。砂盛りで使った篠竹は付着している土を拭い、薪置き場に置きます。土と砂は近くの木の根元に戻します。

4-5-9

刈り上げ

(1) 刈り上げ飾り

「刈り上げ」は稲を刈り上げ、無事作業が終ったことを神に感謝する行事で、「刈り

上げ飾り」は10月上旬から10月下旬まで、北村家で展示しています。飾り付けは簡単で、台（餅のし板）の上に稲束、鎌2本、角盆に小豆粥と榊をさしたお神酒徳利を置きます。

4-5-10 扱き上げ

(1) 扱き上げ飾り

「扱き上げ」は稲をすべて扱き上げた時に行うお祝いの行事で、「扱き上げ飾り」は10月下旬から11月中旬まで、清宮家土間で展示しています。

飾り付けに使用する材料・道具は清宮家土間と隣の農具小屋の下屋に保管されています。土間にムシロを敷き、その上に千歯扱ぎ・稲束・箕・唐箕・唐臼・唐箕・くり棒・万石通し・臼等を置きます。この飾り付けには唐箕などの大きい物や、臼などの重い物を移動させるなどの力仕事があります。

(2) 刈り上げ飾りの撤去

「扱き上げ飾り」の飾り付けの日、「刈り上げ飾り」の撤去を行っています。飾りに使用した材料・道具は所定の箱に入れ、所定の保管場所に戻します。

(3) 扱き上げ飾りの撤去

「扱き上げ飾り」は11月中旬展示終了後撤去し、使用した材料・道具を元の保管場所に戻しておきます。



刈り上げ飾り



扱き上げ飾り

(編集委員 11期 木曜 長谷川)

囲炉裏を囲みながら、むかし話を聞く会が定期的に行われています。毎月第1土曜日には、多摩区ストーリーリングおはなし万華鏡による「万華鏡のむかし話」が作田家にて、奇数月第3土曜日には、みちのくむかし語りによる「みちのく・むかし話」が菅原家にて、偶数月第3土曜日には、大平悦子さんによる「遠野の語り」が工藤家にて、偶数月第4日曜日には、日本民話の会による「お国言葉で語りっこ」が菅原家にて、各地に伝わる民話が語られています。

炉端の会では囲炉裏に火を入れて、参加者に昔ながらの雰囲気の中でそれぞれの言葉での民話を楽しんで頂くお手伝いをしています。



万華鏡のむかし話

(編集委員 9期 火曜 吉田)

第5章 研修活動 目次

5-1	はじめに	5-1
5-2	園外研修	
5-2-1	園外研修の歴史	5-2
5-2-2	園外研修の記録	
5-2-2-1	平成12年 大和民俗公園 他	5-3
5-2-2-2	平成15年 山本家 他	5-4
5-2-2-3	平成17年 北村家・岩澤家 他	5-4
5-2-2-4	平成18年 広瀬家 他	5-5
5-2-2-5	平成19年 太田家 他	5-6
5-2-2-6	平成20年 佐々木家 他	5-7
5-2-2-7	平成21年 作田家 他	5-8
5-2-2-8	平成22年 鈴木家 他	5-10
5-2-2-9	平成23年 三澤家 他	5-14
5-2-2-10	平成24年 江向家・山田家・野原家 他	5-18
5-2-2-11	平成25年 工藤家 他	5-21
5-2-2-12	平成26年 菅原家 他	5-23
5-3	学習会の記録	5-25
5-4	新人研修(第15期)	5-33

第5章 研修活動

5-1

はじめに

炉端の会では活動の向上を図るため各種研修が行われている。現在では学習会（原則月1回）、班長会主催園外研修（概ね年1回）などのほか各期・各曜日班・有志による懇親を兼ねた園外研修・研修会など多彩に行われている。

炉端の会の新規加入者への新人研修は、募集時のボランティア講座（概要）、活動開始半年間の各村ごとの研修、及び、通常公開棟内で日常的に行われている。

その他、定時ガイド・団体ガイド・フリーガイドへの随伴、炉端文庫（民家・民俗関連図書）貸出、民家解説、展示解説、各種講座（会員は料金半額）など様々な学習の機会がある。

（編集委員 13期 金曜 布野）

5-2 園外研修

5-2-1

園外研修の歴史

園外研修の内容は、炉端の会 20 年の前半 10 年と後半 10 年とでかなり異なっている。

平成 6（1994）年 9 月に活動開始した第 1 グループは 11 月に高津区の影向寺を見学するなど活発な研修活動を行ない、その後第 2・3 グループが発足するとグループ合同研修（平成 10（1998）年 10 月「観音様と民家集落の旅」、平成 11（1999）年 5 月伊那部宿（三澤家）を訪ねる」、平成 12（2000）年 9 月「奈良県立大和民俗公園・民俗博物館」など）も行われた。さらに各グループごとの自主研修も盛んに行われた。

研修の目的は寺社仏閣や古民家を建築物として勉強して日々の活動に資することにポイントが置かれていた。

平成 17（2005）年 4 月炉端の会の体制が再編されたが、一年間中断されていた園外研修については班長会主催で実施することとし、現在も最大のイベントとなっている。

また、研修の目的は、

- ・民家園に移築されている民家の旧所在地を訪問し現地の気候風土・地理的条件を体感すると共に、旧所有者から直接お話を伺う
- ・旧所在地近隣の重文民家などを訪ねて彼の地の地理・歴史・民俗・文化についての見識を広める

ことによって来園者が民家園の古民家に親しんでいただけるような説明が出来るようになることにもポイントが置かれている。

実施に当たっては日帰りが可能な地域から行うこととなり、平成 17（2005）年北村・岩澤家、平成 18（2006）年広瀬家など、平成 19（2007）年太田家など、平成 20（2008）年佐々木家など、平成 21（2009）年作田家など毎年行われた。平成 22（2010）年からは遠隔地に赴く宿泊研修が行われ、平成 22（2010）年鈴木家、平成 23（2011）年三澤家、平成 24（2012）年江向家・山田家・野原家、平成 25（2013）年工藤家、平成 26（2014）年菅原家の旧所在地を訪問し知見を高めている。

この結果、民家園所蔵民家について平成 26（2014）年で西日本以外の訪問がほぼ一巡したため、平成 27（2015）年からは当初訪問地の再訪が計画されている。

（編集委員 13 期 金曜 布野）

5-2-2 園外研修の記録

5-2-2-1 平成12年 大和民俗公園他

3期 金曜 小林 紀久子

平成12（2000）年9月には、前年9月から活動を始めた第3グループも参加した炉端の会「合同研修旅行」があり奈良県大和郡山市の大和民俗公園を訪れ民家集落を見学した。

広い公園内には奈良県内の江戸時代の民家集落が4ブロック（町屋、国中、宇陀・東山、吉野）に分けて移築復元されている。

この集合写真は、「吉野ブロック」の旧前坊家住宅（県指定文化財）の前で撮ったもの。



5-2-2-2

平成15年 山本家 他

- ・平成15(2003)年12月5日(金)
- ・行程 神栖町歴史民俗資料館、山本家住宅、鹿島神宮
- ・参加 44名

・研修の概要

当日は、登戸駅前に集合して茨城県方面に向かい、神栖町歴史民俗資料館に到着。

ここで見学と昼食・休憩も行ない、続いて神栖町「山本家」住宅を見学しました。

この山本家は、作田家と同様に名主も勤めていた網元の家で、建物の建築年代は18世紀前半と考えられており、国の重要文化財に指定されています。

最後に、鹿島神宮に参拝して帰途につきました。

5-2-2-3

平成17年 北村家・岩澤家 他

- ・平成17(2005)年12月6日(火)
- ・行程 北村家、県立秦野戸川公園、岩澤家
- ・参加 55名(うち園職員3名)

・研修の概要

当日は、貸切バスに乗車して、まずは北村家に向かい、移築当時のご当主北村一平ご夫妻から移築時の様子その他諸々のお話しをお伺いしました。

県立秦野戸川公園で昼食・休憩後、清川村に向かい、岩澤家では移築時のご当主のお孫さんである岩澤裕之さんから、岩澤家にまつわる貴重なお話しをお伺いしました。

民家園に移築されている2軒のふるさとを訪れ、有意義な一日となりました。

(編集委員 11期 水曜 羽石)

- ・平成18（2006）年11月17日（金）
- ・行程 甘草屋敷（旧高野家住宅）、上条集落、旧広瀬家住宅所在地
- ・参加 60名

- ・研修の概要

当日は、多摩区役所前を出発して中央道を塩山に向かい、まず「旧高野家住宅」を見学しました。高野家は江戸時代初期から甘草の栽培を始め、俗に「甘草屋敷」とも称される旧家で、建物の建築年代は19世紀前半とされ重要文化財に指定されています。

笛吹川フルーツ公園で昼食後、上条集落の切妻民家群を見学して、広瀬家に向かいました。

旧広瀬家所在地では、ご当主からお話しをお伺いするとともに、建物の構造に影響を与えた地形や気候などを実地に体感しました。



ご当主広瀬頼正さんより話を聞く



甲州市職員から突き上げ屋根の説明を受ける「上条集落」
（編集委員 11期 水曜 羽石）

- ・平成19（2007）年11月15日（木）
- ・行程 塙家住宅、太田家住宅旧所在地、大場克己氏邸
- ・参加 97名

- ・研修の概要

当日は、生田緑地の駐車場に集合し、まずは笠間市の塙家住宅を見学しました。塙家は江戸時代初期から名主を代々務めた旧家で、建物は太田家と同じ分棟型民家であり、国の重要文化財に指定されています。

すぎのや本陣笠間店で昼食休憩後、目的地である太田家の旧所在地を訪問し、その後大場克己邸（国登録文化財に指定されている茅葺き民家）を見学して帰途につきました。



（上左・上右 塙家）

（下 大場家）

（編集委員 11期 水曜 羽石）

- ・平成20（2008）年11月12日（水）
- ・行程 海野宿、佐々木家・千曲川
- ・参加 94名
- ・研修の概要

当日は、民家園を出発し関越道、上信越道などを經由して、午前中は「^{うんの}海野宿」を見学しました。

海野宿は、江戸時代初期に北国街道の宿駅として開設され、うだつ、海野格子と呼ばれる長短2本の組み合わせが美しい格子戸、旅籠屋の出桁造りなど、宿場町の建物の様子を見ることができます。



バスを降りて海野宿へ



立派なうだつが目立つ街道筋

海野宿を散策後佐久平駅近くの「佐久乃おぎのや」で名物の“釜飯弁当”の昼食後、佐々木家を訪問して、ご当主から懇切丁寧な説明をしていただきながら、佐々木家の歴史その他について学習し、帰途につきました。



昼食場所「佐久乃おぎのや」



ご当主佐々木嘉幸さんから説明を受ける
（編集委員 11期 水曜 羽石）

- ・平成21（2009）年11月10日（火）
- ・行程 作田家、石堂寺・旧尾形家住宅
- ・参加 104名

- ・研修の概要

生田緑地前から出発したバスは、アクアラインを通過して房総半島を横切り、まずは九十九里町の作田家所在地を見学しました。現地では、現在のご当主から、歴史や環境など作田にまつわる貴重なお話しをお伺いしました。また海岸では九十九里高校教諭の斉藤さんから当時の浜と網元や漁師の住まいの位置関係などもお伺いしました。



現作田家前（屋号“^{もとなや}本納屋”の看板）



ご当主作田倉治さんから説明を受ける

国民宿舎「サンライズ九十九里」で名物イワシの“なめろう”等の昼食をとりました。



昼食後、外房海岸沿いに南下し、南房総市に移動、石堂寺、旧尾形家住宅（房

総式分棟型住宅で国指定の重要文化財。柱に享保13年の墨書がある）を見学しました。



石堂寺には国指定重要文化財 多宝塔、本堂、薬師堂、木造十一面観音立像がある。国指定重要文化財の旧尾形家も石堂寺の境内に移築されている。



旧作田家と同じ「分棟型」旧尾形家住宅

夕暮れぎりぎりまで石堂寺と旧尾形家住宅を見学したあと、東京湾沿いに北上し、行きと同様“海ほたる”を經由して戻りました。

(編集委員 11期 水曜 羽石)

5-2-2-8

平成22年 旧鈴木家 他

・平成22（2010）年11月11日（木）～11月12日（金）

・参加者 79名（園職員3名を含む）

・集合時間 午前7時15分（出発7時30分）

・集合場所 日本民家園前

・行程 1日目

日本民家園→東名川崎 IC→安達太良 SA（昼食：弁当）→福島西 IC→福島市民家園
→奥州街道八丁目宿（旧鈴木家所在地）→二本松 IC→会津若松 IC→割烹・田季野
（夕食）

→会津若松ワシントンホテル（1号車）/ホテル・ルートイン会津若松（2号車）

・行程 2日目

ホテル→旧滝沢本陣→会津武家屋敷→奥会津博物館→西那須野塩原 IC→川崎 IC→
民家園

概要 福島県会津地方の民家と八丁目宿（はっちょうのめじゅく）と呼ばれた旧鈴木家のあった場所を実見する。

1日目（11月11日）

民家園を出発後、安達太良 SA で休憩兼昼食をとり、福島市民家園を訪ねた。同じ民家園のボランティアと云うよしみもあり、丁寧に案内してくれ一同感激する。こ

この民家園は旧鈴木家が日本民家園に移築された事が契機となって昭和57年8月に開園されたとのこと。園内には江戸時代中期から明治初期にかけての県北地方の民家・三間取り農家・上層農家・戊辰戦争の舞台となった旅館、



1号車の皆さん（水・木・土日A）

および芝居小屋等が展示されている。また、見学後は集合写真を撮影した。

2号車の皆さん（火・金・土日BCD）



写真撮影後、かつて八丁目宿と呼ばれた、福島市松川町の旧鈴木家の所在地へ向かう。

鈴木家では、ご当主の鈴木長太郎さん（昭和24年生）にお会いしお話を伺った。写真のハンディースピーカを持っているのが長太郎さんである。



この後、鈴木家を後にして夕食会場の田季野に向かう。

夕食は懇親会
も兼ね、大い
に盛り上がる。



二日目（11月12日）

ホテル出発後、旧滝沢本陣に向かい見学する。慶応4年8月22日に同所であった
戊申戦争時の弾痕や刀傷があちこちに残り、戦いの激しさを物語っていた。



旧滝沢本陣を見学後、会津武家屋敷に向かう。

ここは、会津藩家老・西郷頼母の邸宅を中心に幕末の武家屋敷や武家のくらしを再現している。ちょうど菊祭りがおこなわれていてラッキーであった。



この後、奥会津博物館に向かい、昼食兼見学となる。

ここは、奥会津の人々の生産とくらしを伝える歴史民俗資料を、山・川・道の3テーマに分けて展示しており、体験の場もある。また、馬宿（国指定重要有形民俗文化財「旧大竹家」）、染屋（町指定重要有形民俗文化財「旧杉原家」）等の茅葺民家他がある。



馬宿「旧大竹家」

全てのスケジュールを終了し、民家園に帰る。

（編集委員 10期 土曜 水野）

- ・平成23（2011）年11月9日（水）～11月10日（木）
- ・参加者 89名（園職員2名を含む）
- ・集合時間 午前7時45分（出発8時00分）
- ・集合場所 日本民家園前
- ・行程 1日目

日本民家園 → 中央高速 → 馬場家住宅 → 薬師平菡宿（昼食）→ 伊那部宿（三澤家・旧井澤家） → ホテル

2日目

ホテル → 駒ヶ根（旧竹村家・光前寺） → みはらしファーム（昼食・リンゴ狩り）→ 奈良井宿 → 中央高速 → 日本民家園

概要

民家園に集合し、朝早く伊那部宿に向かう。途中塩尻ICで高速を降り、「雀おどし」と呼ばれる独特の棟飾りを持つ「馬場家住宅」（重文）に向かう。馬場家の伝承では、先祖は武田信玄の家臣・馬場美濃守信春の縁者とされ、藩主を家に迎える為の部屋を持つ等、諏訪高島藩と親密な関係を持つ特別な地位にあったとされる。

（↓本棟造りの馬場家住宅）



馬場家を辞し、昼食後、伊那部宿の三澤家に向かい約40年前に民家園に移築された跡地（現在は新居）を見学する。現地では、ご当主三澤良信氏、訓子氏の出迎えを受け説明を受ける。また、伊那部宿の案内を「伊那部宿を考える会」の会長である森氏が実施してくれた。



炉端の会の吉沢会長は「思っていた通り、裏山まで続く立派な家だった。伊那部宿も古い家が残っていて、非常に良い。民家園でガイドする際にこういうところだった、と伝えていきたい」と

地元紙の取材に答えた。

また、伊那部宿の南の端にある、「旧井澤家」も見学した。この家は天保11年・14年の大火にただ一軒だけまぬがれた伊那部宿では最古の建物である。

以下は同家前での記念写真



二日目はホテルを出発した後、駒ヶ根市郷土館中にある旧竹村家（重文）に向かった。



その後、光前寺に向かう。光前寺は、「光苔」でも有名であるが、残念ながら訪れた日はシーズンを外れていた。



その後、見晴らしファームでの昼食を取りリンゴ狩りを楽しむ。美味しいリンゴの見分け方を教えてもらい、その通りだと感激する。

次に、最後の訪問地である奈良井の宿を訪ね、古い宿場町の雰囲気を楽しみ、民家園に帰る。

以下は、奈良井の宿・木曾大橋での集合写真である。



(編集委員 10期 土曜 水野)

5-2-2-10 平成24年 旧山田家・野原家・江向家 他
～「古民家の故郷を訪ねて～合掌造り（五箇山・白川郷）」

- ・ 期間 平成24（2012）年11月8日～10日
- ・ 参加者 42名（園職員2名含む）
- ・ 行程
 - 11月8日 名古屋駅集合⇒桂湖（旧山田家跡地）⇒岩瀬家（重文）・行徳寺
⇒ 国民宿舎 五箇山荘（宿泊）
 - 11月9日 五箇山荘⇒羽場家（重文）⇒流刑小屋⇒白山宮⇒村上家（重文）
⇒菅沼集落（五箇山民俗館・硝煙の館）⇒利賀村（野原家）
⇒相倉集落・合掌造り民宿（宿泊 分宿）
 - 11月10日 相倉合掌造り集落⇒旧江向家跡地⇒白川郷萩町
⇒名古屋駅解散
（五箇山の菅沼集落・相倉集落、白川郷の萩町集落は世界遺産である）

・ 研修の概要

（11月8日）

名古屋駅に集合後、途中の道の駅での昼食後、湖底に沈んだ旧山田家が所在していた桂湖のビジターセンターで西赤尾小学校桂分校の最後の先生 寺崎満雄さんより6軒の家族が1つの家族の様にお互いに助け合って生きてきた事 生活振りをお聴きしました。（又 助け合わないと生活が成り立たなかった事もあるようです）



桂湖ビジターでの寺崎先生の話



桂湖の虹と紅葉

- * 桂湖に到着時に真っ赤な紅葉が桂湖に映え、丁度、桂湖から近くの山に架かった素晴らしい虹の景色は3年近く経った今でも鮮やかに目に浮かびます。

岩瀬家 およそ300年前に8カ年の歳月をかけて建てられた5階建て、五箇山最大の合掌造り家屋で釘を全く使用していない内部構造の様子、道具、現当主の話をお聴きしました。



岩瀬家住宅

国民宿舎 五箇山荘（宿泊）
地元有志の方の日本最古の民謡、こきりこ節の唄と踊りを愉しみながら、岩魚料理を始めとする地元料理を堪能しました。

（11月9日）

流刑小屋 江戸時代の加賀藩の政治犯が収容されていた小屋で外部とは食事を入れる所があるだけで政治犯1人が寝起き食事をするだけのスペースがあります。暗く湿気があり当時の政治犯の生活振りが思いはせられます。

（昭和40年に復元されたものです）

菅沼集落 世界遺産合掌造り集落、9棟の合掌造りがあります。



紅葉の菅沼集落

五箇山民俗館 当時の生活ぶりが偲ばれる生活道具、資料が展示してあります。
（当時は外部との交流がやり難い陸の孤島と考えられた所ですが文化の香りがする資料が沢山ありました。）

煙硝の館 煙硝作りの装置、資料があります。
当地の説明では人間の小便はふりかけないそうです。（日本民家園説明との違い）

野原家 42人の仲間全員が野原家の座敷に上げて頂き、作りたてで最高に

旨い栃餅や茶菓子をご馳走頂きながら先代当主夫人より45年前に結婚した時の野原家の生活振り、近所の話をお聴きしました。



立派な仏壇がある野原家座敷

相倉合掌造り集落(宿泊、分宿)
世界遺産合掌造り集落、20棟の合掌造りがあります。

囲炉裏で時間を掛けて炙った岩魚の骨酒や地元料理を堪能しながらの当主の茅葺作り、屋根葺き、冬の雪掻きの話を聴き、仲間と夜遅くまで会話を愉oshimimashita。

(11月10日)

相倉集落での紅葉真っ盛りの散策を愉oshimi、最高の時間を過ごしました。

江向家跡地 すぐ横に高岡までの国道156号線があり多くの車が走行して当時の名残が余りありませんでしたが、近所の数名の方が出て来られ江向家の玄関場所、間取り等親切に教えて頂き、当時の生活振りが偲ばれました。



江向家跡地

白川郷萩町 世界遺産合掌造り
中国人を始めとする多くの外国の方が往来されており、土産店も多く静かな五箇山と「対照的」でした。

「*今研修には五箇山が所在する南砺市より研修助成金として参加者一人当たり3千円の助成金と南砺市の職員の方が道中不都合が無い様に付き添う等格別のご配慮を頂きました。心から感謝とお礼を申し上げます。」

(編集委員 9期 金曜 鍛冶)

・平成25(2013)年11月7日(木)～11月9日(土)

・行程

11月7日 盛岡駅集合 市内見学 紫波町 工藤家訪問 花巻温泉泊

8日 北上みちのく民俗村 遠野伝承園等見学 あえりあ遠野泊
昔ばなしの夕べ

9日 遠野ふるさと村 千葉家(重文) 盛岡駅解散

・参加 48名(うち民家園2名)

・研修の概要

(11月7日)

盛岡駅に集合後、明治時代に金融の中心地として栄えた紺屋町周辺の歴史的建造物「もりおか啄木・賢治青春館(建物は国重要文化財)」「岩手銀行中ノ橋支店(辰野金吾設計)」などを見学。

その後、バスで民家園に移築された旧工藤家の所在地だった紫波町に向かう。現地では工藤家をはじめ近隣の方々から大歓迎を受けた。炉端の会からは御礼として民家園の旧工藤家の写真パネルを贈呈し喜んでいただいた。

また、明治41(1908)年生まれでご健在の工藤ソノさまはじめ工藤家の方々から南部の曲り屋や座敷わらしなどについての興味深いお話を伺い、民家園の旧工藤家について理解を深めることが出来た。

名産のお料理などをいただきながら歓談し、工藤家をはじめ皆さまが我々炉端の会の活動を高く評価していただいていることを知り今後の活動への意欲が高まった次第である。

(11月8日)

宿を出発して南下し、北上川に沿った「みちのく民俗村、北上市立博物館」を訪問しボランティアの方の案内で見学した。みちのく民俗村は10軒の茅葺民家などが復元されておりこの地の民俗・文化について知ることができた。

次に遠野市に向かい「伝承園」で遠野地方のかつての生活様式や伝承行事などの知見を高め、引き続いて民俗学者柳田国男の遠野物語の舞台ともなった「カッパ淵」「デンデラ野・ダンノハナ」「山口の水車」などを見学した。

夜には宿で遠野の昔ばなしを拝聴することができ、これら一連の研修によって遠野物語に描かれた「日本人が自然・神様・社会のありようなどについてなにを考えて生きていたのか」を知ることができ、また、これによって今を考える大変良い機会となった。



遠野 伝承園にて

(11月9日)

まず、市内の「遠野ふるさと村」を見学した。村には江戸時代に建てられた「肝いりの家」をはじめ広大な曲り家が集められており昔ながらの山里の文化や生活を知ることができた。

盛岡への帰途、国の重要文化財である「千葉家」を見学した。小高い丘の中腹の小城のように構えられた大型曲り家を中心に土蔵・納屋・社などがある豪農の屋敷構えである。

一方で、間取りは合理的で家は住まい手の生活や地域環境を背景に工夫が重ねられ進化するものであることを伝えていた。

盛岡駅で解散、3日間の大変有意義な園外研修を無事終了した。

(編集委員 13期 金曜 布野)

・平成26(2014)年11月6日(木)～11月8日(土)

・行程

11月6日 山形駅集合 菅原家訪問 田麦俣旧遠藤家住宅 休暇村羽黒泊
7日 出羽三山神社 致道博物館(旧渋谷家(重文)) 酒田泊
8日 国営みちのく公園ふるさと村 仙台駅解散

・参加 57名(うち民家園2名)

・研修の概要

(11月6日)

山形駅に集合後、バスで鶴岡市松沢の菅原家に向かう。現地では現在の当主である淳一氏にお目に掛かることができた。

お話によると地域は過疎化が進み特に若い人が定住しないとのことで静かな集落であった。豪雪地帯のため既に現代風の雪囲いが家を取り囲んでいたが、ご当主によれば昔は旧菅原家の二階からスキーで出入りすることもあったとのことである。

また、当時の生活についていろいろお話を伺い今後の活動の参考になるとともに、民家園での炉端の会の活動を評価しているとのことをお話をいただき大いに励まされた。

その後、田麦俣の旧遠藤家(茅葺屋根の多層民家・県指定有形文化財)を見学した。田麦俣は六十里街道の要所で湯殿山信仰が盛んになるにつれ宿場の性格を帯びてきた集落である。豪雪地帯のため出



田麦俣 旧遠藤家住宅

入り口の確保と敷地が限られているため多層構造が必要であった。高ハツポウの兜造りで旧菅原家と同様の外観である。

(11月7日)

まず、山岳信仰の霊地である出羽三山の羽黒山山頂三山神社の豪壮な茅葺社

殿、国宝の羽黒山五重塔や随神門などを見学した。いずれも歴史に裏打ちされた荘厳さに圧倒される思いであった。

次に、米どころ庄内平野に位置する鶴岡市を訪ねた。数多くの史跡や文化財がいにしへの面影を伝える城下町である。

庄内にまつわる文化財が多く展示されている致道博物館を見学した。

なかでも国の重要文化財である田麦俣から移築された旧渋谷家は昨日見学した旧遠藤家と同様重厚な茅葺きの民家であった。

その後、最上川の河口に開かれ湊町、商人のまちとして大いに栄えた酒田に向かった。到着後は山居倉庫などを散策し豊かな自然や今なお残る湊町文化を感じることができた。

(11月8日)

出発前の時間を利用して酒田の豪商本間家の旧本邸や日本海海運に大きな役割を果たした廻船問屋の鐙屋などを見学した。

仙台へ向かう途上、宮城県川崎町のみちのく公園ふるさと村を訪問した。

この村には東北六県の特徴ある茅葺民家が7棟移築復原されている。岩手・遠野の南部曲り家、秋田・本庄由利の両中門造りの家、青森・津軽の内馬屋式直屋など各地の歴史と風土に培われた民家を見学し大変勉強になった。

また、国営ということもあり映像や模型、展示物などをふんだんに使って判りやすく、興味を持たせる紹介をしており民家園の活動の大いに参考となった。

仙台駅で解散、3日間の大変有意義な園外研修を無事終了した。



みちのく公園ふるさと村にて

(編集委員 13期 金曜 布野)

学習会の記録

		学習会題目・園外研修	講師 (敬称省略)
平成6年	9月	「川崎の文化財展」(川崎市市民ミュージアム)見学	三輪
(1994年)	10月	合掌造りの比較(五箇山・白川地方)	大野
	11月	寺院の構成と役割	三輪
	〃	「影向寺と周辺の歴史的社寺」見学	三輪
平成7年	1月	重要文化財と旧神戸居留地15番地の復原について	大野
(1995年)	2月	神奈川の民家について	大野
	3月	年中行事について	小坂
	4月	旧工藤家住宅について	大野
	5月	大善寺について	三輪
	6月	「大善寺」(山梨県)の見学	三輪
	7月	東寺について	三輪
	8月	移築直前の状況について	野呂瀬
	9月	わが国における阿弥陀信仰の展開について	三輪
	10月	「古寺巡礼 東寺(京都)東大寺他(奈良)」見学 (有志)	三輪
	〃	村・家・神	三輪
	11月	「江戸・東京たてももの園」の見学	三輪
平成8年	1月	村・家・神	三輪
(1996年)	2月	東北地方における民家建築に関する禁令	野呂瀬
	4月	江戸時代の宿場について (1)	三輪
	5月	「郷土の森(府中)・高幡不動」見学	三輪
	6月	江戸時代の宿場について (2)	三輪
	7月	江戸時代の宿場について (3)	三輪
	8月	仏像について	三輪
	9月	寺院建築について(間面記法)	三輪
	〃	「淡海(おうみ)の国・石山寺他9社寺」見学研修(有志)	三輪
	10月	「民家解説ツアー (1)」	大野
	〃	「長念寺(登戸)・妙楽寺(長尾)各文化財」見学研修	三輪
	11月	「民家解説ツアー (2)」	大野
平成9年	1月	船越の舞台工事状況の見学	野呂瀬
(1997年)	2月	山下家の茅葺き替え・船越の舞台改修工事見学	大野
	3月	「光妙寺(二子)・大山ふるさと展」見学	三輪

		学習会題目・園外研修	講師 (敬称省略)
	5月	禅宗伽藍について	三輪
	9月	東京たてもの園ボランティアとの懇談会	
	〃	庚申塔について	三輪
	〃	琵琶湖東岸の寺院見学(社寺他14か所)	三輪
	11月	民具の話	増子
	12月	彦部家住宅・桐生明治館見学(群馬県)	
平成10年	2月	彦部家ならび古文書について	三輪
(1998年)	3月	本棟造りについて	三輪
	4月	「京都平安の仏堂を尋ねる研鑽の旅」 (醍醐寺・法界寺他)(有志)	三輪
	5月	清涼寺式釈迦像について	三輪
	7月	山田家の民具について	木下
	〃	「江戸東京たてもの園」見学(2グループ)	木下
	9月	作田家の民具について	木下
	〃	太田家の五傍の高札について	三輪
	10月	広瀬家の民具について	木下
	〃	「観音様と民家集落の旅」(京都近代美術館特別展・ 三井寺・東寺・日本民家集落見学)(合同)	三輪
	11月	太田家展示のわら細工について	木下
平成11年	1月	三澤家当主を迎えての研修会	
(1999年)	5月	伊那部宿を訪ねる研鑽の旅(合同)	三輪
	6月	裁断橋と冥土の旅について	三輪
	7月	鎌倉に古寺と中世石塔を訪ねる(2グループ自主)	
	8月	炉端の会ハンドブックについて	三輪
	〃	ヨーロッパの野外博物館について	大野
	9月	比叡山の建築と文化 I	三輪
	10月	比叡山の建築と文化 II	三輪
	11月	比叡山の建築と文化 III	三輪
	〃	県博「源頼朝」展見学	三輪
	12月	比叡山の建築と文化 IV	三輪
平成12年	1月	日本民家園資料とトイレについて	栗田
(2000年)	2月	天守建築について	丸石
	3月	幕政時代の民家建築の禁令	野呂瀬

		学習会題目・園外研修	講師 (敬称省略)
	4月	住まいの床について	三輪
	5月	長弓寺(奈良県)・靈山寺の建築概要	三輪
	6月	神殿造と書院造について I	三輪
	7月	神殿造と書院造について II	三輪
	9月	神殿造と書院造について III	三輪
	〃	奈良県立民俗公園・民俗博他(合同)	
	10月	民家園の活動について	三輪
	11月	方丈について	三輪
	12月	近世庶民の古文書学習(北海道板カルタ)	三輪
平成13年	1月	敦煌について	三輪
(2001年)	2月	中国ニア遺跡の発掘について	栗田
	3月	座談会	野呂瀨
	4月	蚕影山祠堂・・・宮殿建築について	三輪
	5月	佐地家の門	三輪
	6月	敦煌研修旅行(有志)	三輪
	〃	敦煌雑感と棟持柱木小屋	三輪
	7月	八王子道について	三輪
	8月	伊豆・江川家住宅について	三輪
	9月	願成就院	三輪
	10月	観世音菩薩像について	三輪
	〃	伊豆葎山江川家住宅(合同)	三輪
	11月	聖徳太子の美術について	三輪
平成14年	1月	古文書の学習(かるたとり)	三輪
(2002年)	〃	旧富沢家住宅(多摩市)見学(1グループ)	三輪
	2月	山梨、甘草屋敷(旧高野家)について	三輪
	〃	唐招提寺金堂解体修理見学(有志)	
	3月	東寺のスライド	三輪
	4月	町並み保存について	野呂瀨
	5月	世田谷紀行	三輪
	6月	世田谷紀行と梵鐘	三輪
	7月	「日本美術全集」鑑賞	三輪
	9月	土の話	増渕
	10月	ばんな寺について	三輪

		学習会題目・園外研修	講師 (敬称省略)
	11月	題不明	講師不明
平成15年	1月	文化財防火デーについて	小坂
(2003年)	2月	寛保2年戌の洪水(佐々木家関連)	増渕
	3月	石器堤造事件の顛末	村田
	3月	影向寺組物の組立実習	三輪
	4月	題不明	講師不明
	5月	題不明	講師不明
	6月	さんりんぼうについて	渋谷
	7月	関家住宅をめぐる景観	増渕
	9月	題不明	講師不明
	10月	寺院経済史の変遷・・・影向寺	三輪(元園長)
	11月	遺された文化財から見る地域史 ～麻生区～	三輪(元園長)
	12月	山本家住宅(茨城県鹿島市神俣)・鹿島神宮(合同)	
平成16年	1月	山下家の展示解説(船越舞台関連展示)	渋谷
(2004年)	2月	武蔵野台地の集落と原風景	増渕
	3月	防災関係の話	中川
	4月	古墳時代後期の住居	増渕
	6月	三澤家屋根の板割り(記録ビデオによる)	外山
	7月	作田家の守り札展示について	渋谷
	9月	古民家の基礎知識・復習編 1	外山
	10月	民家園所蔵 大岡資料について	安田
	12月	全国文化財集落施設協議会報告 ー福島市民家園とボランティア活動を中心にー	木下
平成17年	1月	企画展示 蚕影山祠堂について	渋谷
(2005年)	2月	屋根葺き替え工事について	増渕
	〃	臨時学習会 屋根葺き替え見学会 山田家・野原家	外山
	4月	臨時学習会 炉端向け講習会 機織り(数回)、竹細工(4回)、わら細工(火曜随時)、	民技会各グループ
	5月	北海道開拓の村 ボランティア活動を中心に	木下
	〃	臨時学習会(園内を2回に分けて解説)	大野敏(横浜国大)
	6月	〃	〃
	〃	民家園以外の文化財建造物の修理事例 洞口家住宅(宮城県名取市)東北豪農の家	外山

		学習会題目・園外研修	講師 (敬称省略)
	7月	企画展示解説 1 三澤家 薬関係資料を中心に	越川
	9月	企画展示解説 2 三澤家 薬以外のこと	渋谷
	10月	企画展示解説 3 三澤家 薬関係資料を中心に	越川
	〃	「北村家・岩澤家の故郷を訪ねる」	
	11月	民家園以外の文化財建造物の修理事例 望月家住宅(愛知県新庄市)分棟型	外山
	12月	民具の使い方 農作業 脱穀・調整	
平成18年	1月	企画展示解説 1 清宮家 登戸の太子講について	越川
(2006年)	2月	企画展示解説 2 清宮家	渋谷
	3月	考古学からみた建築余話	村田
	5月	徳島県 木村家の移築復原について	外山
	6月	山田家の仏壇について	三輪(元園長)
	7月	広瀬家の民俗資料について 企画展示解説	野口
	9月	博物館資料の保存について	渋谷
	10月	園内解説(前半)	大野敏(横浜国大)
	11月	園外研修 広瀬家	
	〃	園内解説(後半)	大野敏(横浜国大)
	12月	民家園における古民家建築用材の樹種同定調査について 「民家園の民家 どんな木でできているの？」	中尾七重 (武蔵大講師)
平成19年	1月	企画展示 1 菅原家	野口
(2007年)	2月	企画展示 2 菅原家	渋谷
	3月	火事が起きたらどうするか?(防災訓練)	
	5月	近世民家の成立について	安田
	6月	各県を代表する重文(古民家) 東日本編	外山
	7月	日本民家園の誕生と旧伊藤家住宅	野口
	9月	石仏を見てみよう	渋谷
	10月	分棟型の分布と特徴について	安田
	11月	茨城県の民家について	安田
	〃	園外研修 太田家	
	12月	馬の背高について	炉端の会 成島
	〃	塩硝について	炉端の会 松下繁
平成20年	1月	佐々木家のくらし 1 企画展示解説	渋谷
(2008年)	2月	佐々木家のくらし 2 企画展示解説	野口
	3月	災害時の対応	

		学習会題目・園外研修	講師 (敬称省略)
	5月	民家について	安田
	6月	現地に残る各県を代表する古民家 西日本編	外山
	7月	企画展示解説 その1 原家	渋谷
	9月	企画展示解説 その2 原家	渋谷
	10月	佐々木家のくらし 企画展示解説	野口
	11月	春原家住宅 (佐々木家類似) 養蚕農家の特徴	安田
	〃	園外研修 佐々木家の旧所在地をたずねて	
	12月	「野外博物館」スカンセンを見学して	炉端の会 谷野
平成21年	1月	企画展示解説 工藤家	渋谷
(2009年)	2月	佐々木家屋根葺き見学会	外山
	3月	防災訓練(地震・火事)	外山・木下
	5月	建築史家大岡実の設計活動について	安田
	6月	竪穴住居体験記	炉端の会 原田
	7月	企画展示解説 北村家について	渋谷
	9月	たばこ栽培と北村家	野口
	10月	作田家のくらし	渋谷
	11月	千葉県の民家について	安田
	〃	園外研修 作田家の旧所在地を訪ねて	
	12月	佐々木家保存修理工事の概要	外山
平成22年	1月	企画展示解説 鈴木家住宅	渋谷
(2010年)	2月	鈴木家屋根葺き見学会	外山
	3月	太田家焼損小屋見学	
	6月	灯りの歴史	高橋典子 (市民ミュージアム民俗学芸員)
	7月	「韓国の古民家」(韓国民家園見学)	炉端の会 (金曜班 有志)
	9月	「登戸の左官」企画展示について	渋谷
	10月	鈴木家について	渋谷
	〃	民家園の大黒柱	安田
	〃	園外研修 鈴木家	
	〃	燃料について	安田
	12月	茅葺の構造	市川茂(川中工務店)
平成23年	1月	企画展示解説 野原家	渋谷
(2011年)	2月	石仏について	野口

		学習会題目・園外研修	講師 (敬称省略)
	2月	伊藤家屋根葺替見学会	外山
	4月	民家園の思い出、苦労したこと、楽しかったこと	野呂瀬
	5月	江戸時代の金程村	根本
	6月	東日本大震災の経験を活かした避難訓練	木下・畑山
	7月	企画展示解説 神奈川の村 愛甲郡清川村 岩澤家	渋谷
	9月	間取り図から見る岩澤家の暮らし	遠山・畑山
	10月	園外研修予習 三澤家について	渋谷
	11月	園外研修 三澤家	
	11月	民具製作技術保存会の歩み(民技会竹細工グループ)	松島(民技会)
	12月	茅葺屋根の作り方	市川茂(川中工務店)
平成24年	1月	考古学と建築史学の接点	村田(元園長)
(2012年)	2月	屋根葺き見学会 工藤家	外山
	3月	旧井岡家調査報告	渋谷
	5月	山梨県丸石道祖神	畑山
	6月	災害訓練	外山・木下
	7月	河童 -そのイメージができあがるまで-	小澤
	9月	災害訓練 原家前駐車場で囲炉裏消火実験	外山・木下
	10月	園外研修予習 五箇山の暮らし	小坂広志(元園学芸員)
	11月	園外研修 五箇山	
	〃	太田家企画展示解説 1 展示室	根本
	〃	太田家企画展示解説 2 太田家	渋谷
	12月	園外研修報告 五箇山	炉端の会
平成25年	1月	タイ国チェンマイの民家園訪問記	炉端の会 松下繁
(2013年)	2月	菅原家屋根茅葺替見学会	外山・市川茂(川中工務店)
	3月	企画展示解説 山下家	渋谷
	5月	防災訓練	外山・木下
	6月	原家について	外山
	7月	木小屋の聞き取り結果	畑山
	9月	防災訓練 (地震・火災)	外山・木下
	10月	園外研修会学習会 岩手県の古民家	外山
	11月	園外研修 工藤家	
	〃	企画展示解説 -大岡實の建築-	田村
	12月	園外研修会報告会	炉端の会
平成26年	1月	江向家のくらしと民具	小澤

		学習会題目・園外研修	講師 (敬称省略)
(2014年)	2月	広瀬家周辺の道祖神まつり	畑山
	3月	水車小屋の話	畑山
	6月	竹中大工道具館映像作品上映 「大工道具 ーその技と心ー」	畑山
	7月	企画展示解説 大工さんの道具箱	小澤
	9月	古民家にまつわる妖怪	畑山
	10月	園外研修予習 旧菅原家住宅について	渋谷
	11月	園外研修 菅原家	
	〃	渡し場と小屋について	関
	12月	新防災システム紹介と災害訓練 (模擬囲炉裏消火)	外山・木下
平成27年	1月	展示解説 旧山田家	関
(2015年)	2月	工藤家外便所の屋根葺き見学	市川茂(川中工務店)
	5月	旧鈴木家の質問について	外山
	6月	「歴史的建築物維持保存・活用の観点から見た 地方寺院建築の現状と課題 ー横須賀市の事例研究を中心としてー」	原
	7月	企画展示の解説 「むか～し むかしの道具たち ー昔話が伝えるくらしー」	小澤

(編集委員 9期 火曜 吉田)

平成27（2015）年は26の方が、無事研修を終えられました。

配属は、火：5名 水：7名 木：4名 金：2名 土：3名 日：5名となりました。

写真は、いずれも2015年1月17日の研修の様です。

1 原家で集合研修 皆さん少し緊張気味



2 佐々木家前で畑山さんから実地研修



3 山下家2階で関さんから説明を聴く。



4 山下家3階のお室にびっくり。



5 畑山さんの案内で山田家へ。



6 山田家2階もお室だらけ。



（編集委員 10期 土曜 水野）

第6章 20周年記念行事 目次

6-1	記念撮影	6-1
6-2	記念式典	
6-2-1	当日プログラム	6-5
6-2-2	挨拶	
6-2-2-1	会長挨拶	6-6
6-2-2-2	市長挨拶	6-7
6-2-3	園長記念講演	6-9
6-2-4	市長感謝状	6-14
6-2-5	永年活動者名簿	6-15
6-3	懇親会	6-16
6-4	記念植樹	6-17

第6章 20周年記念行事

炉端の会では、平成26年9月28日（日）に「炉端の会20周年記念行事」を行ないました。
当日のプログラムは次の通りです。

09:30～10:00	記念撮影
10:00～14:30	全棟火焚き
15:00～16:30	記念式典（会場：かわさき宙と緑の科学館）
17:30～19:00	懇親会（会場：柏屋）

6-1

記念撮影

当日は好天に恵まれ、佐々木家前庭において、まず全体写真を撮影し、次いで火曜班から順番に曜日班別の記念撮影を行ないました。



6-1-1 全体写真



6-1-2 火曜班



6-1-3 水曜班



6-1-4 木曜班



6-1-5 金曜日



6-1-6 土曜日



6-1-7 日曜日

全棟火焚き

記念撮影終了後、曜日班ごとに分担して、全棟火焚きを行ないました。

分担は、次の通りです。

- 火曜日 広瀬家、太田家、北村家 (高倉の案内)
- 水曜日 清宮家、工藤家、菅原家
- 木曜日 伊藤家、岩澤家 (船越の舞台、蚕影山祠堂の案内)
- 金曜日 山田家、野原家、作田家
- 土曜日 井岡家、佐地家、三澤家 (原家の案内)
- 日曜日 佐々木家、江向家

全棟の囲炉裏に火が入り床上にも上げられる事で、多くの来園者に好評を博しました。

また、草バッタチームが、佐々木家縁側において午前と午後に分かれて草バッタを制作し、来園者にプレゼントして大変喜ばれました。

さらに、火焚き終了間際には、記念式典出席前の福田川崎市長が園長の案内で園内を視察され、野原家では囲炉裏端で炉端の会の会員と歓談されました。



原家 (土曜日)



井岡家 (土曜日)



佐地家供待ち (土曜日)



三澤家 (土曜日)



佐々木家 (日曜日)



江向家 (日曜日)



山田家（金曜班）



野原家（金曜班）



作田家（金曜班）



高倉（火曜班）



広瀬家（火曜班）



太田家（火曜班）



北村家（火曜班）



清宮家（水曜班）



伊藤家（木曜班）



蚕影山祠堂（木曜班）



岩澤家（木曜班）



船越の舞台（木曜班）



工藤家（水曜班）



菅原家（水曜班）



午前の草バッタチーム（金曜班）



午後の草バッタチーム（水曜班）



市長は園長の案内で視察を開始



佐々木家では草バッタを贈られ大喜び



市長は野原家で囲炉裏を囲み、前会長・元副会長・1期の皆さんが対応

（編集委員 11 期 水曜 羽石）

6-2 記念式典

6-2-1 当日プログラム

炉端の会20周年記念式典プログラム

場所： かわさき^{そら}宙と緑の科学館 学習室

時間： 15:00～16:30

司会： 副会長 水野 鉄夫

1. 開会の辞 会長 野田 滋郎 (5分、15:00～15:05)
2. 来賓祝辞 市長 福田 紀彦 (5分、15:05～15:10)
3. 感謝状贈呈 市長 福田 紀彦 (5分、15:10～15:15)
4. 永年活動者表彰 園長 木下 あけみ (25分、15:15～15:40)
5. 活動状況報告 (30分、15:40～16:10)
 - 火曜班代表 小島 順治 (5分)
 - 水曜班代表 浜口 道代・大谷 睦子 (5分)
 - 木曜班代表 吉沢 晴行 (5分)
 - 金曜班代表 加藤 京子 (5分)
 - 土曜班代表 柴田 武・稲村 雅行 (5分)
 - 日曜班代表 井上 文雄 (5分)
6. 記念講演 園長 木下 あけみ (15分、16:10～16:25)
7. 閉会の辞 副会長 鍛冶 慎一 (5分、16:25～16:30)

※来賓として、渡邊教育長、渡部生涯学習部長も出席。

6-2-2 挨拶

6-2-2-1 会長挨拶

20周年記念式典によせて

2014年9月28日

炉端の会 会長 野田 滋郎

今から20年前、平成6年、1994年8月に「炉端の会」は発足いたしました。それから20年、現在では会員数250名を数えるまでになりました。

設立から現在に至るまでの20年間のことは、配布の資料に書いてございますので、ここでは割愛させていただきます。

炉端の会の会員の方々は、人生経験が豊富で知性、知識、教養に溢れ、多くの才能を持ち、積極的で、人柄も良く、ボランティア精神に溢れた方ばかりで、その結果、炉端での活動に於いて充実感、躍動感、生き甲斐、やり甲斐を感じる事が出来る素晴らしい団体です。

「炉端の会」が囲炉裏に火を焚いていないと、まさしく火の消えたような家です。「炉端の会」は民家園だけではなくお客様にとっても、なくてはならない存在になっています。

また、入園者への積極的で親切な対応で、お客様にも満足いただけるように努力し、少しでも民家園のイメージアップと来園者の増加に積極的に努めている積もりで活動しています。

少し自画自賛し過ぎた様な気がしましたが、決してオーバーではありません。これも炉端の会会員の方々と木下園長を始め、園の職員、指定管理者の皆様の努力の賜物と思います。

また、これらの我々の努力が認められ、名誉ある「川崎市文化賞」を受賞することが決まりました。

本日、ご臨席の福田市長を始め、ご来賓の方々にも、「炉端の会」の素晴らしい活動を知って頂く、栄えある機会を持つことが出来たことを大変嬉しく思っております。

本年、川崎市は市制90周年でもあります。炉端の会も20周年という節目をお祝いすると共に、日本民家園も3年後には開園50周年を迎えることとなります。

これを機にますます楽しくやり甲斐、生き甲斐とドキドキ、わくわくする団体として発展するよう、皆様と共に邁進して行きたいと思っております。

ご来賓の皆様および民家園、指定管理者の皆様！

今後とも「炉端の会」の活動を見守っていただくと同時に、ご理解、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

以上、簡単ではありますが、開会の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

以上

6-2-2-2 市長挨拶

「炉端の会」創立 20 周年式典 —— 福田市長祝辞

平成 24 (2014) 年 9 月 28 日

皆さんこんにちは。

ご紹介いただきました川崎市長の福田紀彦でございます。本日はお招きをいただきまして誠にありがとうございます。

炉端の会が創立されてからちょうどこの9月で20周年ということで、この間の皆様のご尽力に心から感謝を申し上げます。

皆様は、このたび川崎市文化賞を受賞されました。この賞は、川崎市が市民の方に贈る最も名誉ある賞といわれております。選考委員会により公平な審査が行われ、多くの候補の中から選ばれております。まさに 20 年間の活動が認められたということで、改めて心からお祝いを申し上げます。

先日、川崎市文化賞の授賞発表記者会見が行われた際に、記者の方から「どの団体や個人の方が印象に残っていますか」というような質問がありました。そこで最初に「炉端の会」の皆様の活動のことをお話しさせていただきました。皆様の活動は幅広く知られているところであり、直接お目にかかったことのない私のところまでずいぶん話が届いておりました。この 20 年間継続して活動を続けてこられた意味というのは本当に大きいことで、文化賞に最もふさわしい方々ではないかというコメントをさせていただきました。これは私個人だけではなく、市民の皆様から見ても「本当にそうだ」と思っていただけの受賞ではないかと思っております。

私にとって、この生田緑地はまさに私が育った場所であります。小学校時代は、土曜日の授業が終わりますと毎週のように自転車でここに来て、プラネタリウムを見た



り、民家園を見たりして過ごしておりました。その時分に比べると、本当に民家園がパワーアップしていると思います。それは、建物の数が増えたということもあるかもしれませんが、やはり血の通ったというか、人の空気感があるというようなことであると感じるからだと思います。本日もわずかな時間ではありましたが園内を周らせていただき、皆様の心温まるガイドにふれ、草バツタをお土産に頂きました。それから囲炉裏で火を焚いていただいでいて、本当にあそこでずっと座っていたかったなと思いました。火の番をされていた方は、私が来るのに合わせてちょうどよい火加減に合わせるのが大変だったとおっしゃっていました。民家園には、国や県の重要文化財が多くありますが、こういった皆様の活動があるからこそ、文化財が本当の意味で豊かなものになっているのだと今日は改めて感じました。

先ほど野田会長がご挨拶された中で若干自画自賛だとおっしゃっていましたが、私は決してそうではないと思います。名簿を見ると 20 年選手の方が 13 名もおられ、15 年、10 年と活動を続けている方もたくさんいらっしゃる。川崎市の財産です、本当に。

3 年後の平成 29 年度は、日本民家園が開園 50 周年となりますし、10 年後の川崎市制 100 周年のときには「炉端の会」が 30 周年ということになります。そのときに 20 年選手あるいは 15 年選手の方々はもちろん、他の皆様もそれぞれプラス 10 年となっているかと思えます。今後もぜひ頑張ってください、この川崎市の持つ素晴らしい財産をさらに豊かにしていただけることを心からお願い申し上げます。そしてまさにプラチナ世代というにふさわしい、輝いている皆様のお顔を拝見でき、本当に嬉しく、ありがたいことだと思っております。これからもこの民家園を守り育て、そしてさらに良いものにしていただくことを心からお願い申し上げまして一言お祝いとお礼の言葉とさせていただきます。

本当にありがとうございます。そしておめでとうございます。

以上

(当日のご挨拶からテープ起こし 編集委員 8 期 水曜 野田 監修：日本民家園)

6-2-3 園長記念講演

「炉端の会のこれからに向けて」 —20周年記念式典講演要旨—

川崎市立日本民家園長 木下 あけみ

炉端の会創立 20 周年、本当におめでとうございます。

民家園を活躍の場とし、文化財建造物の維持保存と来園者への様々なサービスにご尽力いただきまして、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。本来なら三輪先生*1にお話を伺うところですが、ご体調の関係で叶いませんでしたので、微力ながら今後に向けて少しお話をさせていただこうと思います。

1. 「炉端の会」設立のきっかけ、目的

床上公開のきっかけの一つは「雪囲い」展示でした。展示のための現地調査を H4 年 12 月中旬に五箇山・白川地域で行い、同月下旬には民技会の協力を得て山田家の雪囲い展示を実施しました。翌年 2-3 月の毎日曜に、雪囲いの中で試験的に床上公開を行いました。「好評だから今後も実施する」と当時の民家園だよりに書いてあり、H5 年度には山形県朝日村に調査に行き、菅原家で雪囲いも始まりしました。* 2

また「民家園 35 年のあゆみ」の中で三輪先生は、「建物は人が利用し、住むことで普段は特別な措置をしなくても維持されるが、博物館へ移築された建造物は、その段階で展示資料となり、空き家となる。それがいかに重要文化財であると自慢しても、いったん空き家となるとたちまち劣化が進み、特に湿気が強いと廃屋同然となりかねない。」とし、続けて「人の住んでいる状態に可能な範囲で近づける。」「清掃と燻煙、来園者への解説ガイドや囲炉裏を囲んでの団欒、これによって人の気配が蘇ってきた。」と書かれています。* 3

2. 経緯と現状

入門講座実施を経て H6 年 8 月末に炉端の会は正式発足し、その後第 2 グループ・第 3 グループと募集を重ねました。各グループ毎に学習会を含む月例会を行い、大変丁寧に育成・運営されていました。当時の豪華な学芸スタッフによる学習会では、民家だけでなく神社仏閣、考古学、中国やヨーロッパの遺跡の話まで多種多彩だった記録が残っています。

会の年間活動人数は H7 年には 1,000 人の大台に乗り、H13 年度の 2,900 人まで好調でしたが、平成 14・15 年度と少なくなりました。5 年間募集をしていなかったため、会員数の減、特に土日会員の減が原因でした。土日会員の確保は現在に続く課題です。

私が H16 年度に民家園に赴任した時、最初に会の方に言われたのは、「新人募集をして欲しい!」ということでした。しかし職員が 1 人減り、私の技量では、グループごとに月例会・学習会を開催するのは困難でした。また①床上公開棟を増やしたい、②園の活動に市民の方のパワーをもっと発揮していただけないだろうか、とも思ったのです。各グループ長に相談し他の野外博物館のボランティア活動も参考にし、毎年必ず会員募集をし、グループを解消し曜日別に再編することとしました。実は私は以前の市民館勤務などで、会員減で衰退する市民団体をいくつも見聞し、どんなに素晴らしい会でも新人をオープンに受け入れない会は

やがて滅びるという確信を持っていました。新しい会員が定期的に入ることで、人間関係に風が入ります。新しい方は総じて熱心ですので、先輩として頼りにされ、それに応えようと意欲的となり会の活動が活性化されるのではないかと考えました。入門講座は従来の8回から4回とし、不足分の新人育成は先輩方に頼る事としました。

再編する過程で、10年の節目を迎えていた第1グループの半数が勇退されました。「グループ」を「期」という呼び方とし曜日別に再編、H16年9月に土日だけの緊急募集（チラシを近隣施設に撒いたのみ）、12月に平日・土日の募集をしたのが、今日まで続く募集と入門講座のスタイルです。当時の各グループ長、1本化した時の会長など役員の方にも本当にお世話になりました。現在炉端の会がこのように大きくなり活動を続けて来られたのは、1期・2期・3期の方たちが下支えしてくださったお蔭だと思っています。改めて御礼申し上げます。

H17年度には、「協力者会議」ができ、民技会、炉端の会、職員が同じ土俵で話し合い、予算がなくとも、自分達でできることから手を付け始め、少し停滞していた教育普及事業や、広報がテコ入れされました。この時に出た様々な意見は、まだ実現できていないものもあり、例えば、向ヶ丘遊園駅を改名し生田緑地駅にする、雨の日サービス、敬老の日の親子割、等々面白いと思うアイデアが多数あります。

協力者会議から、「お月見をしよう」「お正月を遊ぶ」などの行事や、フリーガイド、英語ガイド、環境整備などの炉端の会のチーム活動が正式に動きだしました。この会議は現在各班長、民技会各グループ長に出席いただいて、年3回、民家園の改善点について意見交換していますので、ぜひ今後もこの会議を活用してほしいと思います。

お陰様にて現在、炉端の会は250余人の会員となり、大変活発な活動を展開されています。詳細は皆様ご承知のとおりですので今日は割愛いたしますが、他都市からの視察でもボランティア活動について聞きたいというオーダーが良く入ります。

3. 今後の活動への期待

10年前に、1日に1-2棟でなく全棟に火を入れたいと夢を語ったら、会の方にも職員にも笑われた私ですが、今日ついに！実現しました。ありがとうございます。夢を語る前に、まず初心を思い出そうとあえて申し上げます。先輩方に大変失礼な言い方をして申し訳ないのですが、どうかご容赦ください。

初心を忘れずに

①最初に民家園にいらした時のことを思い出してください。ゆっくり静かに見たいと思っただ方、人の声がするのでびっくりして恐る恐る民家の中を覗いた方、逆に誰もいなくて道に迷った方、色々だと思えます。つまり、色々なお客様がいらして、お客様の要望に合わせる事がお客様の満足につながる、ということです。会員だけで話し込んでお客様の来訪に気付かないのは、避けたいと思えます。（残念ながら毎年この手のお客様のご意見が園に届きません）。

②民家園に来る前にガイドブックなどをぱらぱらと見ていただいていますか？復習というか予習というか床上公開棟は16・7ありますので、単純に計算すると一巡するのに8ヶ

月かかります。ぜひ事前チェックをお願いします。

③新しい情報をゲットしていますか？ 250人の方と情報を共有するのは、なかなか難しいことです。職員は、例会で、議事録で、毎日のミーティングで、繰り返しお伝えしているつもりですが、なかなか届かないと悩んでいます。炉端の会、民家園はどんどん変わっていきます。例会に出られなかったら議事録をゲットしてください。炉端の会のHPを覗くとか、組長さん・班長さんに欲しいと言ってください。休んでいる会員へさりげなく情報伝達もありがたいことです。

民家園は何のための施設？

民家園はテーマパークではありません、何のための施設か、野外博物館として「使命」を掲げていますので、受付にも掲示してありますので時々見ていただけたらありがたいです。

では、今後に向けて・・・ですが、

交流を！ この会は、家族、職場、地縁などのしがらみがない、民家園が好きという一点で集まっている方ばかりですから、ぜひ色々な方と知り合って仲間として緩やかな交流を図っていただければと思います。

各曜日班の運営は班に任されています。第5週を全員参加日にするとか、さらにその後懇親会をする、あるいは見学会を定期的実施、活動日のミーティングで並んだ順に1234と棟を割り振る 等、班により様々です。面白い試みは、真似してみませんか。

曜日班を越えて、同期の交流、懇親会とか、夏休みの一日を焚く、チーム活動で他の曜日の方と交流 などもできます。

発信を！

ガイド活動（各棟でちょっと説明する、定時ガイド、フリーガイド、団体ガイド、英語ガイド）

ガイドという引く方もいらっしゃるかと思いますが、各棟でちょっと説明する、お客様に声をかけるなど、色々できることがあります。先日「英語でこんにちは」というお役立ちの印刷物も出ましたね。

ガイドの基本は事実を知る、ということです。民家を良く観察する、入門講座でお渡しした資料などを読む、お互いに集めた情報を発表しあう、いろいろな方法で知識を深めていただきたいと思います。例えば例会の後で情報交換会を開くというのはいかがですか？ また、お客様の気持ちに寄り添うというのも基本です。

チーム活動

草バッタチームですが、園外からも来てくれないか打診され好評です。こんなこと民家園でやってみたい・・・ということがありましたら、例会や班別集会で声をあげてみませんか？

折紙チームとか、縫い物チームとか、図書チームとかどうですか？今年梅干しをやってくださったのですが、数人有志が集まった段階でお試しも「あり」です。民家園の「使命」に当てはまるなら実現に向けて班長会や園で検討します。チーム活動があまり知られていない、また入るのにハードルが高い方もおいでのようですが、ぜひ気軽に参加して楽しんで

でいただきたいと思います。

広報チームができ、ビジターセンターへの毎月の掲示、HPの充実ぶり、素晴らしいと思います。お陰様で、炉端の会と民家園の認知度が伸びていてありがたいです。

学びを！

発信しようとするといつも、自分の知識のいい加減さに突き当たります。民家園の刊行物（ガイドブック、目録（民俗報告）、建築修理工事報告書など）、民家の概説本、写真集、専門家の講座も参考になります。他の民家園に行ったり、各地に残る重文民家を見たり、比較すると、色々なことが見えてきます。実は江戸時代の民家については研究する人が少なく、判っていない事がたくさんあります。本により書いてあることが違ったりするので、注意が必要です。1つの情報源だけでなく複数あつたほうが良いですし、分っていないのです、ということも大事だと思います。

発信すると、良いことがあります。数分のちょっとした立ち話でも、30分のガイドでも、たいていの場合、相手はととても喜んでくださいます。炉端の会の方に、釈迦に説法と思いますが、これは快感ですね。私は話すのがとても苦手ですが、相手に感謝されることが続くと本当に嬉しくなります。ガイドをして一番大きい喜びを得るのは、ガイドした本人ではないでしょうか。

少し他都市の博物館の市民活動の紹介をします。

北海道開拓の村（ボランティアの会 200 人、広報事業部、研修事業部、企画事業部などがあり、自由闊達な雰囲気があります。昔のおまわりさんや村人のコスチュームをつけている、演劇で漁村の暮らしを表現、気軽に個人発表をしあう（●●について調べたので●日に●家でお話しします、と予告して話をする）など多彩な活動を展開。）

江戸東京たてももの園（ヒジロ会 200 人、自主活動が活発。入口にボランティアが常駐し、床上公開とともに桜湯の提供、絵はがき作成などを実施。子どもボランティア（ひじろっ子）* 4、地域商店街と大規模な「夕涼み」等の祭りも。）

新しい市民活躍のスタイルとして東京都美術館の試みを紹介します。

「とびらプロジェクト」（美術館を拠点にアートを紹介したコミュニケーションを促進、オープンで実践的なコミュニティの形成を目指すプロジェクト。美術館は文化創出の場。「アート・コミュニケータ」（通称とびラー）を募集。「この指とまれ式」「そこにいる人が全て式」でプロジェクトが動き、「あなたも真珠の耳飾りの少女プロジェクト」「チラシ de うちわ」などを実施。* 5）

博物館は市民の方の学びの場、活躍の場です。継続して、個性や能力を発揮しさらに開花させてください。どうぞ、民家園を大いに活用してください。

今後、ちょっとおめでたいことがあります

まもなく川崎市文化賞を受賞される予定です。大変名誉なことだと思います。また、入園

者数 600 万人達成（12 月か 1 月予定）、H29 年 4 月 1 日には開園 50 周年となります。特に 50 周年はこれから実行委員会を作り、炉端の会や民技会や地域の方と一緒に盛り上げていきたいと考えていますので、よろしくをお願いします。

民家園の今後めざす方向性 長期的には「民家園の使命」の実現です。

民家園は発展途上の博物館です。民家については全国的にもトップクラスの評価を受けていますが、民俗についてはまだ弱いです。民家の中で行われていた暮らしについて、もう少しわかる展示や教育普及活動をしたいと考えています。例えば、今年度に入って新たに、親子が参加できる企画、子どもに判り易いワークショップや企画展示などに取り組んでいます。次世代を対象とした事業です。今やっている企画展示「大工さんの道具箱」も判り易いものを目指しています。さらに、学芸班の職員は全員が何か解説とかワークショップなど来園者に向けての活動を始めています。やっているうちに、よりオリジナリティーと質の高い、あるいは判り易いものができるはず、と思っています。今後は何か炉端の会と一緒に、あるいは炉端の会の発議で、できる事があるのではと思っています。

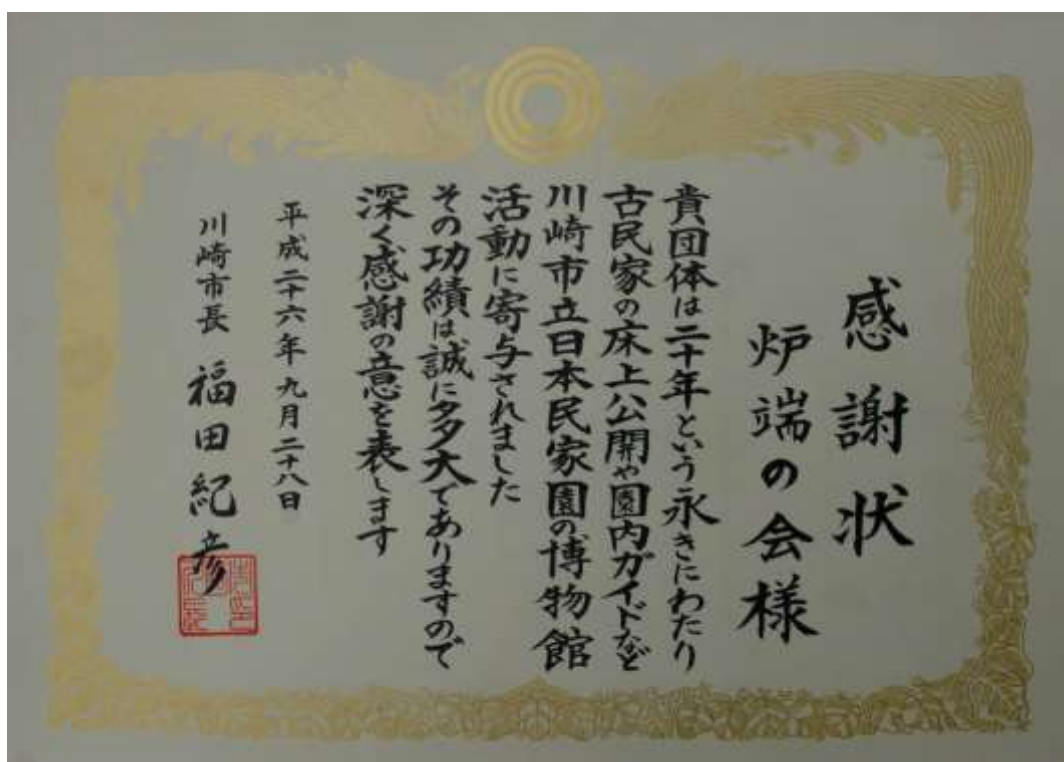
最後に

この炉端の会は、民家園に取って本当に大きな財産、宝物だと思います。会員お 1 人お 1 人の力、会員同士の信頼関係、職員と会員との信頼関係など、最後は人と人の関係にたどり着きます。楽しみながら、緩やかで良いので、善意にみちた信頼関係を築けていけたら良いなあと、と思っています。

元会長さんがおっしゃっていましたが、この会の良いところは、細く長く続けられるところ です。ご家庭の事情、健康状態など続けにくくなる時もあるかと思いますが、休会制度も上手に使っていただき、無理せず、長〜く通っていただければと思います。本物の民家がある、本物の民具がある、四季折々を民家とともに堪能できる、良き仲間がいる、この場所で、今後も素晴らしいご活躍ができますよう、心から祈念いたします。ご清聴ありがとうございました。

H26/9/28

- * 1 H6 炉端の会設立時担当者、後に園長
- * 2 日本民家園叢書 4「日本民家園の雪囲い」（H15. 3） H4 年度「合掌造り民家の雪囲い調査と展示（五箇山・白川地域）」、H5 年度「東北の民家の雪囲い調査と展示（山形県朝日村地域）」
- * 3 「民家園 35 年のあゆみ」（H15. 3） 「日本民家園きのう、きょう」
- * 4 夏休みの 1 週間限定、一日以上参加、小 4-6
- * 5 ここではボランティアではなくプレーヤーと呼んでいる。専門家をサポートする従来のボランティアではなく、美術館と人々を繋げるコミュニケーションをどうやれば深めることができるか、個々人がプレーヤーとなって考え実践する。



表彰会員名(あいうえお順)

20年活動者 (1期)	15年活動者 (3期)	10年活動者 (4・5期)
1. 秋山 和子	1. 阿部 悠子	1. 伊藤 嘉啓
2. 荒川 洋子	2. 大谷 睦子	2. 栗原 茂
3. 大橋 和枝	3. 岡本 節子	3. 後藤 信夫
4. 櫻井 英一	4. 小川 悦子	4. 酒井 明雄
5. 清水 年子	5. 笠原 健至	5. 櫻井 輝夫
6. 大工原益雄	6. 黒田 昭	6. 佐野 一昭
7. 塚田 本子	7. 小林紀久子	7. 霜田 剛正
8. 土屋 孝夫	8. 齊藤 浩子	8. 高橋 久幸
9. 中澤 知子	9. 齊藤 光正	9. 谷垣三千子
10. 中澤 操	10. 佐藤 勝夫	10. 中込 正幸
11. 疋田エツ子	11. 高木 昭	11. 町田久美子
12. 藤森 陽子	12. 田中喜一朗	12. 松下 繁
13. 丸山 栄子	13. 中井有紀子	13. 森本 秀之
	14. 浜口 道代	14. 山内 昭吉
	15. 土方 淳子	15. 吉川 憲二
	16. 布施 克明	16. 芦野 政弘
	17. 谷代 エミ	17. 荒井 節子
	18. 山田 光恵	18. 片桐美代子
	19. 由解 哲男	19. 齊田 勝行
		20. 高埜 良子
		21. 谷野 陽
		22. 津田由美子
		23. 永井 国子
		24. 中島 源充
		25. 松井ヒデ子
		26. 三浦 政治
		27. 矢口喜久江
		28. 湯川加代子
		29. 吉沢 晴行
		30. 吉田 章
OG活動者		
1. 大西百合子 (元1期)		
2. 金子ツヤ子 (")		
3. 落合アヤ子 (")		
4. 山口よし子 (元3期)		
5. 齊藤はる恵 (")		

6-3

懇親会

20周年記念式典最後の懇親会は会場を柏屋に移し17時半から行われました。



1期の清水さんの発声による乾杯でスタート



20周年行事を計画・実行した委員の皆さん



会場のあちらこちらで話が弾んでいました



期・班・グループなど日頃一緒に活躍している人が集まっての写真撮影も多く行われました
(左は経験20年の1期の皆さん+α、右は入会1年目の14期の皆さん)



20周年記念植樹の実施にあたっては園内の何処に植樹をするか、園と共に検討を行い、旧広瀬家の西側庭に植えることになった。植樹場所が決まった後、環境整備チームに植樹する樹木の検討を依頼した。環境整備チームからは植樹場所が甲州市塩山から移築された広瀬家であることから、コウシュウコウメ（甲州小梅：バラ科サクラ属）が良いとの提案を受けた。

20周年記念式典が実施された9月28日（日）は植物の植え替えに適した時期ではないため、記念植樹は翌年3月まで延期され、3月10日の午後、園芸業者の手で旧広瀬家の西側に3本のコウシュウコウメが植えられた。炉端の会としての記念植樹式は4月10日の例会終了後、例会参加者が全員、旧広瀬家の庭に移動し、記念樹の仮立札を設置し、野田会長による鋤入れ式が行われた。この後、野田会長、小林新園長を中心に参加者全員で集合写真を撮り、記念植樹の式典を終了した。

（編集委員 10期 金曜 広瀬）



記念植樹の場所と植樹された3本のコウシュウコウメ



記念植樹仮立札の設置



野田会長による鋤入れ式



記念植樹参加者の集合写真

第7章 川崎市文化賞受賞 目次

7-1	受賞の知らせ	7-1
7-2	贈呈式	7-2
7-3	副賞	7-4

第7章 川崎市文化賞受賞

7-1

受賞の知らせ

昭和47年に制定された川崎市文化賞は、川崎市の文化、芸術、地域社会、市民福祉及びスポーツ等の各分野において、その向上及び発展に尽力し、その功績顕著な個人または団体に対し、贈呈されます。

平成26(2014)年度 川崎市文化賞の炉端の会受賞の知らせが、9月16日(火)市長記者会見により発表され、川崎市政だより 10月1日号にも掲載されました。

以下の写真は受賞の知らせの後、例会の出席者で撮った喜びの写真です。



古民家に息吹を灯す囲炉裏の火

日本民家園の古民家を虫害や湿気から守るために囲炉裏で火を焚き、貴重な文化財を後世に伝える活動を行う、今年で設立20周年を迎えたボランティア団体です。会員は250名以上、年間活動日数も250日を超え、精力的に活動しています。

囲炉裏で火を焚く活動のほか、囲炉裏端でお客様を迎える床上公開や、団体ガイドなどを行うほか、有志による障子張りや英語ガイド、広報をはじめとするさまざまな活動を行っており、日本民家園には無くてはならない存在です。

(贈呈式当日に配布された炉端の会紹介の資料より)

(編集委員 10期 土曜 水野)

贈呈式及び祝賀会は以下の通り行われました。（招待状より抜粋）

日 時	平成26年11月10日（月）14:00～16:00
会 場	川崎市国際交流センター（川崎市中原区木月祇園町2番2号） 044-435-7000（代）
内 容	13:00 集合（式典の御説明等） 呈茶（お茶室でお茶と小菓子を用意しております） 14:00～15:00 贈呈式・記念撮影（ホール） 15:00～16:00 祝賀会（レセプションルーム、立食形式） ※祝賀会の時に、受賞者お一人ずつに簡単なお言葉（2分程度）をいただく予定です。

贈呈式には市長・副市長・市議会議長などが列席し、福田市長より川崎市文化賞等を受賞した7名・2団体に対して賞状、副賞、記念品が手交されました。贈呈式では賞状等の手交の後、記念写真撮影が行われました。（炉端 HP より）

受賞者の皆さん



受賞後、出席者全員で記念写真を撮影



野田会長受賞の様様



15時から行われた祝賀会では各受賞者から簡単な挨拶がありました。炉端の会では会長が1期で最高齢の会員と前に立って挨拶をする予定でしたが、司会より祝賀会に参列した会員全員が前に出るよう促され、全員でお礼をしました。(炉端 HP より)

懇親会での挨拶



贈呈式・祝賀会は、班長、歴代会長、広報、草創期のメンバーが出席しました。

平成 26 年度 川崎市文化賞 贈呈式参加者			
	選出枠	氏名	所属班
1	会長	野田滋郎	水曜班
2	副会長	鍛冶慎一	金曜班
3	副会長	水野鉄夫	土曜班
4	歴代会長	櫻井輝夫	日曜班
5	歴代会長	吉沢晴行	木曜班
6	班長	吉田清美	火曜班
7	班長	大村八洲雄	木曜班
8	班長	吉川憲二	土用班
9	班長	伊藤嘉啓	日曜班
10	1期	清水年子	土曜班
11	1期	荒川洋子	金曜班
12	2期	林宏祐	木曜班
13	3期	山田光恵	金曜班
14	広報	川島康夫	金曜班
15	広報	広瀬民雄	金曜班
	民家園	木下	
	民家園	畑山	

(編集委員 10期 土曜 水野)

市長から頂いた賞状



クリスタルトロフィー 実は大変重くて落としそうに…



第8章 資料 目次

8-1	20年歴史年表	8-1
8-2	炉端の会活動状況	8-7

年度		1992	1993	1994	1995
項目		H4	H5	H6	H7
炉端の会	トピックス & 主な経過、公開時サービス 充実 【②③の日曜に雪囲い展示に合わせ園職員等で床上公開試行】	公開ボランティア有志発足(炉端の会と命名) ⑨民家公開ボランティア学習会、床上公開は⑩⑪金～日に2棟(多摩文化財愛護ボランティアも協力)、⑫-③雪囲い2棟日曜	炉端の会正式発足、曜日毎に1日1-2棟の床上公開開始 ④-⑥日曜床上公開、⑧養成講座設立総会・会則、⑨活動開始、②土日班追加募集 【雪囲い山田家は多摩ポが担当】 ④追加加入者活動開始⑤総会(以後1Gは夏に総会) 【雪囲い公開は多摩ポと川崎市文化財友の会(～H21)】
	ガイド活動				⑥団体ガイド開始(平日、広報無)
	行事協力			小学校向け体験学習協力	民家園まつり増棟開始
	主な園外研修(旧所在地)			影向寺(高津区)	大善寺(山梨県)、東寺・東大寺(奈良県)他
	グループ長・会長			今村(1G、～H10)	
	新規会員数(年)		(14)	50	20
	活動人数(年)		(169)*2	(33)+816	1,560
	床上公開棟数(年)		(80)*2	(17)+152	272
	同利用者数(年)		(28,774)*2	(13,701)+25,504	50,909
	同団体数(年)		記録なし(上記に含まれる可能性有)	(記録なし同左)+38	80
日本民家園	トピックス	本館オープン・原家(学習棟)公開開始。25周年。民家園まつりを春から秋(10-11月)に変更。11/3に民俗芸能公演*1。雪囲い(山田家)開始と床上公開試行、太田家焼損復旧完成、三澤家屋根補修	民家園講座開始(主催、財団・文建協共催)、雪囲い棟2棟(菅原家開始、日曜床上公開)、棟持柱の木小屋移築復原、ガイドブック刊行、広瀬家屋根葺替、職員(園長除く)は川崎市設立財団*3へ派遣(～H17)	日本建築学会賞受賞、蚕影山祠堂・船頭小屋・水車小屋・木小屋・高倉が市指定に。古建築サロン、大岡文庫目録刊行開始、入園者数減少傾向(～H10)	日韓民家研究シンポジウム開催、お茶席の会開始、野原家屋根葺替
	炉端の会担当		(三輪)	三輪	三輪
	建築担当	野呂瀬、大野	野呂瀬、大野	野呂瀬、大野	野呂瀬、大野
	民俗担当	小坂、増子	小坂、増子	小坂、増子	増子
	学芸・炉端補助／新担当	佐藤・砂川・高橋・杉山(非)	砂川・高橋・杉山(非)	砂川・高橋・杉山(非)	砂川・高橋・杉山(非)
	園長	小野	小野	小野	小林
	入園者数(年)	109,735	109,654	99,750	96,087

人名敬称略。【 】は炉端の会以外の床上公開。()は炉端の会正式発足前の床上公開。⑤等○数字は月表示。(非)は非常勤。屋根補修は全面葺替のみ記載。*1民俗芸能公演一覧は民家園叢書8巻末資料参照。*2 H5年度統計には雪囲い棟含む、H6以降は含まない *3財団名は変更。川崎市市民ミュージアム、同博物館振興財団、同生涯学習振興事業団、同生涯学習財団など

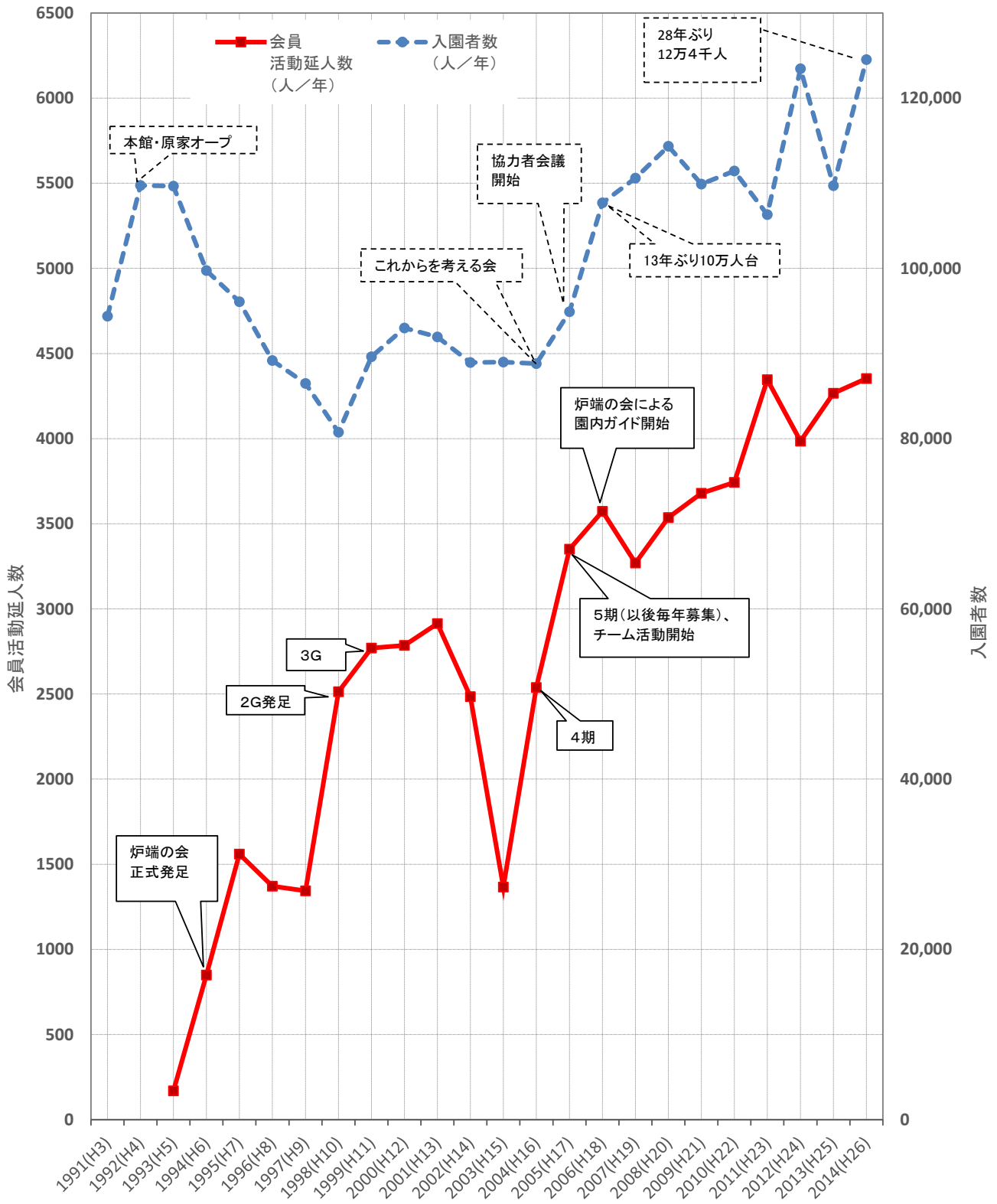
項目	年度	1996	1997	1998	1999
		H8	H9	H10	H11
炉端の会	トピックス & 主な経過、公開時サービス 充実 3周年記念で三澤家裏の花壇手入れ開始(～H16.2)	会員減(特に土日班) ②③養成講座	2G(土日は平日班が交替で実施) ④2G活動開始、例会・学習会はG毎に実施(～H16半ば)	3G(土日班設置) ⑥-⑧講座 ⑨3G活動開始
	ガイド活動				
	行事協力		30周年応援(増棟)		子ども生活体験講座協力(大工、米、民具コース)
	主な園外研修(旧所在地)	近江の国(石山寺他、滋賀県)	彦部家(群馬県)	平安の仏像、日本民家集落博(大阪)他	三澤家
	グループ長・会長			林(2G、～H16)	大沢(1G、～H16.8) 遠藤(3G、～H16)
	新規会員数(年)	—	—	51	55
	活動人数(年)	1,372	1,344	2,513	2,770
	床上公開棟数(年)	273	271	522	562
	同利用者数(年)	47,043	45,359	70,356	77,056
	同団体数(年)	105	354	265	267
日本民家園	トピックス	古民家解説ツアー(～H10)、津軽三味線(～H11、以後時々)、山田家が県指定に。	30周年、民家園講座充実(5本、以後3-4本継続)、記念写真展、人形浄瑠璃公演開始、佐地門が市指定に。	蚕影山の祭り(年中行事)再現、「丸太から柱ができるまで」開始、民家園叢書刊行開始、江向家屋根葺替	子ども生活体験講座(文部省委嘱)、いけばな展示会、サクソフンの調べ、岡本太郎美術館開館、奥門オープン、入園者数横ばい(H11～16)
	炉端の会担当	三輪	三輪	杉田	杉田
	建築担当	大野、野呂瀬(非)	大野、野呂瀬(非)	大野(～9月)、野呂瀬(非)	丸石(文建協より派遣)、野呂瀬(非)
	民俗担当	増子	増子	増子	栗田
	学芸・炉端補助／新担当	木下、砂川・竹本(非)	木下、砂川・竹本(非)	木下、中川、竹本・阿部(非)	中川、三輪・竹本・阿部(非)
	園長	小林	小林	三輪	荻沼
	入園者数(年)	89,175	86,474	80,750	89,633

年度		2000	2001	2002	2003
項目		H12	H13	H14	H15
炉端の会	トピックス & 主な経過、公開時サービス 充実				「市民パートナーシップかわさき」より表彰、会員減
	ガイド活動				
	行事協力				①船越舞台内部公開開始
	主な園外研修 (旧所在地)	大和郡山(奈良県立民俗博他)	伊豆菰山 (旧江川家)	彦部家	山本家(茨城県)
	グループ長・ 会長				
	新規会員数 (年)	—	—	—	—
	活動人数(年)	2,785	2,914	2,485	1,366
	床上公開棟数 (年)	566	581	565	281
	同利用者数 (年)	82,182	82,041	86,174	39,027
	同団体数(年)	323	278	301	192
日本民家園	トピックス	展示会「日本のにわとり」、農村歌舞伎公演、邦楽、原家が市指定に。船頭小屋屋根葺替	入園料値上げ(子どもは無料に)、民家園寄席、小泉家外便所移設、伊藤家屋根葺替	35周年、昔話・コンサート、写真展、初の夜間公開	企画展示・収蔵品目録刊行開始、企画展示「船越」、長雨による傾斜地亀裂で奥門半年閉鎖、高倉屋根葺替
	炉端の会 担当	杉田	杉田	杉田	杉田
	建築担当	丸石(同左)、野呂瀬(非)	丸石(同左)、野呂瀬(非)	丸石(同左)、野呂瀬(非)	田中(同左)
	民俗担当	栗田	栗田	小坂	澁谷、小坂(再)
	学芸・炉端補助 ／新担当	中川、三輪・竹本・阿部(非)	中川、三輪・阿部(非)	中川、増淵、三輪・阿部(非)	中川、増淵／三浦(非)
	園長	市川	市川	村田	伊藤
	入園者数(年)	93,012	91,949	88,942	88,986

年度		2004	2005	2006	2007
項目		H16	H17	H18	H19
炉端の会	トピックス & 主な経過、公開時サービス 充実	10周年、記念植樹(サンシュユ)、会員募集再開、4期、民家園のこれからを考える会、市制80周年記念表彰受賞、糠拭再開 ⑨合同例会、ボ講座、障子ボラ、⑩4期(土日のみ)活動開始、環境整備ボラ、⑪行事ボラ、①②ボ講座(以後毎年同じ)、①朝ミーティング開始、②年中行事ボラ	Gと期を統合し曜日班に再編、5期、協力者会議開始、障子張り・環境整備・英語ガイド・フリーガイド各チーム発足(従来の諸活動ボラをチームに。) ④5期活動開始(以後毎年同じ)、炉端向け物づくり体験(民技会)⑤お茶摘み・製茶開始	6期 展示チーム発足、民具着用体験・石臼体験開始、 ⑪ー③冬期平日のお茶サービス試行(～H23)	7期 薪割り・運搬への協力開始、雨天時学校向け昼食場所提供開始・船越公開時期を11/3前に。 ④園内ガイド(祝日午後)試行 ⑥同上(日午後)試行
	ガイド活動		④団体ガイド(平日)広報開始、⑩団体ガイド(土日)開始、英語ガイド・フリーガイド開始	④園内ガイド(土午後)開始	⑩園内ガイド(日祝午後)開始
	行事協力		⑦昔話火焚き⑨お月見をしよう①お正月を遊ぶ 開始	小学校体験協力	
	主な園外研修 (旧所在地)	なし	北村家、岩澤家	広瀬家、上条集落、旧高野家	太田家、旧塙家、大場家
	グループ長・ 会長	土屋(1G世話役、9月～)	由解	由解	由解
	新規会員数 (年)	22	26	26	30
	活動人数(年)	2,539	3,351	3,573	3,270
	床上公開棟数 (年)	557	625	749	810
	同利用者数 (年)	75,923	101,687	109,373	130,768
	同団体数(年)	308	234	527	536
日本民家園	トピックス	企画展示「作田家」「蚕影山」、「民家園のこれからを考える会」発足	企画展示「三澤家」「清宮家」、協力者会議発足、園内ガイド(職員)、入園者数漸増へ、三澤家屋根葺替、山田家屋根葺替	市直営に戻る。伝統工芸館の移管と西門オープン。開園時間延長(3-10月)、企画展示「広瀬家」「菅原家」、古民家夜間公開再開	40周年記念展「むかしむかしかわさきで-伊藤家」、企画展示「佐々木家」、高齢者有料化(川崎市民除く)、年間パスポート開始再開
	炉端の会 担当	木下	木下	木下	木下
	建築担当	外山、安田(非)	外山、安田(非)	外山、安田(非)	外山、安田(非)
	民俗担当	澁谷、越川(非)	澁谷、越川(非)	澁谷、野口(非)、今井(非)	澁谷、野口(非)
	学芸・炉端補助 ／新担当	増淵／三浦(非)	吉野／三浦(非)	／三浦(非)	／三浦(非)
	園長	伊藤	諸節	岸	岸
	入園者数(年)	88,804	94,901	107,701	110,606

項目	年度	2008	2009	2010	2011
		H20	H21	H22	H23
炉端の会	トピックス & 主な経過、公開時サービス 充実	8期 10周年(2期)、本館に炉 端本棚開設、かわさき市 民活動フェア参加(～H22)	9期 15周年 10周年(3期) ④園内ガイド(平日、土日 祝午前)試行	10期 旧所在地を訪ねる園外研 修が宿泊に。	11期 民家園まつり(11/3)に全 棟焚き開始
	ガイド活動		⑫園内ガイド(土日祝午前) 開始②同上(平日)開始		
	行事協力				
	主な園外研修 (旧所在地)	佐々木家、海野宿	作田家、旧尾形家	鈴木家、福島市民家園	三澤家、奈良井宿
	グループ長・ 会長	櫻井	櫻井	吉沢	吉沢
	新規会員数 (年)	21	29	38	33
	活動人数(年)	3,536	3,679	3,743	4,347
	床上公開棟数 (年)	901	879	962	1060
	同利用者数 (年)	137,966	129,107	129,429	153,877
	同団体数(年)	685	584	646	773
日本民家園	トピックス	企画展示「原家」「工藤 家」、生田緑地サマーナイ トミュージアム	企画展示「北村家」「鈴木 家」、生田緑地サマー ミュージアム開始、協議会 による外部評価開始、 佐々木家屋根葺替、鈴木 家屋根葺替	企画展示「登戸の左官」 「野原家」、総合防災工事 開始(～H26)、③東日本 大震災で臨時閉園	企画展示「岩澤家」「井岡 家」、旧所在地交流事業 開始(南砺市)、工藤家屋 根葺替
	炉端の会 担当	木下	木下	畑山	畑山
	建築担当	外山、安田(非)	外山、安田(非)	外山、安田(非)	外山、田村(非)
	民俗担当	澁谷、野口(非)	澁谷、野口(非)	澁谷、野口(非)、遠山(非)	澁谷、遠山(非)、根本(非)
	学芸・炉端補助 ／新担当	／富樫(非)	／富樫(非)	／富樫(非)	／富樫(非)
	園長	岸	岸	木下	木下
	入園者数(年)	114,350	109,907	111,457	106,323

項目	年度	2012	2013	2014	2015
		H24	H25	H26	H27
炉端の会	トピックス & 主な経過、公開時サービス 充実	12期 広報チーム発足 多摩区「まちカツ！」参加	13期 15周年(2期) 炉端の会ホームページ運営開始 公開棟(一部)での昼食場所提供開始、原家番開始(平日、解説・炉端文庫整頓)、生田緑地マネジメント会議加入	14期 20周年(記念行事)、15周年(3期)、10周年(4・5期)、川崎市文化賞受賞、草バッチャチーム発足、薪作業再開、昼食場所提供棟増、多摩区観光協会加入 20周年記念行事・記念誌編集委結成。 記念式典当日に佐地家も火焚き(囲炉裏・かまどのある全棟実現)	15期 こども民家園検定開始
	ガイド活動				
	行事協力		春にも船越舞台公開(継続)		草バッチャを作ろう
	主な園外研修 (旧所在地)	白川郷・五箇山(江向・野原・山田家)	工藤家、千葉家	萱原家、旧遠藤家、旧澁谷家、みちのく公園ふるさと村	
	グループ長・ 会長	近藤	近藤	野田	野田
	新規会員数 (年)	15	31	17	26
	活動人数(年)	3,985	4,266	4,353	
	床上公開棟数 (年)	1028	1109	1098	
	同利用者数 (年)	130,372	118,055	147,325	
	同団体数(年)	647	651	741	
日本民家園	トピックス	45周年、企画展示「太田家」「山下家」、交流事業(笠間市、南砺市)、原家に炉端文庫設置、菅原家・船頭小屋屋根葺替、防災工事による部分閉園、科学館リニューアルオープン	生田緑地全体(4施設)の施設維持管理に指定管理者制度導入(I期~H29)、学芸・統括は市直営)、企画展示「大岡實の建築」「江向家」、交流事業(南砺市)、古民家カフェ、なでしこ講座等指管事業開始、多言語パンフ10か国語達成、水車修理	総入園者数600万人達成、企画展示「大工さんの道具箱」「山田家」、交流事業(南砺市、甲府市)、鈴木家耐震工事完成、蚕影山祠堂屋根葺替	企画展示「昔話の民具」「育児の民具」、交流事業(南砺市、甲府市)、三澤家耐震工事開始
	炉端の会 担当	畑山	畑山	畑山	畑山
	建築担当	外山、田村(非)	外山、田村(非)	外山、田村(非)	外山、原(非)
	民俗担当	澁谷、根本(非)、小澤(非)	澁谷、小澤(非)	澁谷、関、小澤(非)	澁谷、関、小澤(非)
	学芸・炉端補助 ／新担当	／富樫(非)	／富樫(指)	柳／富樫・佐藤(指)	柳／佐藤(指)
	園長	木下	木下	木下	小林
	入園者数(年)	123,453	109,710	124,527	—



編集後記

炉端の棚に保存されている過去10年平成16年からの例会議事録や学習会資料と、炉端の会創立当初からの1G、2G、3Gの資料は木下前園長から提供して頂き、平成6年（1994年）9月から平成27年（2015年）7月までに実施された学習会・園外研修のほとんどの題目・講師名を調べることが出来ました。

ビクターセンターのテーブルに資料を積み上げ、ファイルを1枚1枚めくり学習会の記載を探す作業は大変でしたが、実施が確認出来ただけで239回、20年の歴史を実感できました。

9期 火曜 吉田 清美

記念誌編集委員の皆さんは、会員および民家園等の協力を得て、素晴らし「炉端の会 20周年誌」作り上げました。

その成果として、炉端の会の草創期の状況も良く分かる様になりました。この編纂作業では、編集委員の皆さんが各々の能力を最大限に発揮され、当初の想定をはるかに上回る内容の濃い記念誌として、また貴重な資料となりましたことを大変誇りに思います。

炉端の会の皆さまには折に触れご覧いただければ、我々記念誌編集委員の大いなる喜びとなることでしょう。

8期 水曜 野田 滋郎

「炉端の会」20周年の節目に、少しでも記念行事と記念誌作成の手伝いができて良かったと思っています。

記念誌の編集では電子版での発行となり、パソコン技術が無いため他の委員の方々に御迷惑をおかけしましたが、編集委員会に参加してみて、「炉端の会」の「長い歴史」と「活動の幅の広さ」を改めて実感しました。

11期 水曜 羽石 一夫

設立以来の歩みや多岐にわたる活動内容を記録に残しておく好機であると思い、編集に参加しました。作業は原稿依頼、執筆、校正、編集、会議等多岐にわたりましたが、「炉端の会」の詳しい活動内容を纏めることができ、多少は貢献できたと思います。

11期 木曜 長谷川 益男

炉端の会 20年誌実行委員として関れた事に対し大変嬉しく光栄に思い関係の皆さまに深く感謝とお礼を申し上げます。

PC技術の未熟さにより戦力として大きな貢献は出来ませんでした。会議には極力出席、発言をする様にしました。

実行委員の皆さんは常に前向きに問題を捉え、会議では喧々諤々の意見が飛び交い、厄介で面倒な事でも積極的に取り上げて20年誌に反映され内容が充実して行く様子には、正しく感心しました。

また私より人生のはるか先輩で80歳近い方がPCテクニックを駆使、色んな事に逃げないで積極的に取り組まれる様を身近に見て自分の人生の素晴らしい手本として大いに勉強になり炉端の会のメンバーになって本当に良かったなと心から思いました。

炉端の会の皆様とは未だ未だ長いお付き合いになるとと思いますがどうぞ宜しくお願い申し上げます。

9期 金曜 鍛治 慎一

途中より、広報の一員として参加する事になりました。

まだ発足して、約3年余りの広報チームですがその間、広報メンバーの活躍による「炉端の会」様々なイベントなどの集材記事、写真や広報物などを20周年誌の編集に役立てる事が出来たので広報チームとして喜んでおります。

10期 金曜 川島 康夫(広報)

編集委員会に広報の力も欲しいとの事で、途中から参加しました。その段階では編集委員長だけが全容を把握しており、編集委員は進捗状況がよく見えていませんでした。そこで、HPの中に編集委員だけが見る事が出来る20周年誌専用のページを作り、集まった原稿をHP化して、進捗状況を編集委員の中で共有できるようにしました。これにより、編集作業の進捗に多少なりとも貢献できたのではないかと考えています。

10期 金曜 広瀬 民雄(広報)

20年誌の編集委員に加えていただき「ああでもない、こうでもない」と楽しく、充実した一年間を送ることができました。

歴代会長のインタビューや活動の歴史などを担当し、「会員のみなさまが絶えず新しい試みに挑戦してきたことにより今日の炉端の会があるのだ」と痛感しました。

13期 金曜 布野 俊一

21年前(H6)の5月4日、1人で2,292人のお客様の対応！会発足前の有志の公開日誌の数字です。添えられた「嬉しい」のコメントに、立ち上げ時の熱い思いを感じました。編集委の間で飛び交う紳士的？淑女的？簡潔メールには、何とか形に残そうよ！との熱意（と締切のプレッシャー）が乗り、毎日PCを開けるのが楽しみでした。

15期 日曜 木下 あけみ

平成26年度は、炉端の会が20周年を迎えた年です。前年からの引き継ぎで、20周年記念行事として、記念式典・記念植樹・記念誌の作成の3つを大きなイベントとして行うこととなりました。このうち、記念式典と記念植樹は滞りなく執り行うことが出来ましたが、一時はどうなる事やら、と思ったのが記念誌の作成でした。

いくら例会・班長会で協力を要請しても、写真や記事が集まらないのです。これを救ってくれたのが、20周年記念イベント実行委員（現在は20周年記念誌編集委員に改名）の地道な努力でした。

写真の発掘やインタビュー等、各委員の奮闘により資料が集まるにつれ、判ってきた事があります。それは草創期の頃、炉端の会の在り方を諸先輩が模索しながら少しずつ確立された事です。今はそのルールに乗って活動していますが、改めて今までの先輩方のご苦労にお礼申し上げたいと思います。

最後に、本の編集という慣れない仕事に対し、各自工夫して活動頂いた編集委員各位、そしてweb上での公開に尽力いただいた広報チーム各位、民家園の側からさまざまな面で便宜を図って頂いた畑山職員・柳職員に深く感謝申し上げます。

平成27年8月吉日 編集責任者 10期 土曜 水野 鉄夫

編集委員

9期	火曜	吉田 清美	10期	金曜	川島 康夫（広報）
10期	火曜	飯久保 武夫（広報）	10期	金曜	広瀬 民雄（広報）
8期	水曜	野田 滋郎	13期	金曜	布野 俊一
11期	水曜	羽石 一夫	10期	土曜	水野 鉄夫
11期	木曜	長谷川 益男	9期	日曜	井上 文雄
11期	木曜	大村 八洲雄	15期	日曜	木下 あけみ
9期	金曜	鍛冶 慎一			



炉端の会

作成・編集

「炉端の会」20周年記念誌編集委員会